

小田原市男女共同参画市民意識調査 報 告 書

令和 2 年 2 月

小 田 原 市

I 調査の概要

1. 調査の目的	3
2. 調査の方法	3
3. 調査内容	3
4. 回収結果	3
5. 報告書の見方	3
6. 標本誤差	4
7. 回答者の属性	5

II 調査結果

1 男女共同参画（社会）に関する意識について	11
（1）男女共同参画に関する言葉の認知度	11
（2）各分野における男女の地位の平等感	13
（3）女性がもっと増える方がよいと思う役職	18
（4）女性のリーダーが増えることによる影響	21
（5）政策決定の場に女性の参画が少ない理由	23
（6）固定的性別役割分担意識についての考え	25
（7）固定的性別役割分担意識に賛成する理由	28
（8）家庭の仕事の分担について	31
（9）育児休業や介護休業を取得する男性が少ない理由	40
（10）男性の家事・育児参加についての考え	44
2 出産・育児に関する意識について	48
（1）出産・育児についての考え	48
3 女性の活躍推進に関する意識について	51
（1）女性が職業を持つことについての考え	51
（2）女性が働き続けるために必要だと思うこと	54
4 性の多様性について	57
（1）セクシュアル・マイノリティ（LGBT等）の認知度	57
（2）性について悩んだ経験と身近に悩んでいる人の有無	59
（3）セクシュアル・マイノリティの方々にとって、生活しやすい社会だと思うか	61
（4）セクシュアル・マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策	63

目 次

5	DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する意識について	65
（1）	暴力として認識される行為	65
（2）	暴力を受けた経験	75
（3）	暴力を受けたことの相談の有無	77
（4）	暴力を受けたことの相談先	78
（5）	暴力を受けたことを相談しなかった理由	79
（6）	DVの被害をなくすために必要だと思うこと	80
6	ハラスメントに関する意識について	82
（1）	職場や家庭などでハラスメント（嫌がらせ）を受けた経験	82
（2）	セクシュアル・ハラスメントだと思うこと	85
（3）	ハラスメントの被害をなくすために必要なこと	98
7	男女共同参画社会に関する行政への要望について	101
（1）	「男女共同参画社会」を実現するために必要な取り組み	101
Ⅲ	自由意見	107
Ⅳ	使用した調査票	115

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

令和2・3年度の2か年で予定している「(仮称) 第3次おだわら男女共同参画プラン」の策定に向けて、男女共同参画事業の施策形成の基礎資料とするため、市民の意識等を調査することを目的に実施した。

2. 調査の方法

- (1) 調査地域 小田原市全域
- (2) 調査対象 市内在住の満18歳以上の男女（外国籍住民を含む）
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送調査法（郵送に準じた配布－郵送回収）
- (6) 調査期間 令和元年11月14日～11月29日
- (7) 調査機関 株式会社エスピー研

3. 調査内容

- (1) 男女共同参画（社会）に関する意識について
- (2) 出産・育児に関する意識について
- (3) 女性の活躍推進に関する意識について
- (4) 性の多様性について
- (5) DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する意識について
- (6) ハラスメントに関する意識について
- (7) 男女共同参画社会に関する行政への要望について

4. 回収結果

- (1) 回収数 1,061人
- (2) 回収率 35.4%

5. 報告書の見方

- (1) 図中の「n」は、各質問の回答者数を示す。
- (2) 集計は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100%にはならず、0.1%の範囲で増減することがある。
- (3) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (4) クロス集計の図では、分析軸となる質問（性・年齢別、職業別など）に無回答だった人および性別で「その他」と答えた人については掲載していない。そのため、各層のnの合計が総数とは一致しない場合がある。
- (5) 本文や図中の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (6) 回答者数が30に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていない場合がある。

6. 標本誤差

標本調査を行ったため、調査結果には統計上の誤差（標本誤差）が生じることがある。無作為抽出法を用いた場合の標本誤差（信頼度を 95%とした場合）は以下の式により求められる。

$$(\text{標本誤差}) b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \quad \left[\begin{array}{l} N = \text{母集団 (小田原市全体)} \\ n = \text{比率算出の基数 (サンプル数)} \\ p = \text{回答比率} \end{array} \right]$$

Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなすことができるので、調査結果の標本誤差の範囲は、以下の標本誤差早見表のとおり求められる。

標本誤差早見表（信頼度：95%）

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,061	±1.84	±2.46	±2.81	±3.01	±3.07
900	±2.00	±2.67	±3.06	±3.27	±3.33
700	±2.27	±3.02	±3.46	±3.70	±3.78
500	±2.68	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47
300	±3.46	±4.62	±5.29	±5.66	±5.77
100	±6.00	±8.00	±9.17	±9.80	±10.00

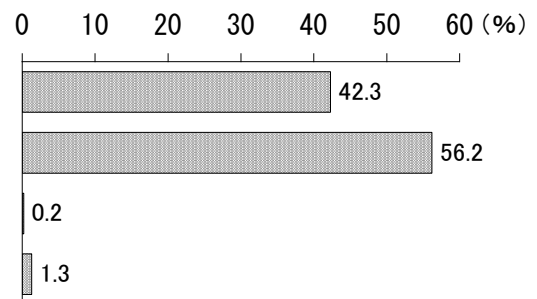
注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数が 1,061 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.01%以内（56.99～63.01%）である」とみることができる。

7. 回答者の属性

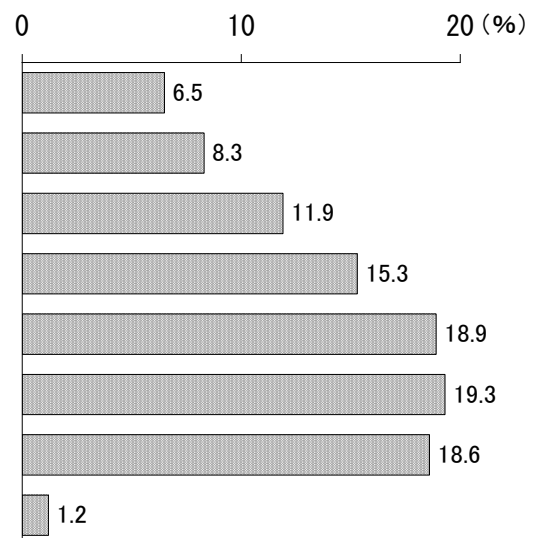
(1) 性別

	基数	構成比
男 性	449	42.3%
女 性	596	56.2
その他	2	0.2
無回答	14	1.3
合 計	1,061	100.0



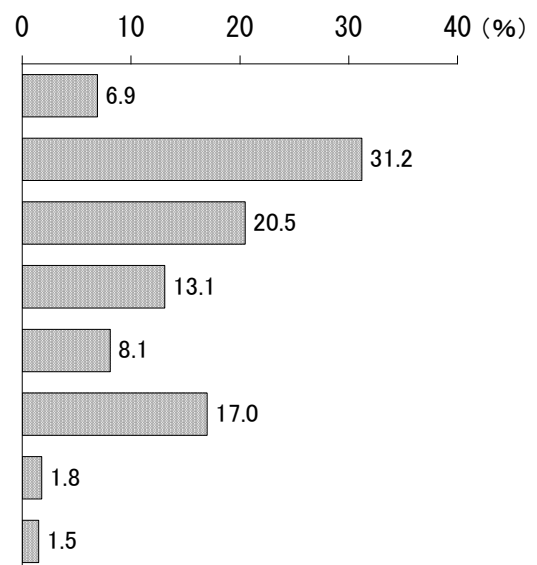
(2) 年齢

	基数	構成比
10 代	69	6.5%
20 代	88	8.3
30 代	126	11.9
40 代	162	15.3
50 代	201	18.9
60 代	205	19.3
70歳以上	197	18.6
無回答	13	1.2
合 計	1,061	100.0



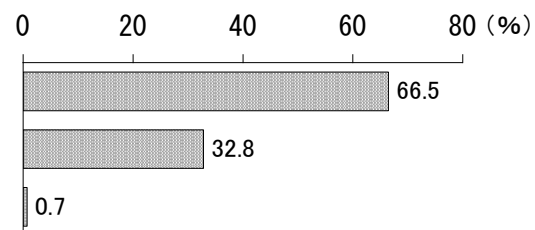
(3) 職業

	基数	構成比
自営業	73	6.9%
正社員・正規職員	331	31.2
パート、アルバイト、派遣社員等の非正規社員・職員	217	20.5
専業主婦・専業主夫	139	13.1
学 生	86	8.1
無 職	180	17.0
その他	19	1.8
無回答	16	1.5
合 計	1,061	100.0



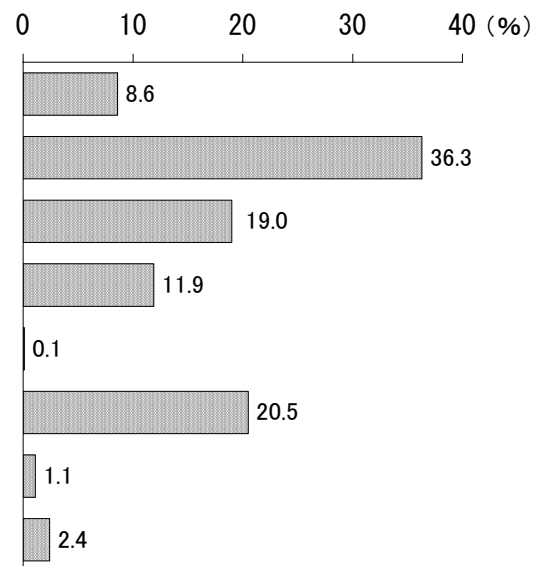
(4) 婚姻状況

	基数	構成比
している(事実婚・パートナーを含む)	706	66.5%
していない(離別・死別を含む)	348	32.8
無回答	7	0.7
合 計	1,061	100.0



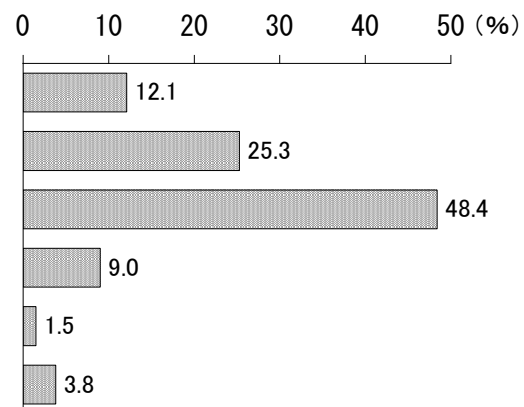
(5) 配偶者・パートナーの職業

	基数	構成比
自営業	61	8.6%
正社員・正規職員	256	36.3
パート、アルバイト、 派遣社員等の非正規社員・職員	134	19.0
専業主婦・専業主夫	84	11.9
学 生	1	0.1
無 職	145	20.5
その他	8	1.1
無回答	17	2.4
合 計	706	100.0



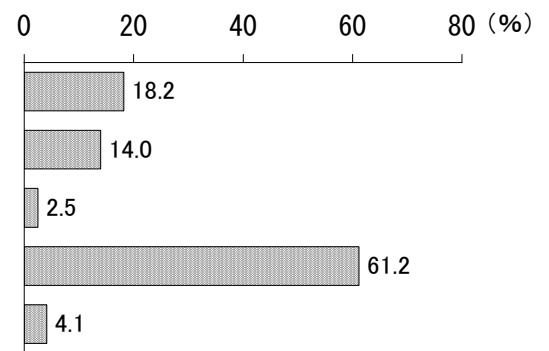
(6) 家族構成

	基数	構成比
単 身	128	12.1%
夫婦のみ(事実婚・パートナーを含む)	268	25.3
2世代世帯(親と子ども、夫婦と親など)	513	48.4
3世代世帯(祖父母と親と子など)	96	9.0
その他	16	1.5
無回答	40	3.8
合 計	1,061	100.0



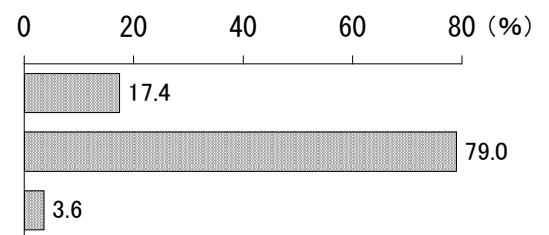
(7) 中学生以下の子どもの人数

	基数	構成比
1 人	111	18.2%
2 人	85	14.0
3 人以上	15	2.5
いない	373	61.2
無回答	25	4.1
合 計	609	100.0



(8) 介護が必要な家族の有無

	基数	構成比
い る	185	17.4%
いない	838	79.0
無回答	38	3.6
合 計	1,061	100.0



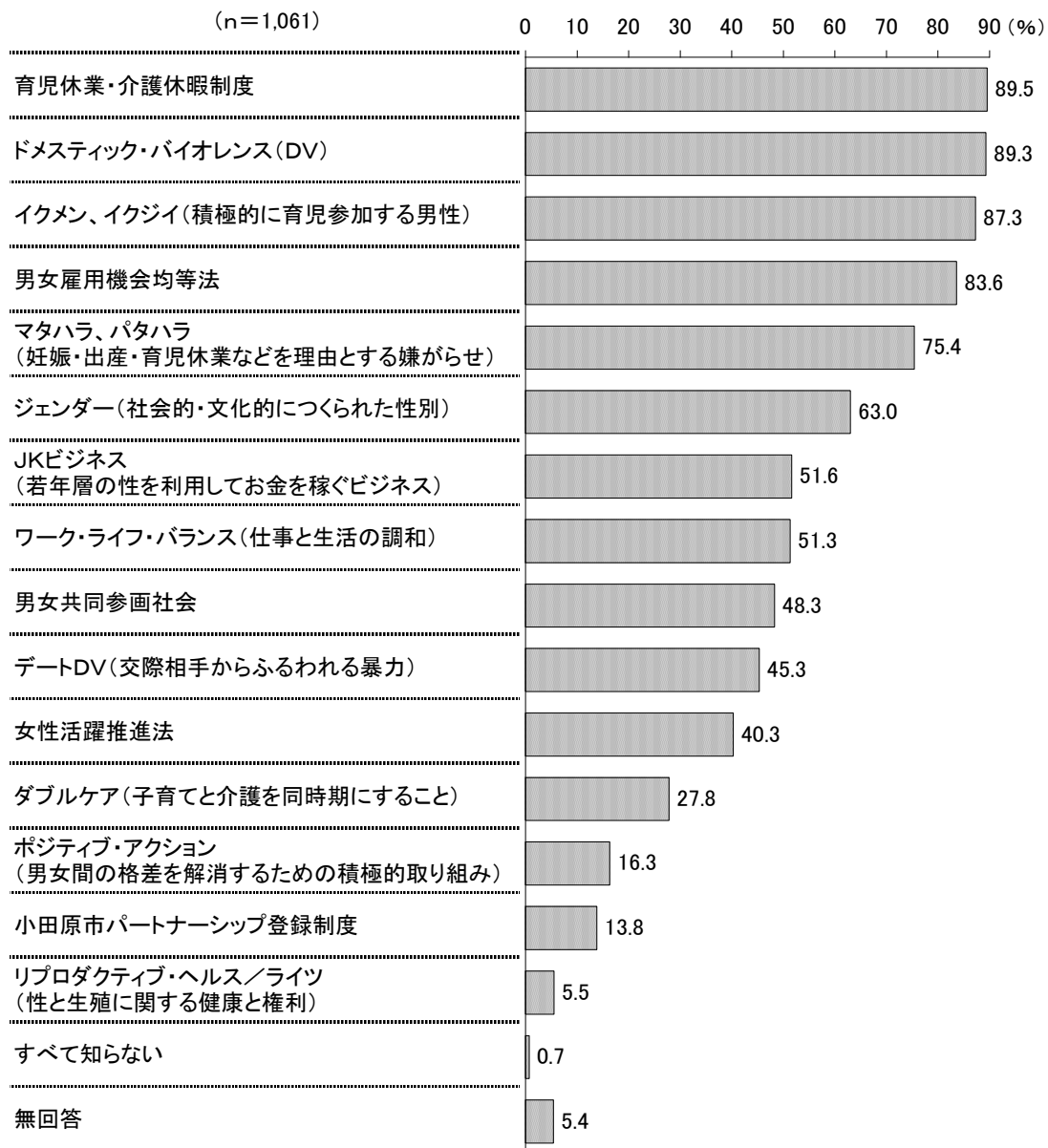
Ⅱ 調 査 結 果

Ⅱ 調査結果

1 男女共同参画（社会）に関する意識について

（１）男女共同参画に関する言葉の認知度

問１ 男女共同参画に関する次の言葉のなかで、あなたが知っているまたは聞いたことがある言葉すべてに○をつけてください。

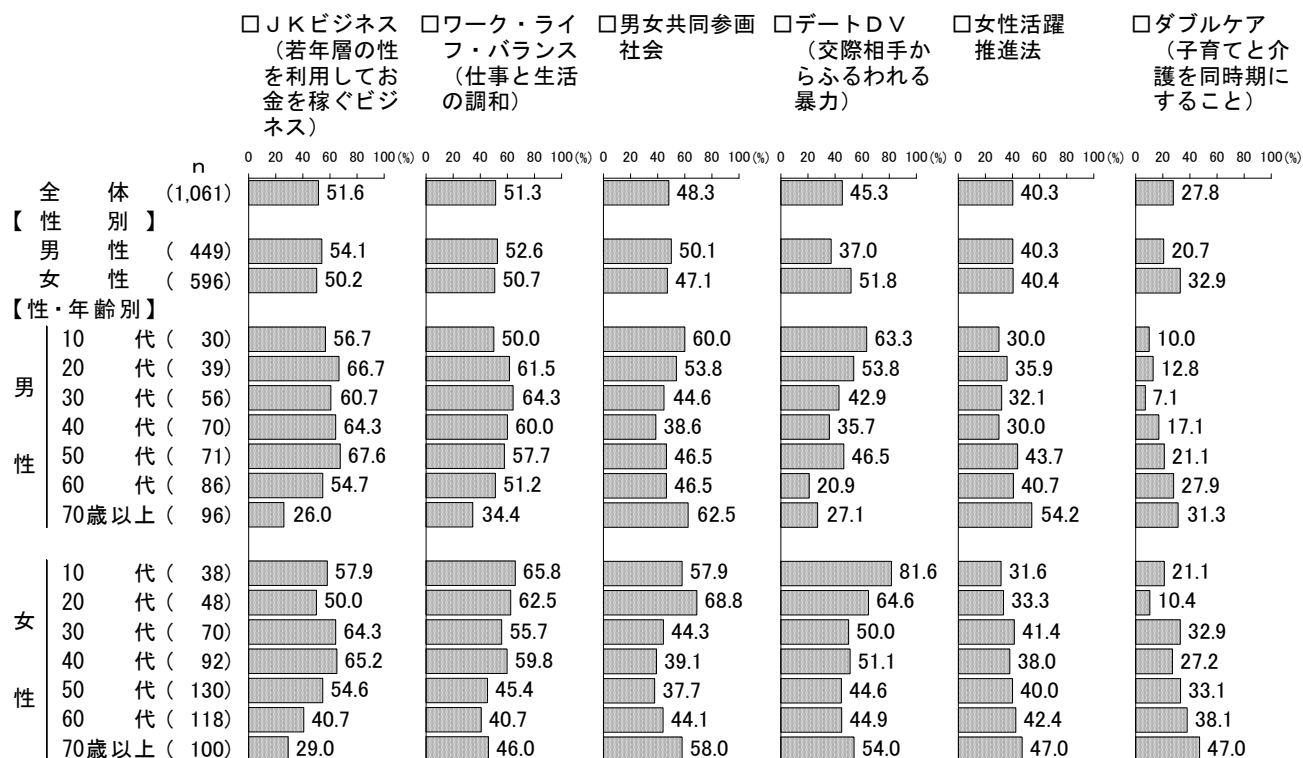
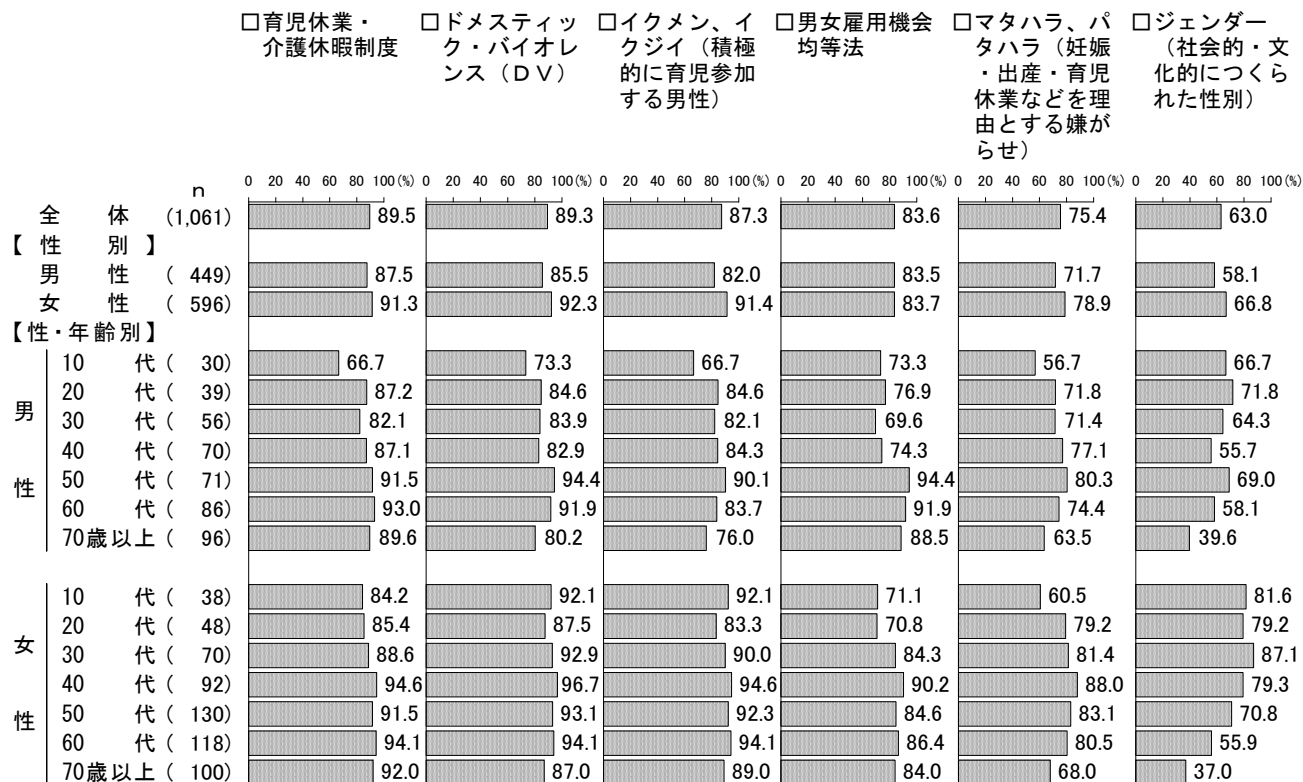


男女共同参画に関する言葉の認知度を聞いたところ、「育児休業・介護休暇制度」が89.5%で最も高く、次いで「ドメスティック・バイオレンス(DV)」(89.3%)、「イクメン、イクジイ(積極的に育児参加する男性)」(87.3%)、「男女雇用機会均等法」(83.6%)となっている。

<性別、性・年齢別>（上位12項目）

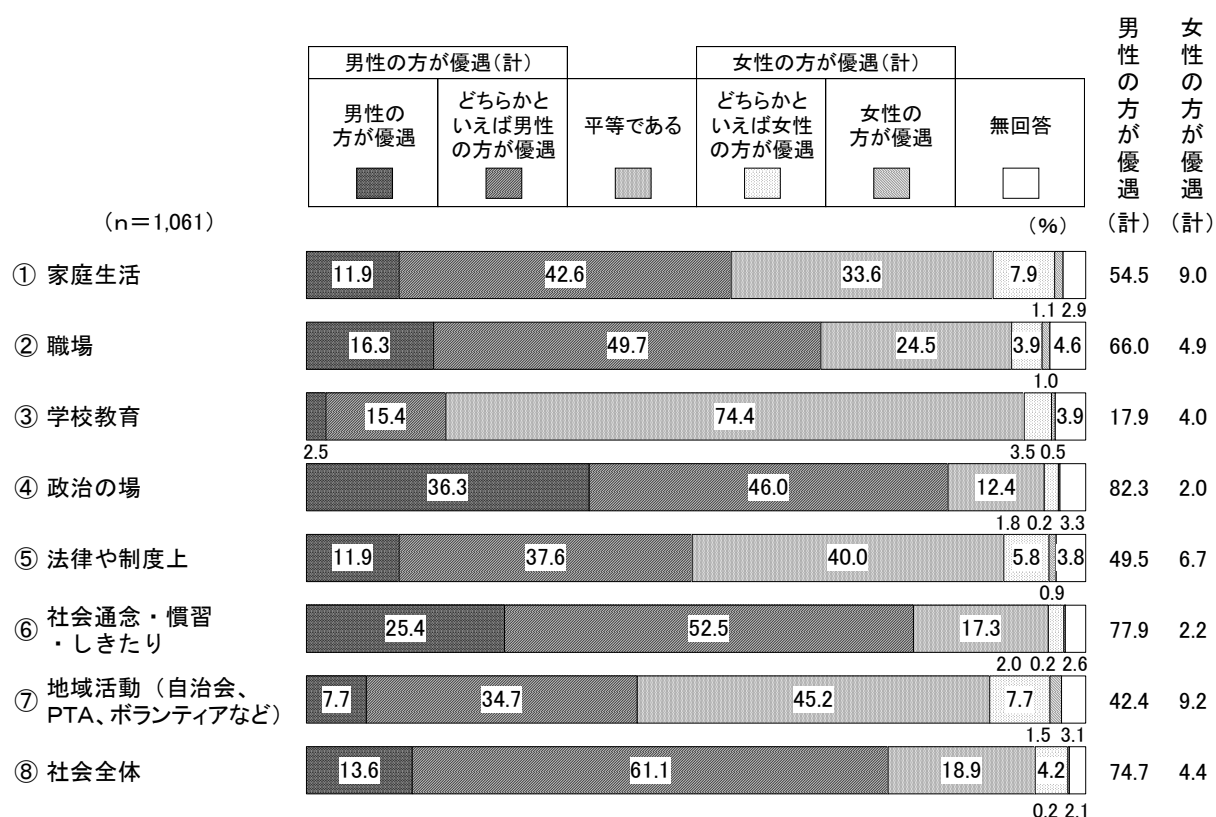
性別でみると、「デートDV」は女性（51.8%）が男性（37.0%）より14.8ポイント、「ダブルケア」は女性（32.9%）が男性（20.7%）より12.2ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「男女雇用機会均等法」は男性の50代（94.4%）と60代（91.9%）、女性40代（90.2%）で高くなっている。「マタハラ、パタハラ」は女性40代（88.0%）で高くなっている。「デートDV」は女性10代（81.6%）で高くなっている。



(2) 各分野における男女の地位の平等感

問2 次の①から⑧の各分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。



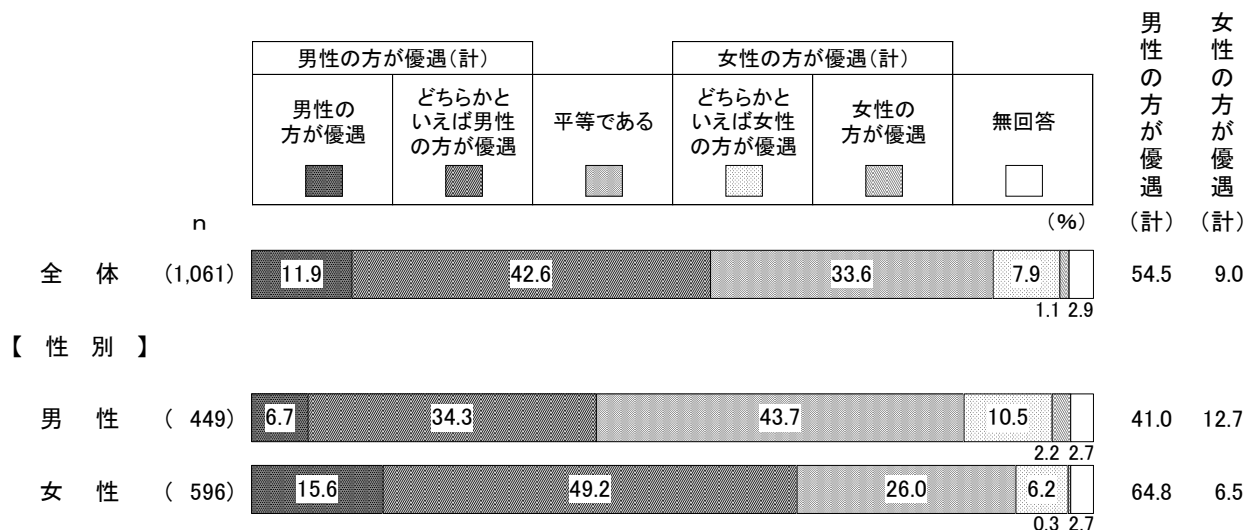
男女の地位は平等になっていると思うかを、8分野について聞いたところ、「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」を合わせた『男性の方が優遇(計)』は“政治の場”が82.3%で最も高く、次いで“社会通念・慣習・しきたり”(77.9%)、“社会全体”(74.7%)となっている。

一方、「どちらかといえば女性の方が優遇」と「女性の方が優遇」を合わせた『女性の方が優遇(計)』は“地域活動(自治会、PTA、ボランティアなど)”が9.2%で最も高く、次いで“家庭生活”(9.0%)となっている。

また、「平等である」は“学校教育”が74.4%で最も高く、次いで“地域活動(自治会、PTA、ボランティアなど)”(45.2%)、“法律や制度上”(40.0%)となっている。

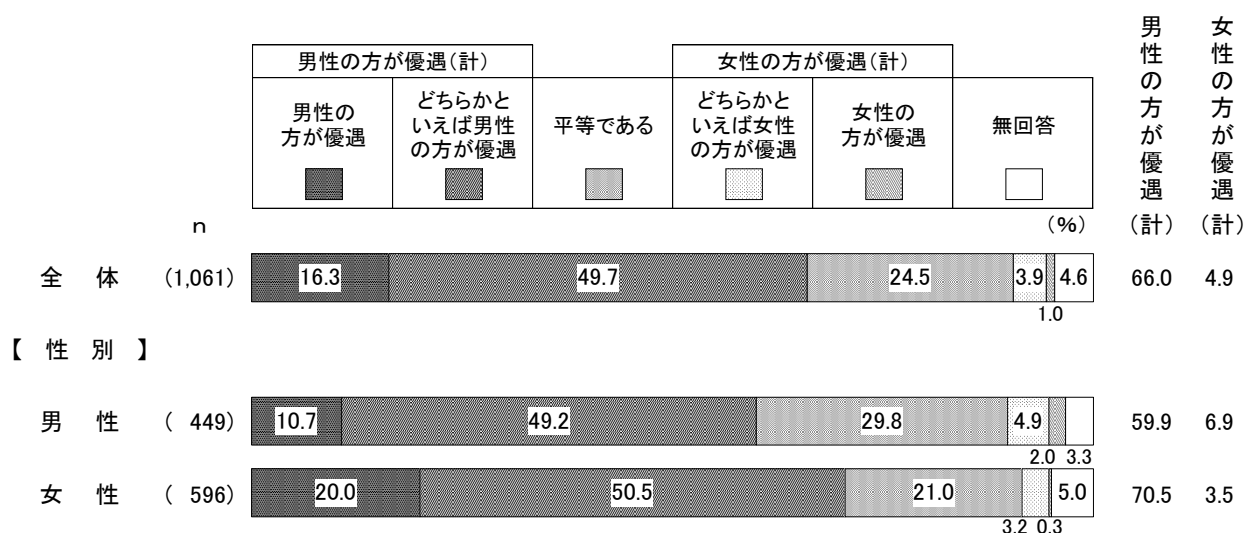
<性別> ①家庭生活

家庭生活について、性別でみると、『男性の方が優遇（計）』は女性（64.8%）が男性（41.0%）より23.8ポイント高くなっている。一方、「平等である」は男性（43.7%）が女性（26.0%）より17.7ポイント高くなっている。



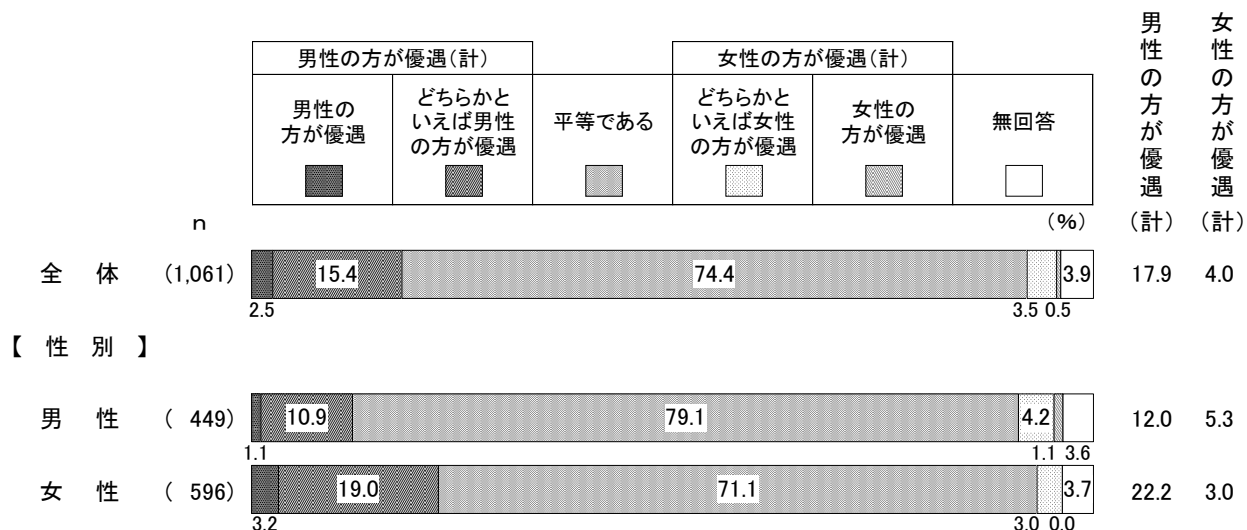
<性別> ②職場

職場について、性別でみると、『男性の方が優遇（計）』は女性（70.5%）が男性（59.9%）より10.6ポイント高くなっている。一方、「平等である」は男性（29.8%）が女性（21.0%）より8.8ポイント高くなっている。



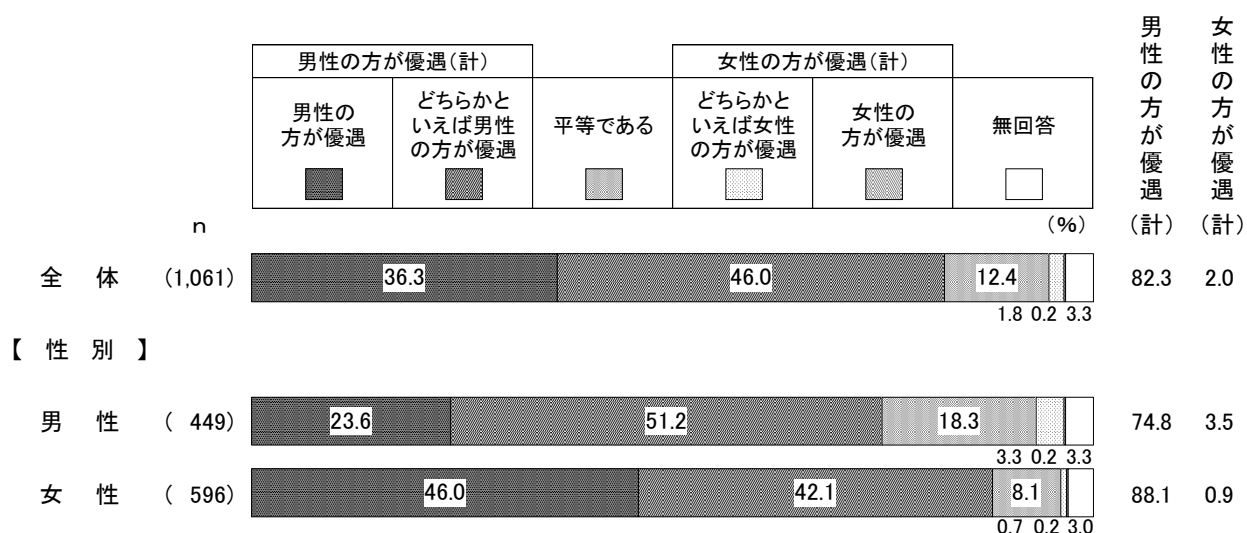
<性別> ③学校教育

学校教育について、性別でみると、『男性の方が優遇（計）』は女性（22.2%）が男性（12.0%）より10.2ポイント高くなっている。一方、「平等である」は男性（79.1%）が女性（71.1%）より8.0ポイント高くなっている。



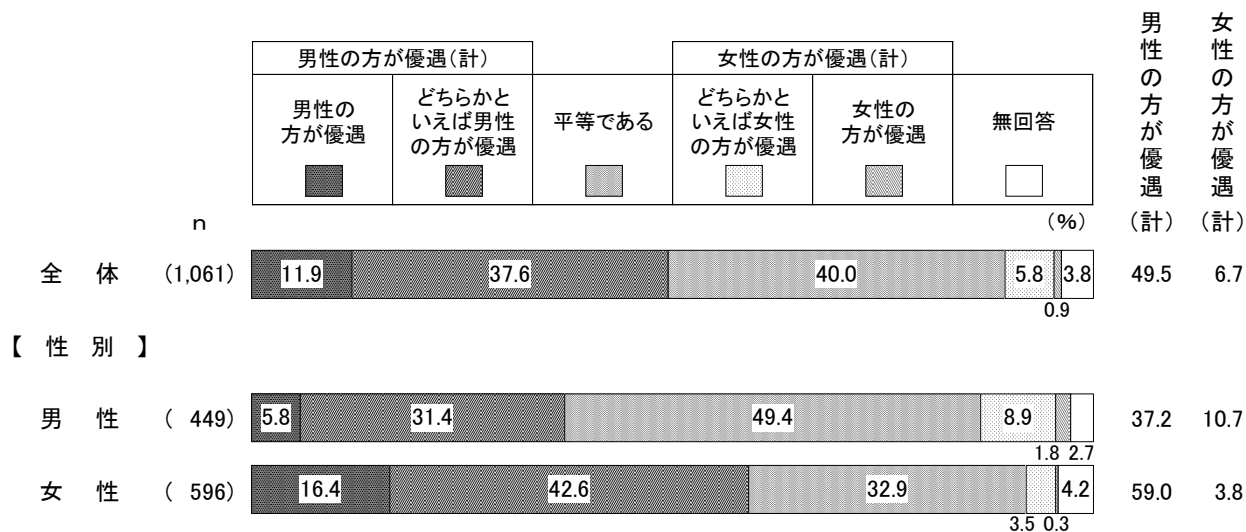
<性別> ④政治の場

政治の場について、性別でみると、『男性の方が優遇（計）』は女性（88.1%）が男性（74.8%）より13.3ポイント高くなっている。一方、「平等である」は男性（18.3%）が女性（8.1%）より10.2ポイント高くなっている。



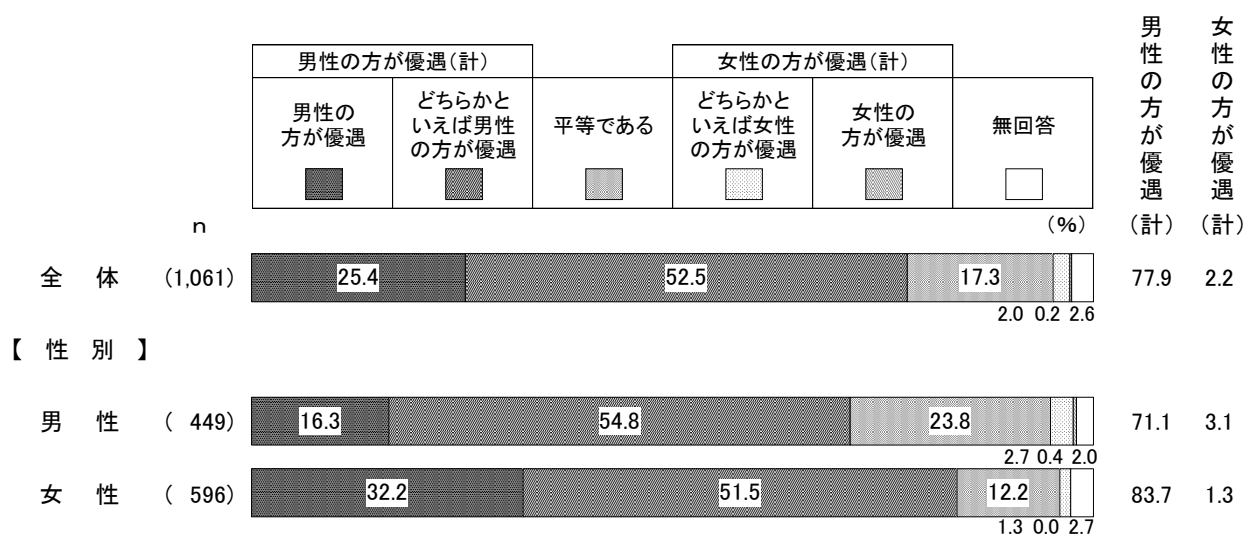
<性別> ⑤法律や制度上

法律や制度上について、性別でみると、『男性の方が優遇（計）』は女性（59.0％）が男性（37.2％）より21.8ポイント高くなっている。一方、「平等である」は男性（49.4％）が女性（32.9％）より16.5ポイント高くなっている。



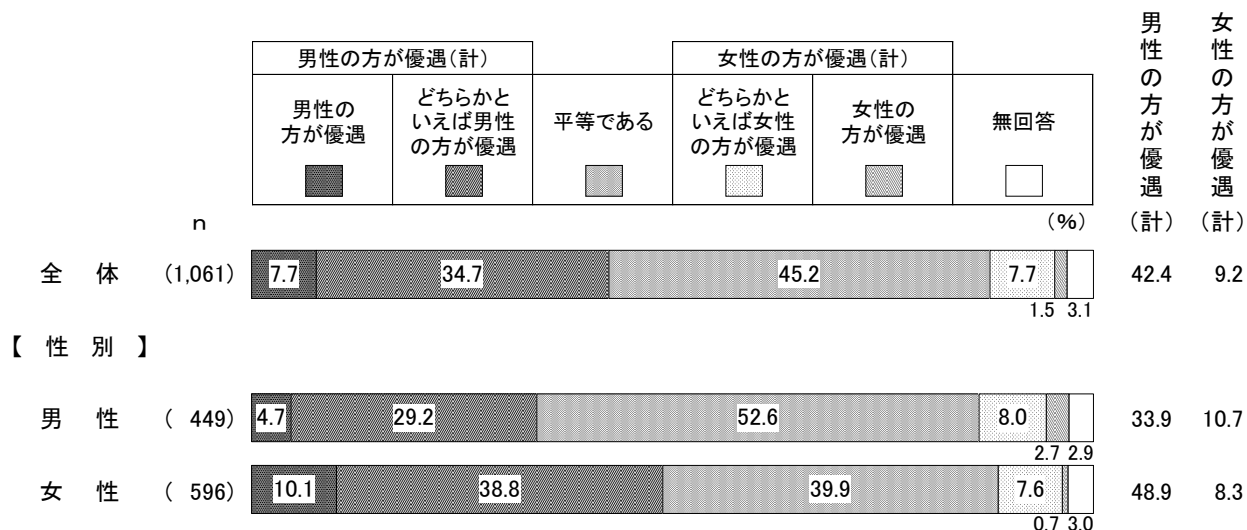
<性別> ⑥社会通念・慣習・しきたり

社会通念・慣習・しきたりについて、性別でみると、『男性の方が優遇（計）』は女性（83.7％）が男性（71.1％）より12.6ポイント高くなっている。一方、「平等である」は男性（23.8％）が女性（12.2％）より11.6ポイント高くなっている。



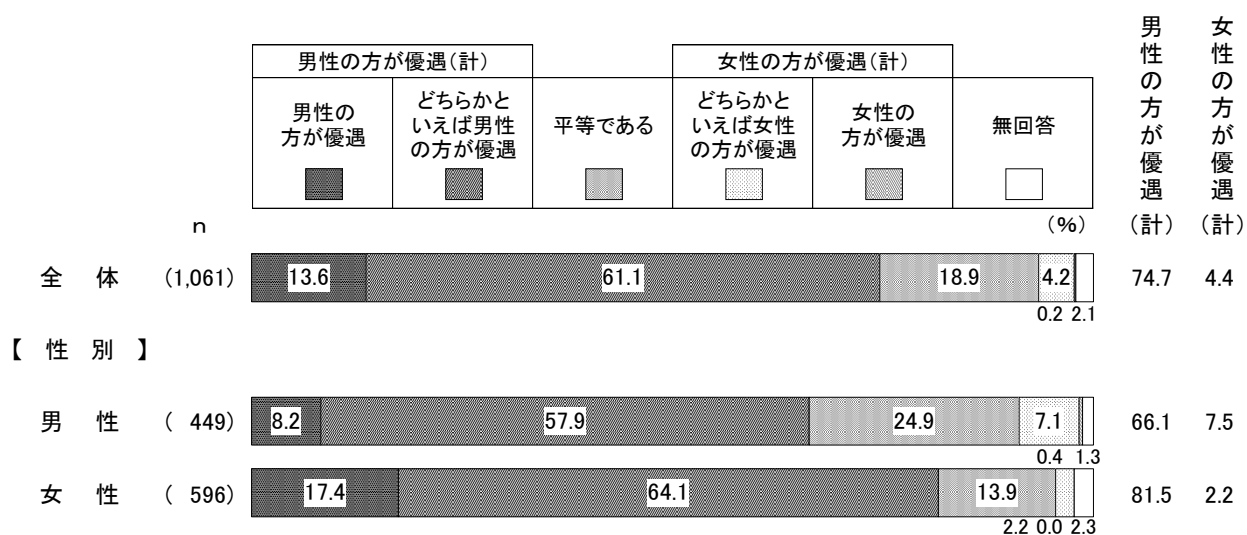
<性別> ⑦地域活動（自治会、PTA、ボランティアなど）

地域活動について、性別でみると、『男性の方が優遇（計）』は女性（48.9％）が男性（33.9％）より15.0ポイント高くなっている。一方、「平等である」は男性（52.6％）が女性（39.9％）より12.7ポイント高くなっている。



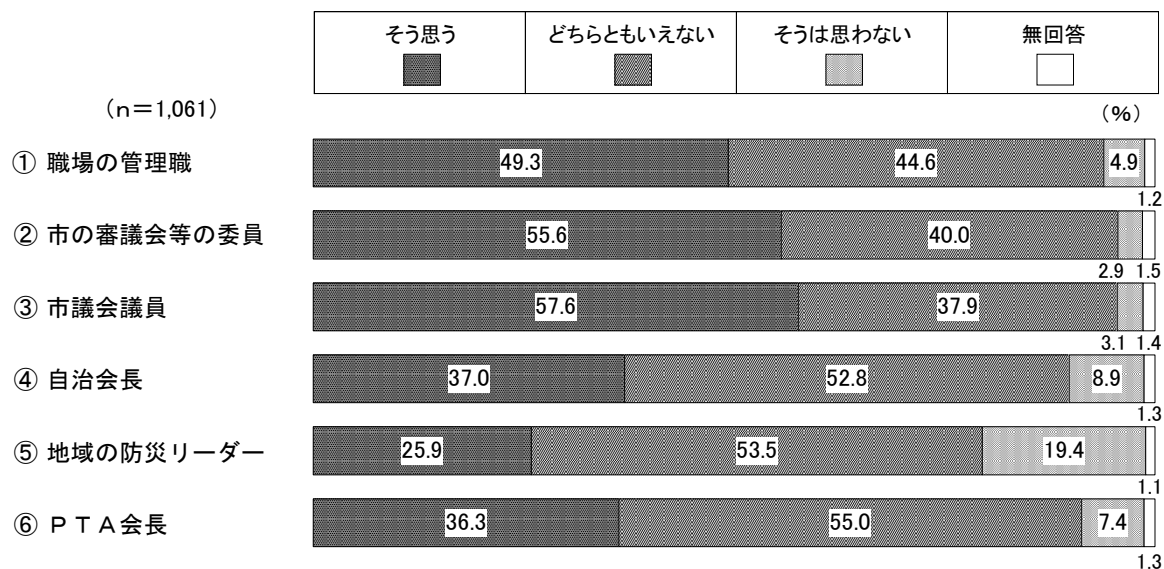
<性別> ⑧社会全体

社会全体について、性別でみると、『男性の方が優遇（計）』は女性（81.5％）が男性（66.1％）より15.4ポイント高くなっている。一方、「平等である」は男性（24.9％）が女性（13.9％）より11.0ポイント高くなっている。



(3) 女性がもっと増える方がよいと思う役職

問3 あなたは、次にあげるような役職に「女性がもっと増える方がよい」と思いますか。
あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

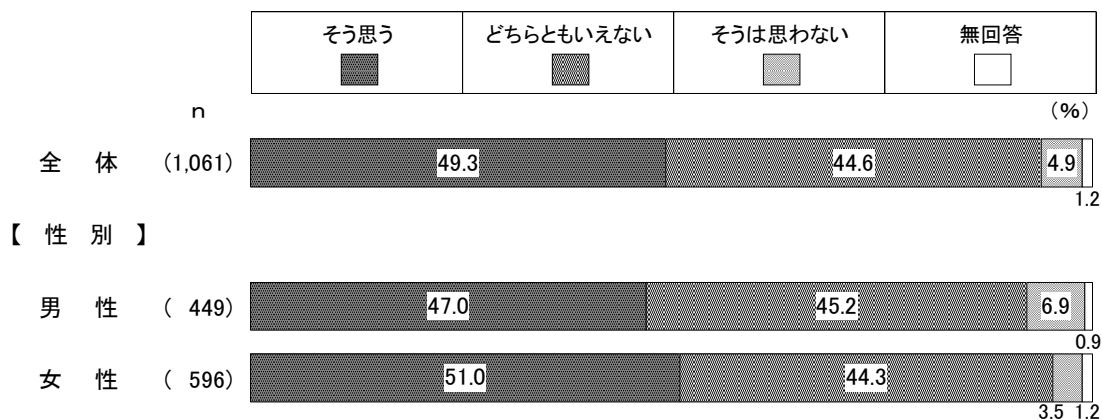


女性がもっと増える方がよいと思う役職について、6項目に分けて聞いたところ、「そう思う」は“市議会議員”が57.6%で最も高く、次いで“市の審議会等の委員”(55.6%)、“職場の管理職”(49.3%)となっている。

一方、「そうは思わない」は“地域の防災リーダー”が19.4%で最も高くなっている。

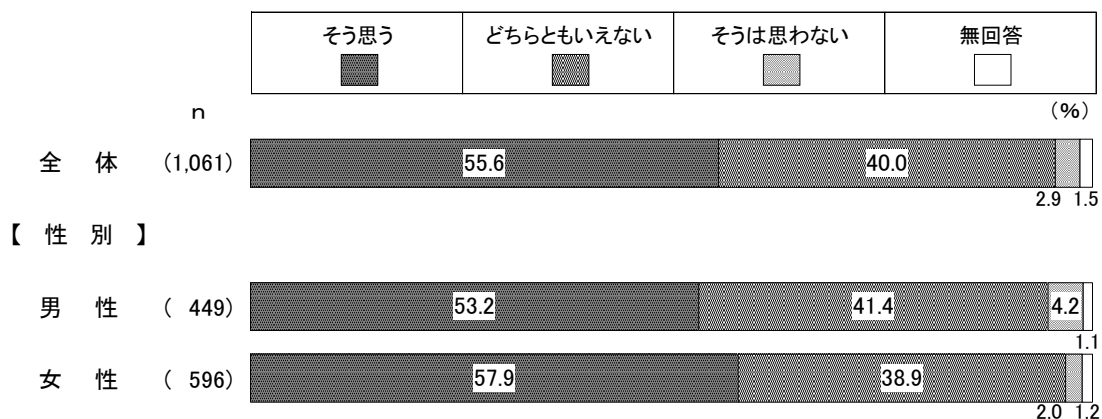
<性別> ①職場の管理職

職場の管理職について、性別でみると、「そう思う」は女性（51.0%）が男性（47.0%）より4.0ポイント高くなっている。



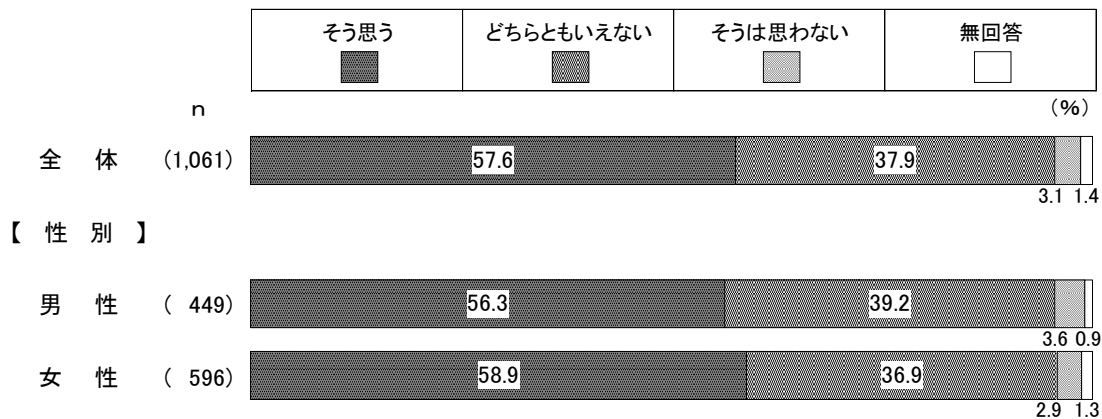
<性別> ②市の審議会等の委員

市の審議会等の委員について、性別でみると、「そう思う」は女性（57.9%）が男性（53.2%）より4.7ポイント高くなっている。



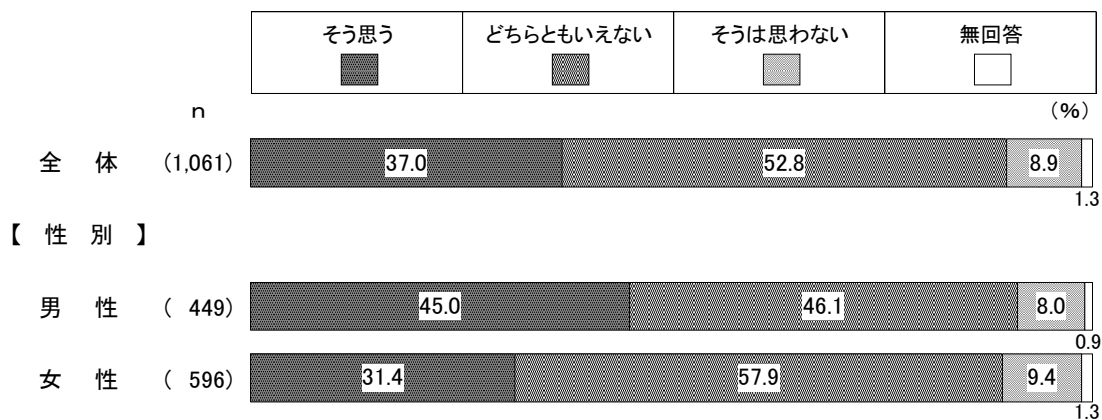
<性別> ③市議会議員

市議会議員について、性別でみると、大きな違いはみられない。



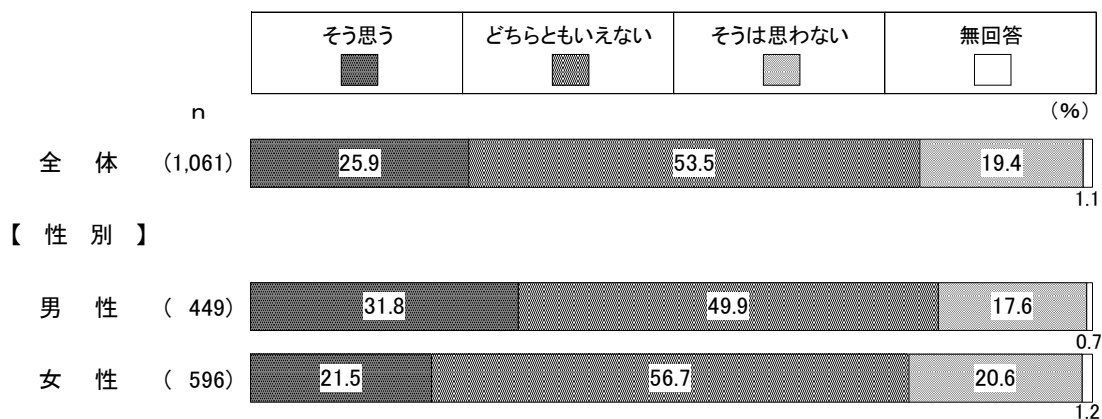
<性別> ④自治会長

自治会長について、性別でみると、「そう思う」は男性（45.0%）が女性（31.4%）より13.6ポイント高くなっている。



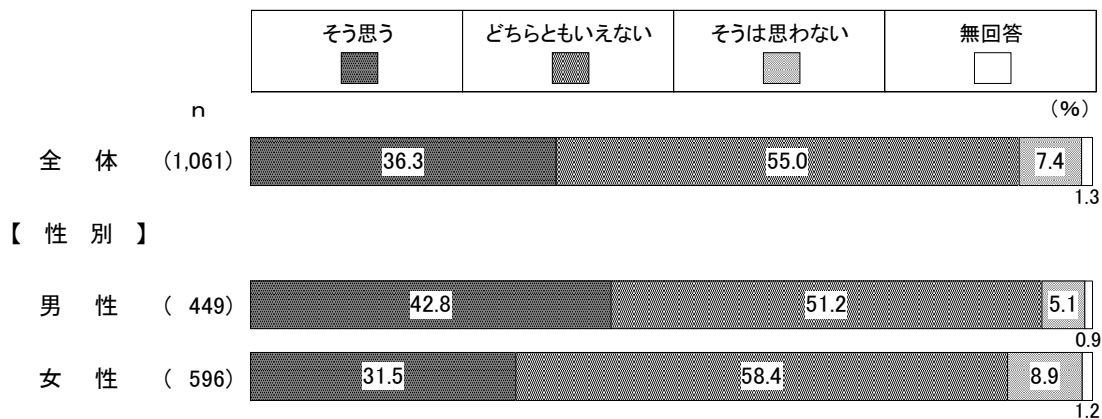
<性別> ⑤地域の防災リーダー

地域の防災リーダーについて、性別でみると、「そう思う」は男性（31.8%）が女性（21.5%）より10.3ポイント高くなっている。



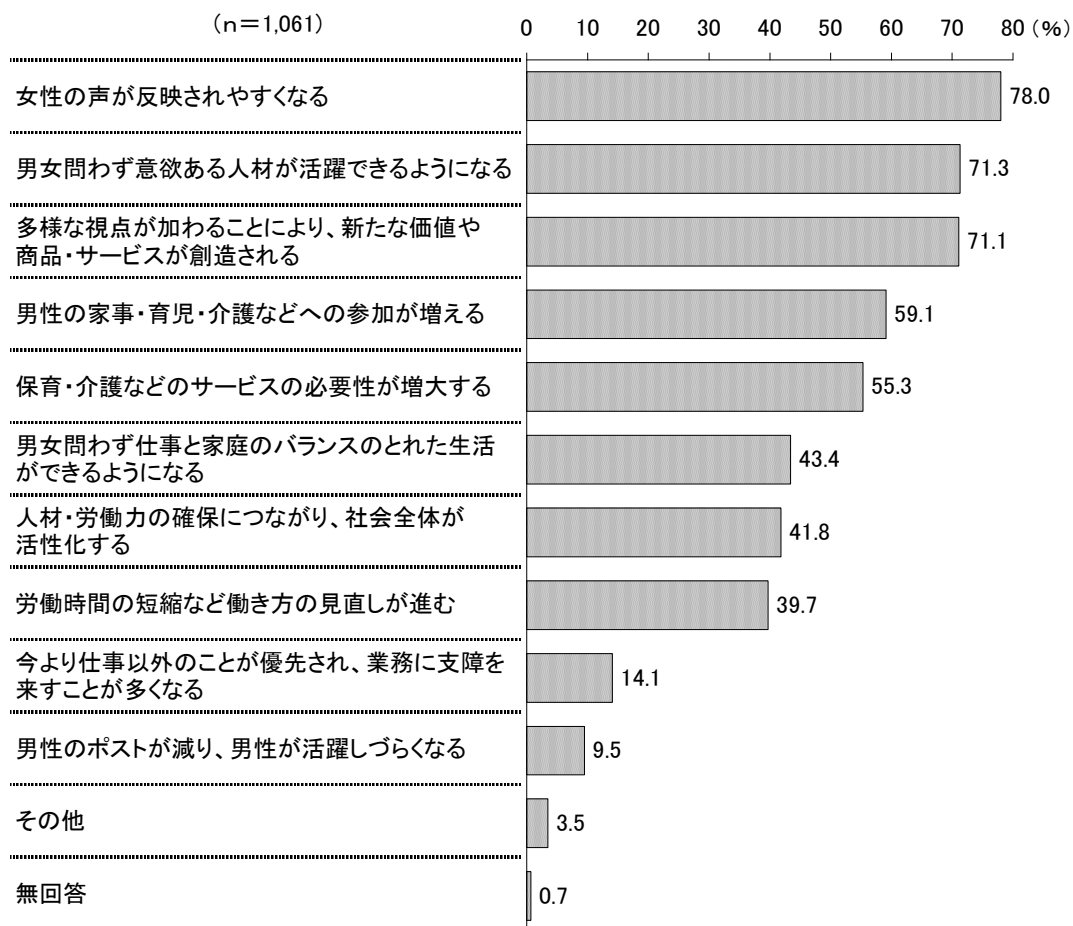
<性別> ⑥PTA会長

PTA会長について、性別でみると、「そう思う」は男性（42.8%）が女性（31.5%）より11.3ポイント高くなっている。



(4) 女性のリーダーが増えることによる影響

問4 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性の参加が進み、女性のリーダーが増え
るとどのような影響があると思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

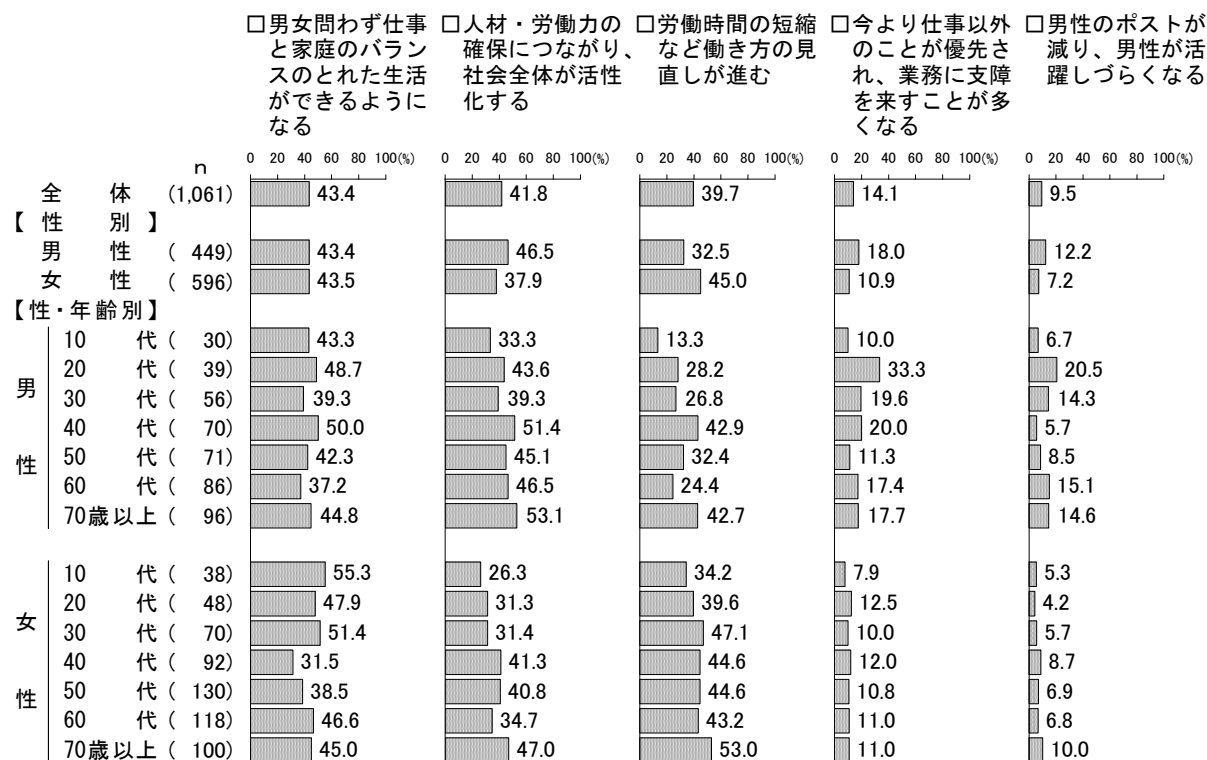
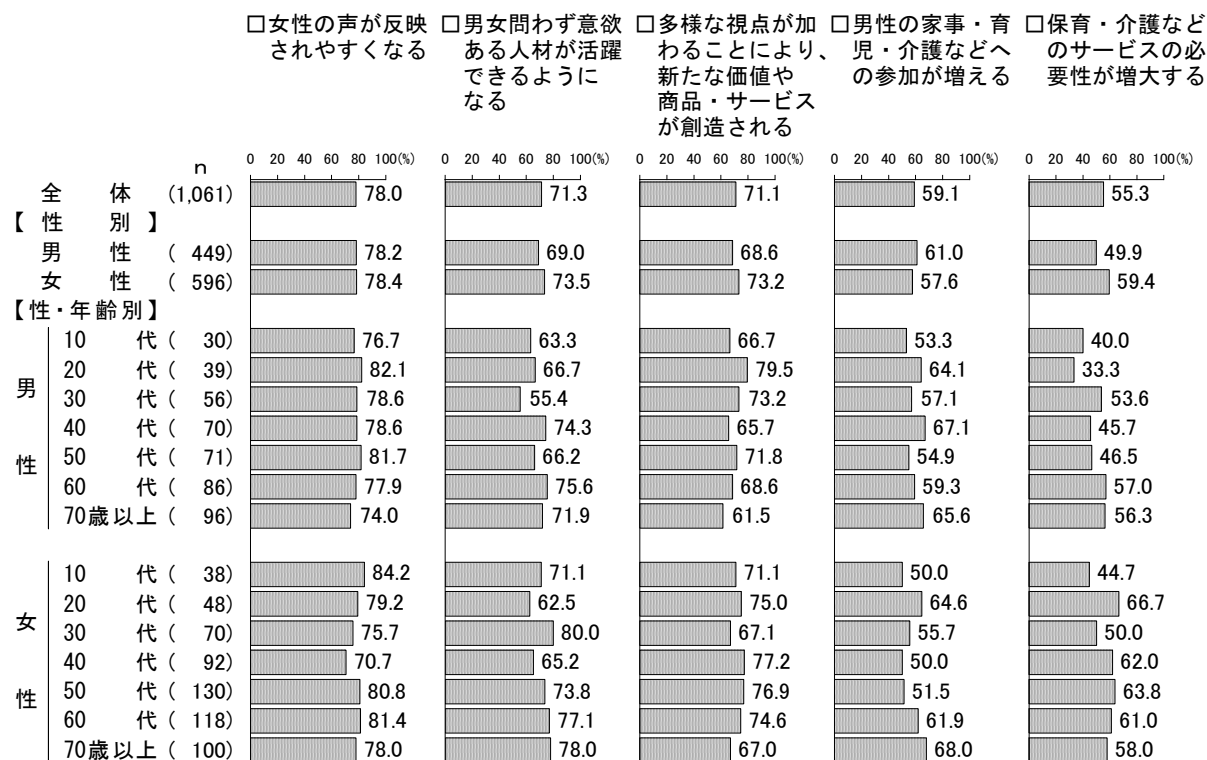


女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか聞いたところ、「女性の声が反映されやすくなる」が78.0%で最も高く、次いで「男女問わず意欲ある人材が活躍できるようになる」(71.3%)、「多様な視点が加わるにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(71.1%)、「男性の家事・育児・介護などへの参加が増える」(59.1%)、「保育・介護などのサービスの必要性が増大する」(55.3%)となっている。

<性別、性・年齢別>

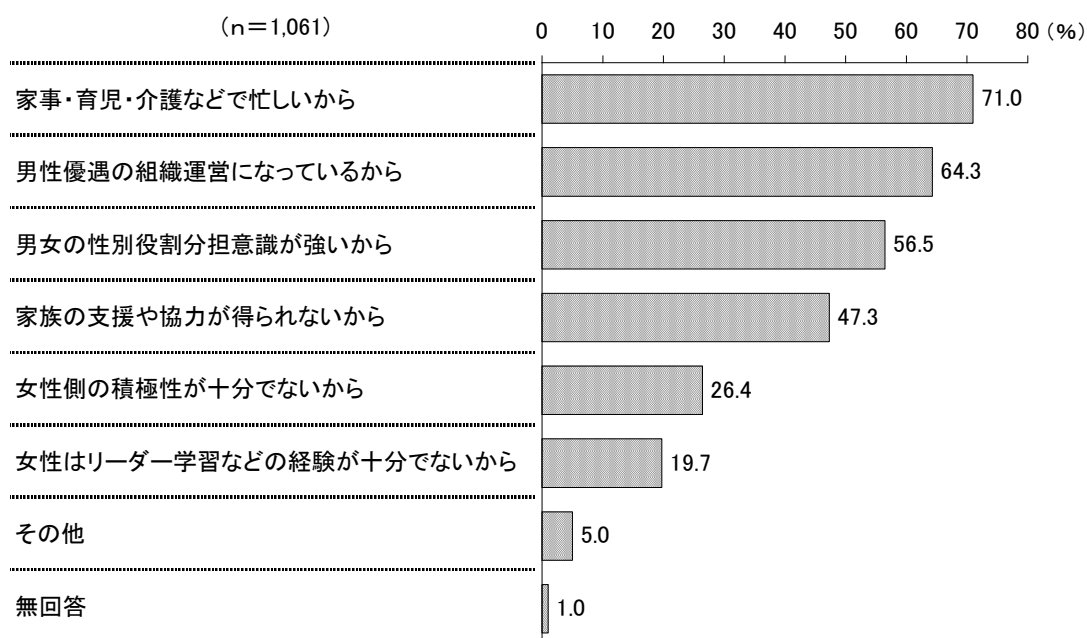
性別でみると、「労働時間の短縮など働き方の見直しが進む」は女性（45.0％）が男性（32.5％）より12.5ポイント高くなっている。一方、「人材・労働力の確保につながり、社会全体が活性化する」は男性（46.5％）が女性（37.9％）より8.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「男女問わず意欲ある人材が活躍できるようになる」は女性30代（80.0％）で高くなっている。「多様な視点が加わることで、新たな価値や商品・サービスが創造される」は男性20代（79.5％）で高くなっている。「保育・介護などのサービスの必要性が増大する」は女性20代（66.7％）で高くなっている。



（５）政策決定の場に女性の参画が少ない理由

問５ 職場や地域活動等の場において、女性の管理職や役員は男性に比べて少ないのが現状です。このような政策決定の場に女性の参画が少ない理由について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

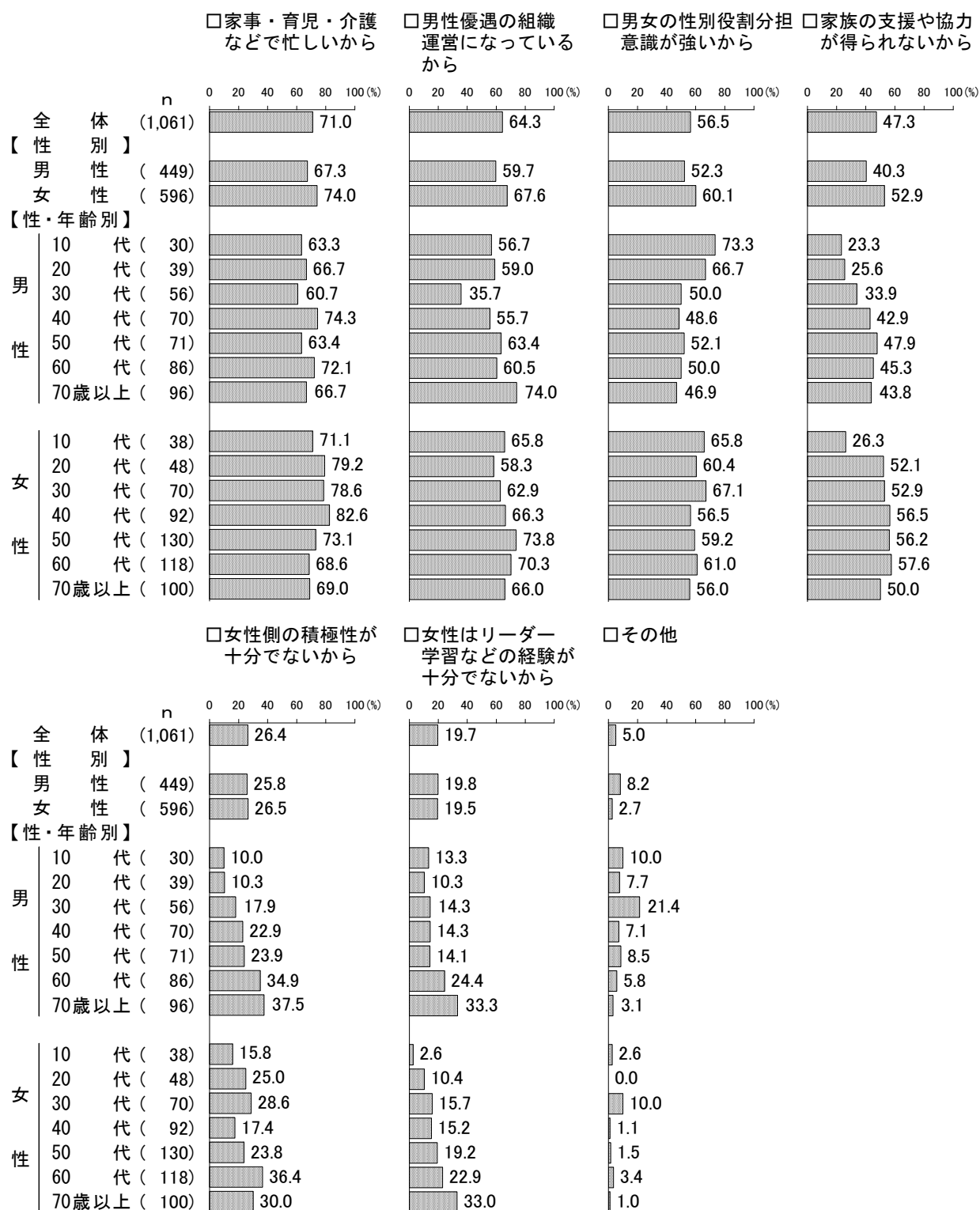


政策決定の場に女性の参画が少ない理由について聞いたところ、「家事・育児・介護などで忙しいから」が71.0%で最も高く、次いで「男性優遇の組織運営になっているから」(64.3%)、「男女の性別役割分担意識が強いから」(56.5%)、「家族の支援や協力が得られないから」(47.3%)となっている。

<性別、性・年齢別>

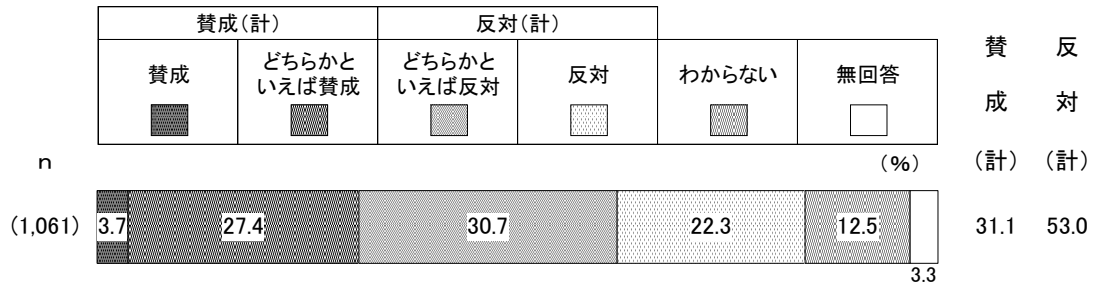
性別でみると、「家族の支援や協力が得られないから」は女性（52.9%）が男性（40.3%）より12.6ポイント、「男性優遇の組織運営になっているから」は女性（67.6%）が男性（59.7%）より7.9ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「家事・育児・介護などで忙しいから」は女性40代（82.6%）で高くなっている。「男女の性別役割分担意識が強いから」は男性10代（73.3%）で高くなっている。「女性側の積極性が十分でないから」は男性では年齢が高くなるほど割合が高くなっている。



(6) 固定的性別役割分担意識についての考え

問6 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的性別役割分担意識についてどのように思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

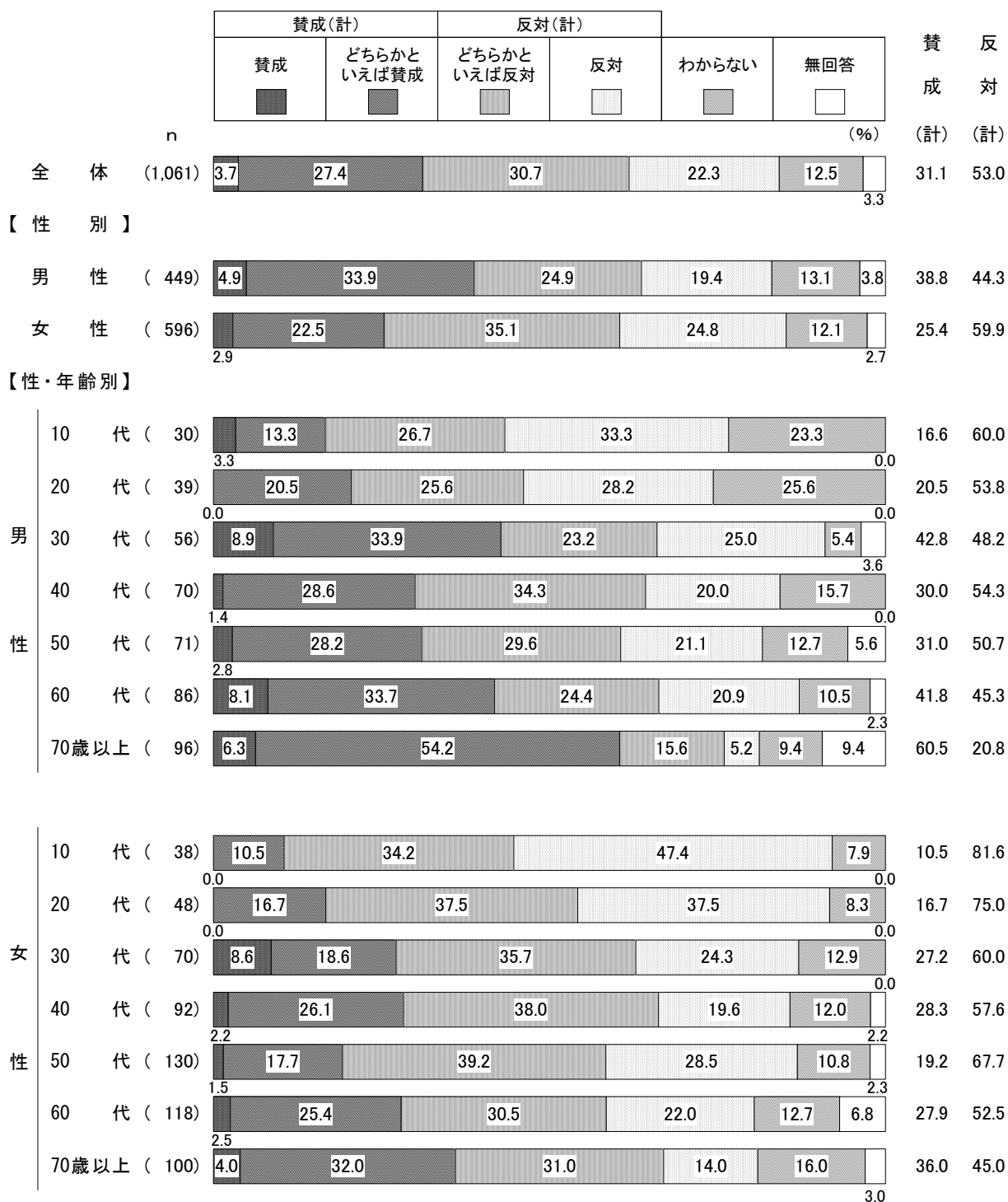


「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的性別役割分担意識についてどのように思うか聞いたところ、「賛成」(3.7%)と「どちらかといえば賛成」(27.4%)を合わせた『賛成(計)』は31.1%となっている。一方、「どちらかといえば反対」(30.7%)と「反対」(22.3%)を合わせた『反対(計)』は53.0%となっている。

<性別、性・年齢別>

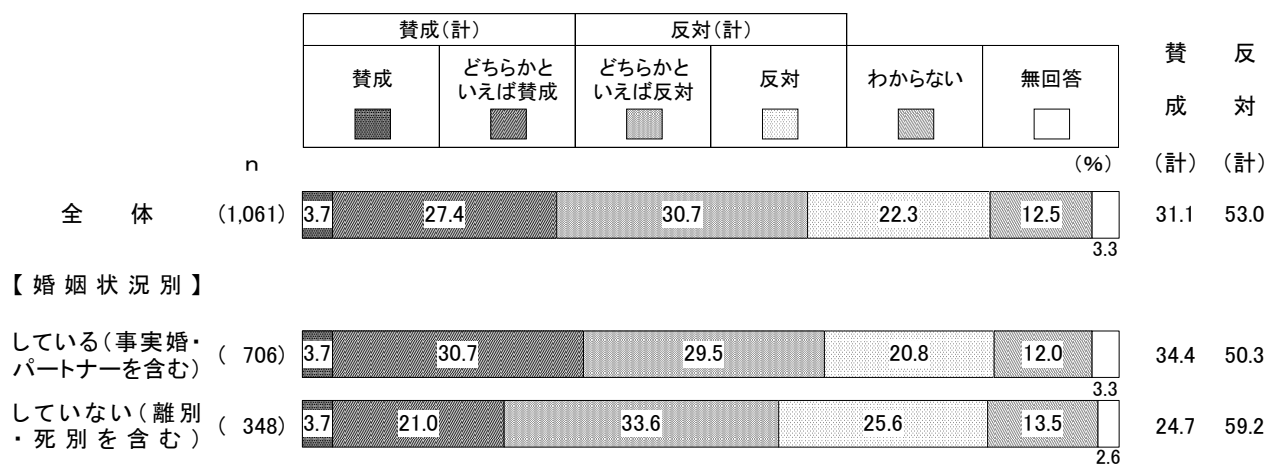
性別でみると、『賛成（計）』は男性（38.8%）が女性（25.4%）より13.4ポイント高くなっている。一方、『反対（計）』は女性（59.9%）が男性（44.3%）より15.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『賛成（計）』は男性70歳以上（60.5%）で高くなっている。一方、『反対（計）』は女性の10代（81.6%）と20代（75.0%）で高くなっている。



<婚姻状況別>

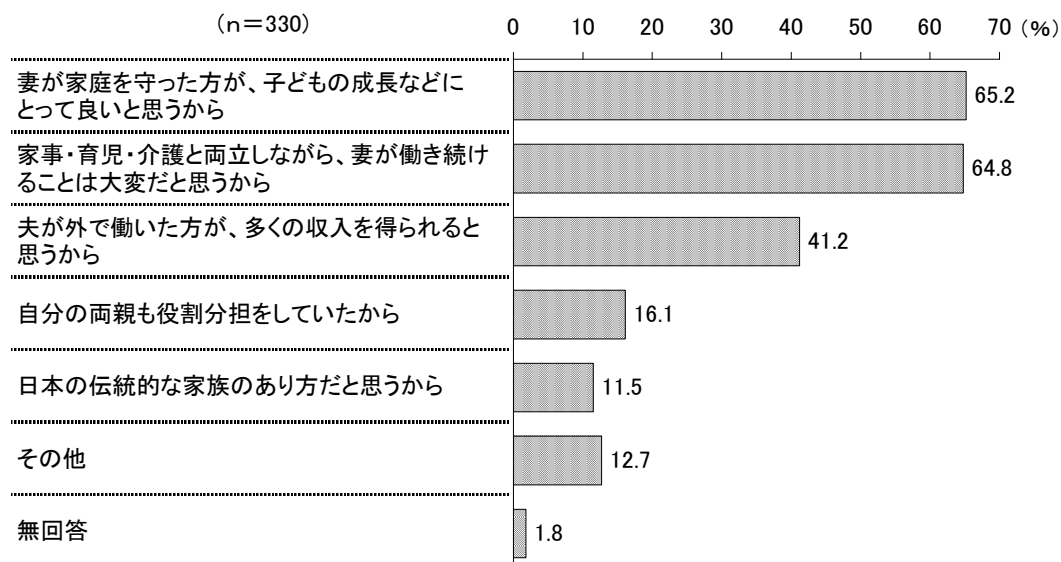
婚姻状況別でみると、『賛成（計）』は結婚している人（34.4%）が結婚していない人（24.7%）より9.7ポイント高くなっている。一方、『反対（計）』は結婚していない人（59.2%）が結婚している人（50.3%）より8.9ポイント高くなっている。



（７）固定的性別役割分担意識に賛成する理由

（問６で、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した方にお伺いします。）

問６－１ そのように思った理由について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

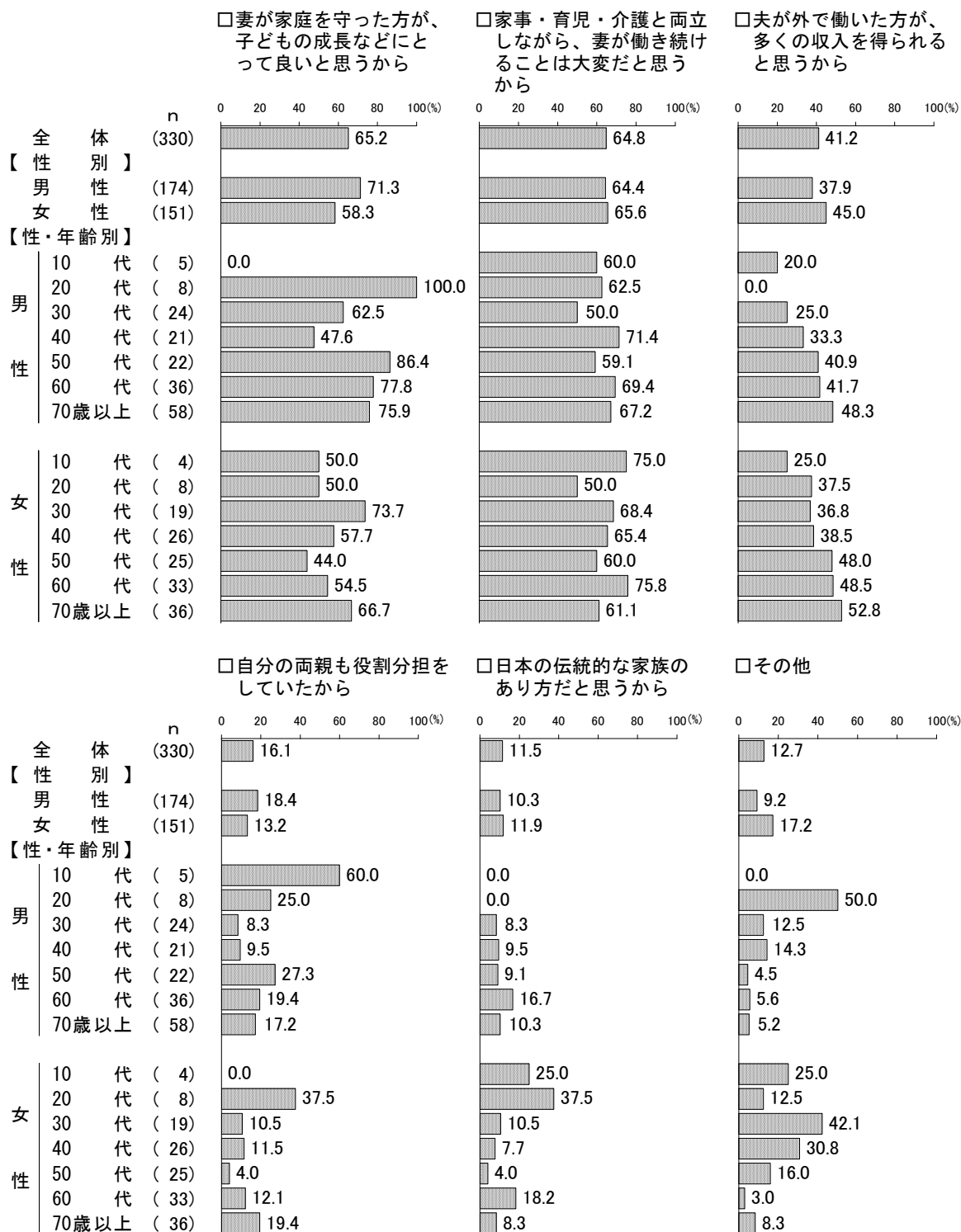


固定的性別役割分担意識について「賛成」または「どちらかといえば賛成」と答えた方に、その理由を聞いたところ、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が65.2%で最も高く、次いで「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」(64.8%)、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(41.2%)となっている。

<性別、性・年齢別>

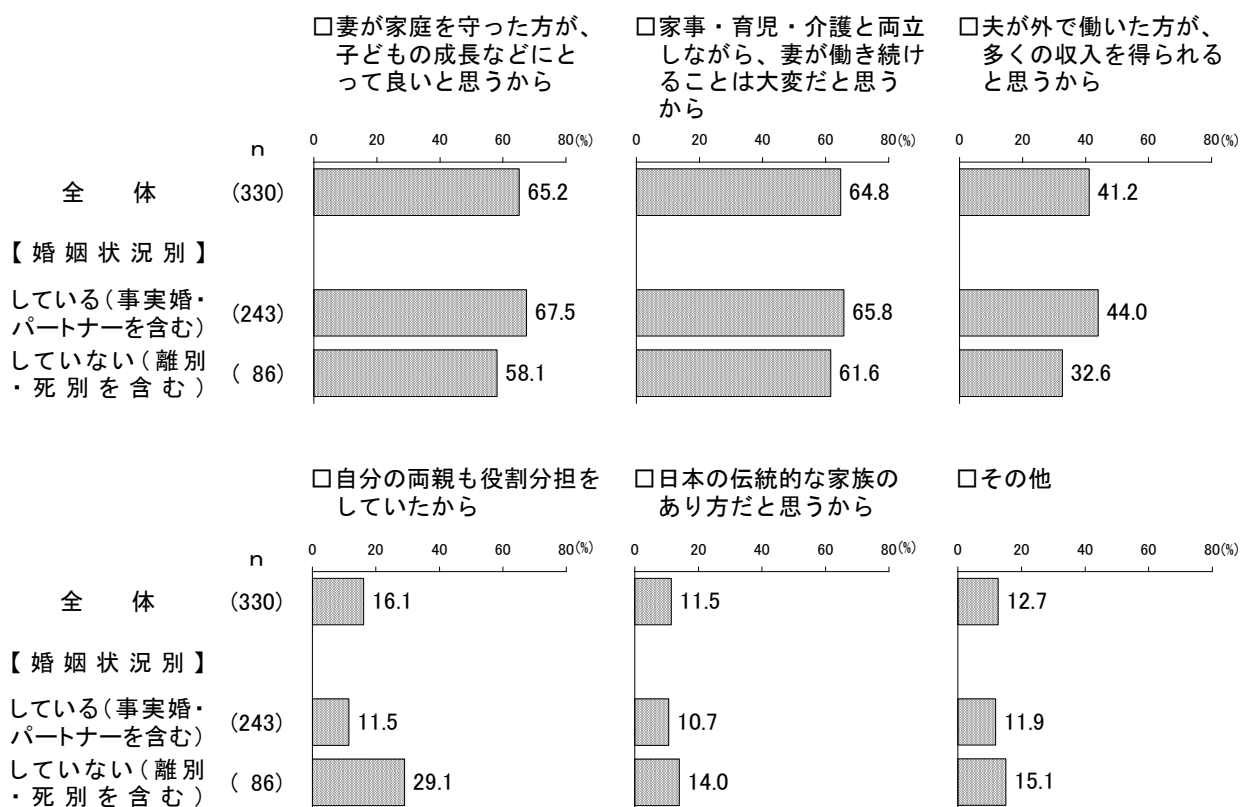
性別でみると、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」は男性（71.3%）が女性（58.3%）より13.0ポイント高くなっている。一方、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」は女性（45.0%）が男性（37.9%）より7.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」は女性60代（75.8%）で高くなっている。「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」は男女ともにおおむね年齢が高くなるほど割合が高くなっている。



<婚姻状況別>

婚姻状況別でみると、「自分の両親も役割分担をしていたから」は結婚していない人（29.1%）が結婚している人（11.5%）より17.6ポイント高くなっている。一方、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」は結婚している人（44.0%）が結婚していない人（32.6%）より11.4ポイント、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」は結婚している人（67.5%）が結婚していない人（58.1%）より9.4ポイント、それぞれ高くなっている。



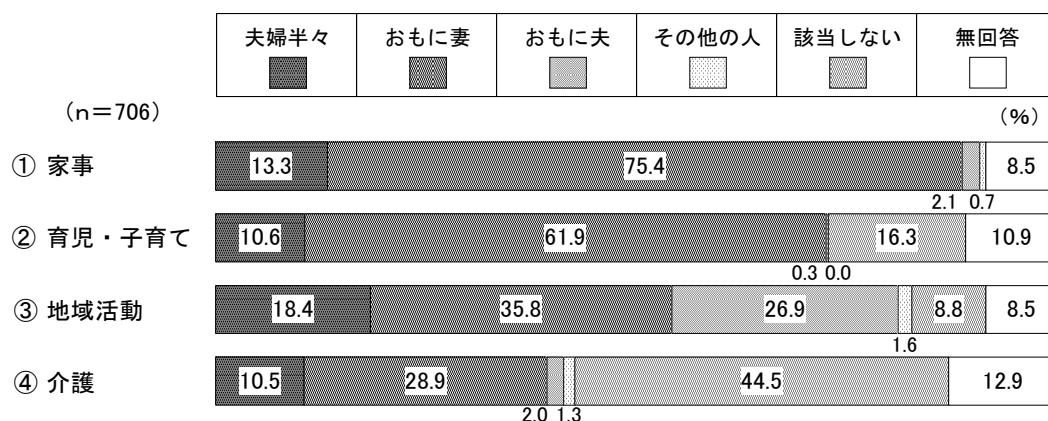
(8) 家庭の仕事の分担について

問7 家庭の仕事の分担について、あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

「現在」の欄は配偶者（事実婚を含む）のいる方のみお答えください。

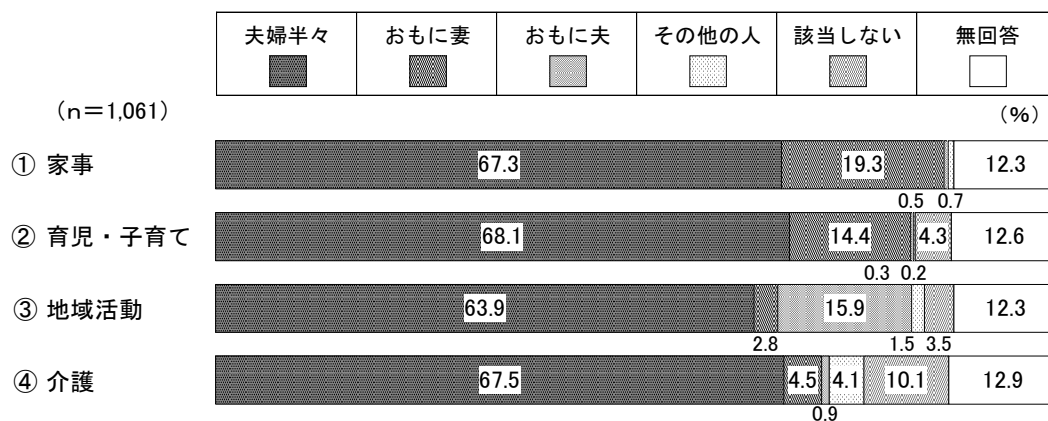
「理想」の欄はすべての方がお答えください。

【現在】＜配偶者（事実婚を含む）のいる方のみ＞



※ “家事” では「該当しない」の選択肢は設けられていない

【理想】



※ “家事” では「該当しない」の選択肢は設けられていない

家庭の仕事の分担について、4項目に分けて聞いた。

【現在】では、「おもに妻」が“家事”で75.4%、“育児・子育て”で61.9%と高くなっている。また、「おもに夫」は“地域活動”で26.9%と高くなっている。

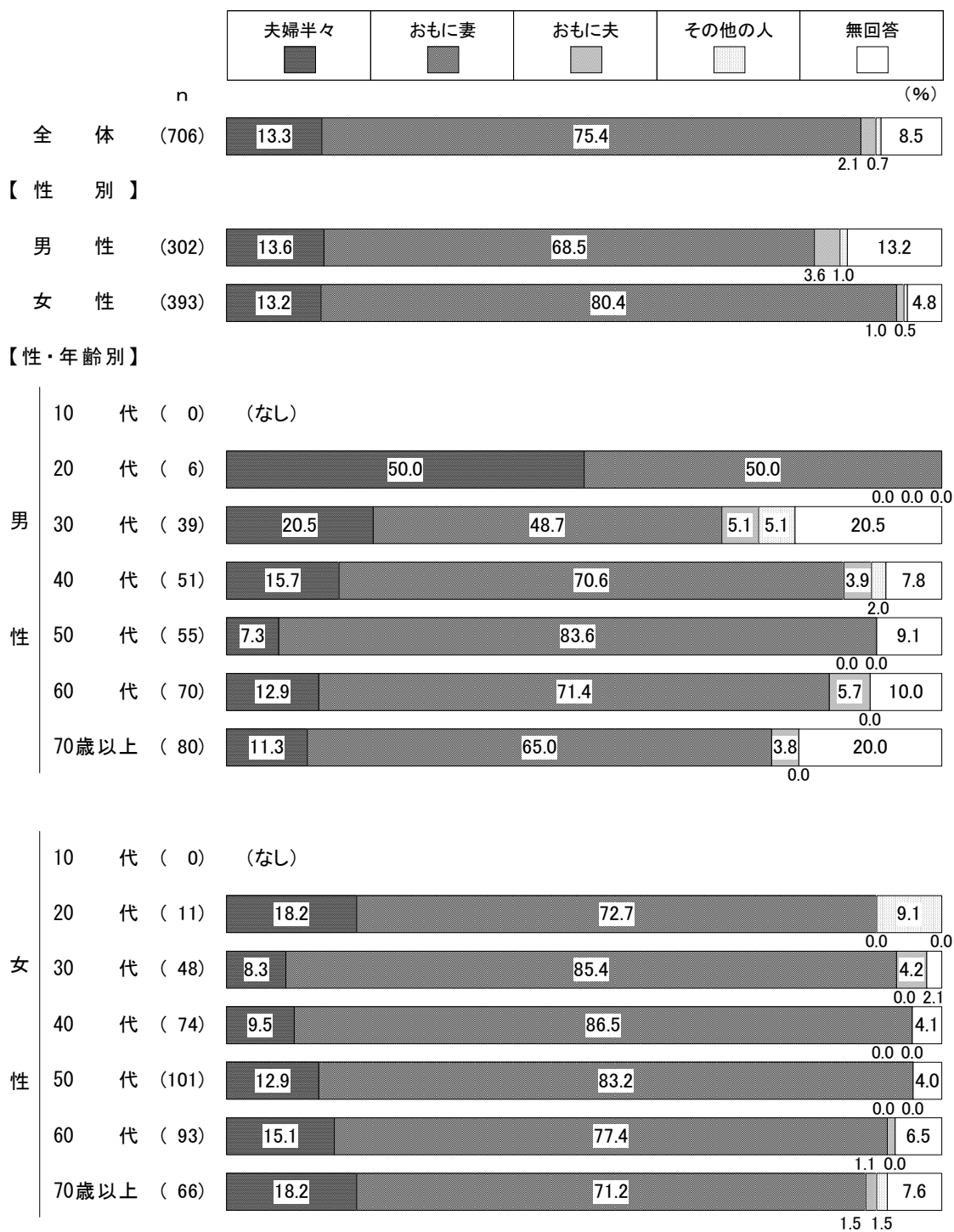
【理想】では、全ての家庭の仕事において「夫婦半々」が6割台と高くなっている。

<性別、性・年齢別> ①家事

【現在】の家事の分担について、性別でみると、「おもに妻」は女性（80.4%）が男性（68.5%）より11.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「おもに妻」は女性の30代（85.4%）と40代（86.5%）で高くなっている。「夫婦半々」は男性30代（20.5%）で高くなっている。

【現在】<配偶者（事実婚を含む）のいる方のみ>

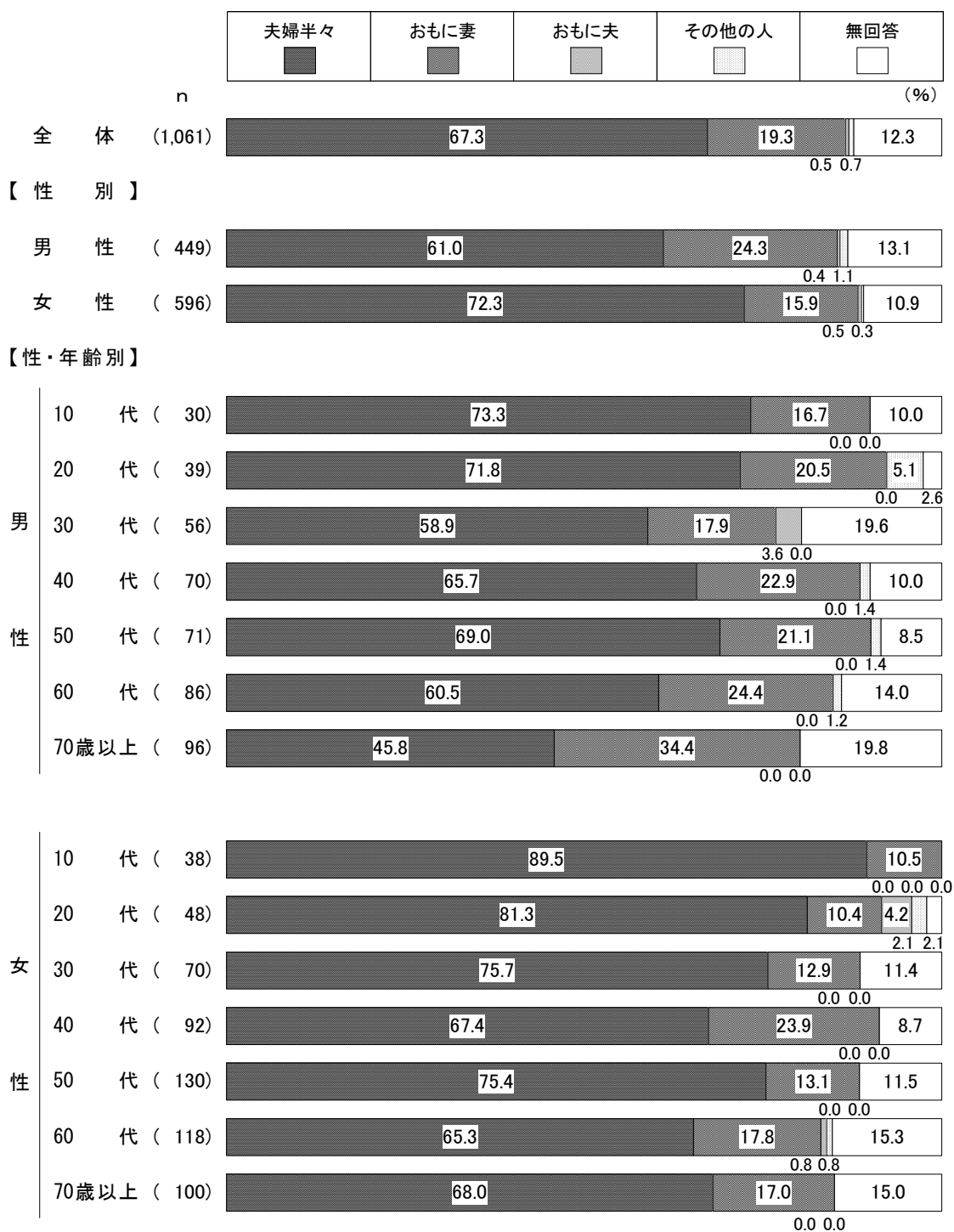


<性別、性・年齢別> ①家事

【理想】の家事の分担について、性別でみると、「夫婦半々」は女性（72.3%）が男性（61.0%）より11.3ポイント高くなっている。一方、「おもに妻」は男性（24.3%）が女性（15.9%）より8.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「夫婦半々」は女性の10代（89.5%）と20代（81.3%）で高くなっている。「おもに妻」は男性70歳以上（34.4%）で高くなっている。

【理想】

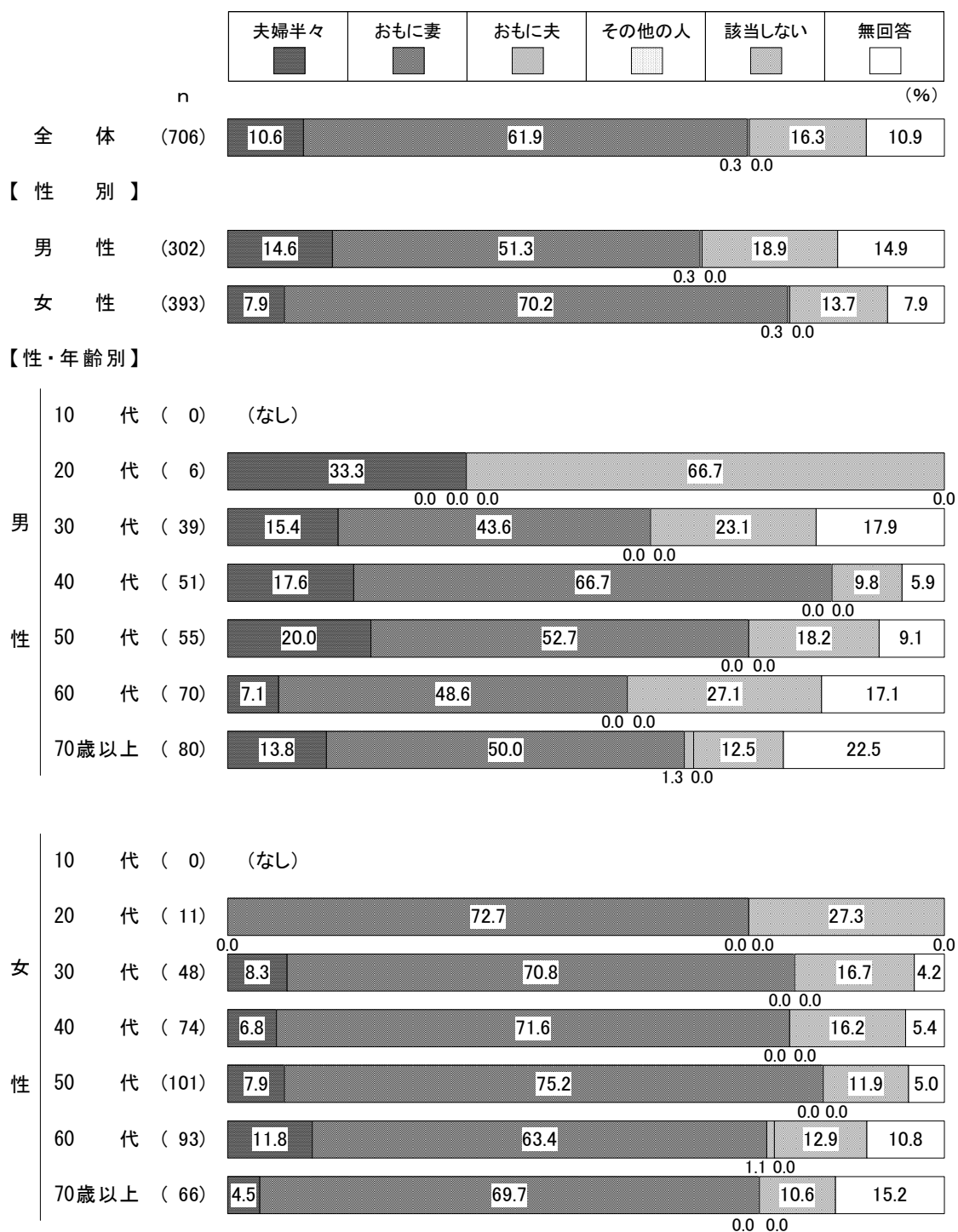


<性別、性・年齢別> ②育児・子育て

【現在】の育児・子育ての分担について、「おもに妻」は女性（70.2%）が男性（51.3%）より18.9ポイント高くなっている。一方、「夫婦半々」は男性（14.6%）が女性（7.9%）より6.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「夫婦半々」は男性50代（20.0%）で高くなっている。「おもに妻」は女性50代（75.2%）で高くなっている。

【現在】<配偶者（事実婚を含む）のいる方のみ>

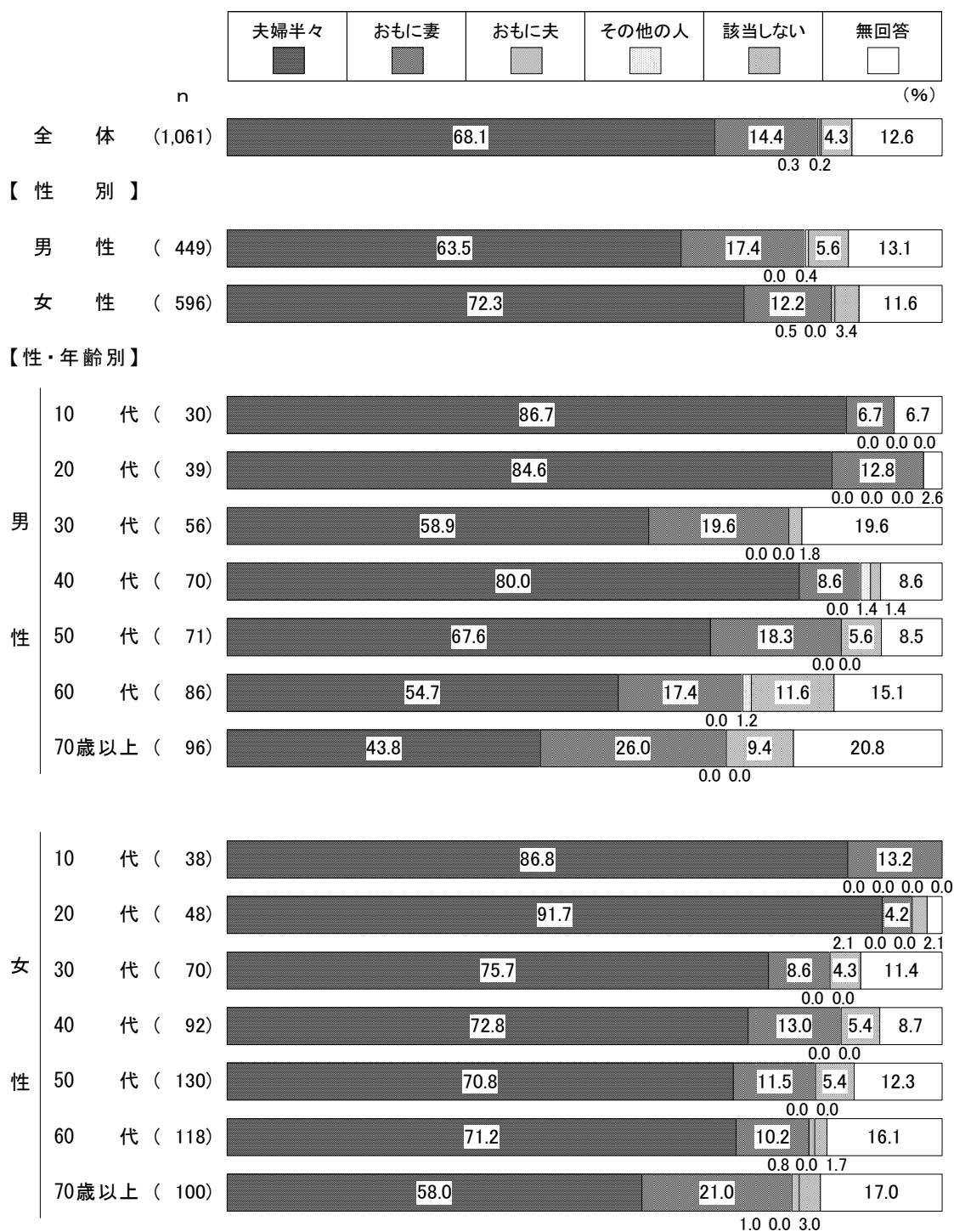


<性別、性・年齢別> ②育児・子育て

【理想】の育児・子育ての分担について、性別でみると、「夫婦半々」は女性（72.3%）が男性（63.5%）より8.8ポイント高くなっている。一方、「おもに妻」は男性（17.4%）が女性（12.2%）より5.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「夫婦半々」は男女ともにおおむね年齢が低くなるほど割合が高くなっている。「おもに妻」は男性70歳以上（26.0%）で高くなっている。

【理想】

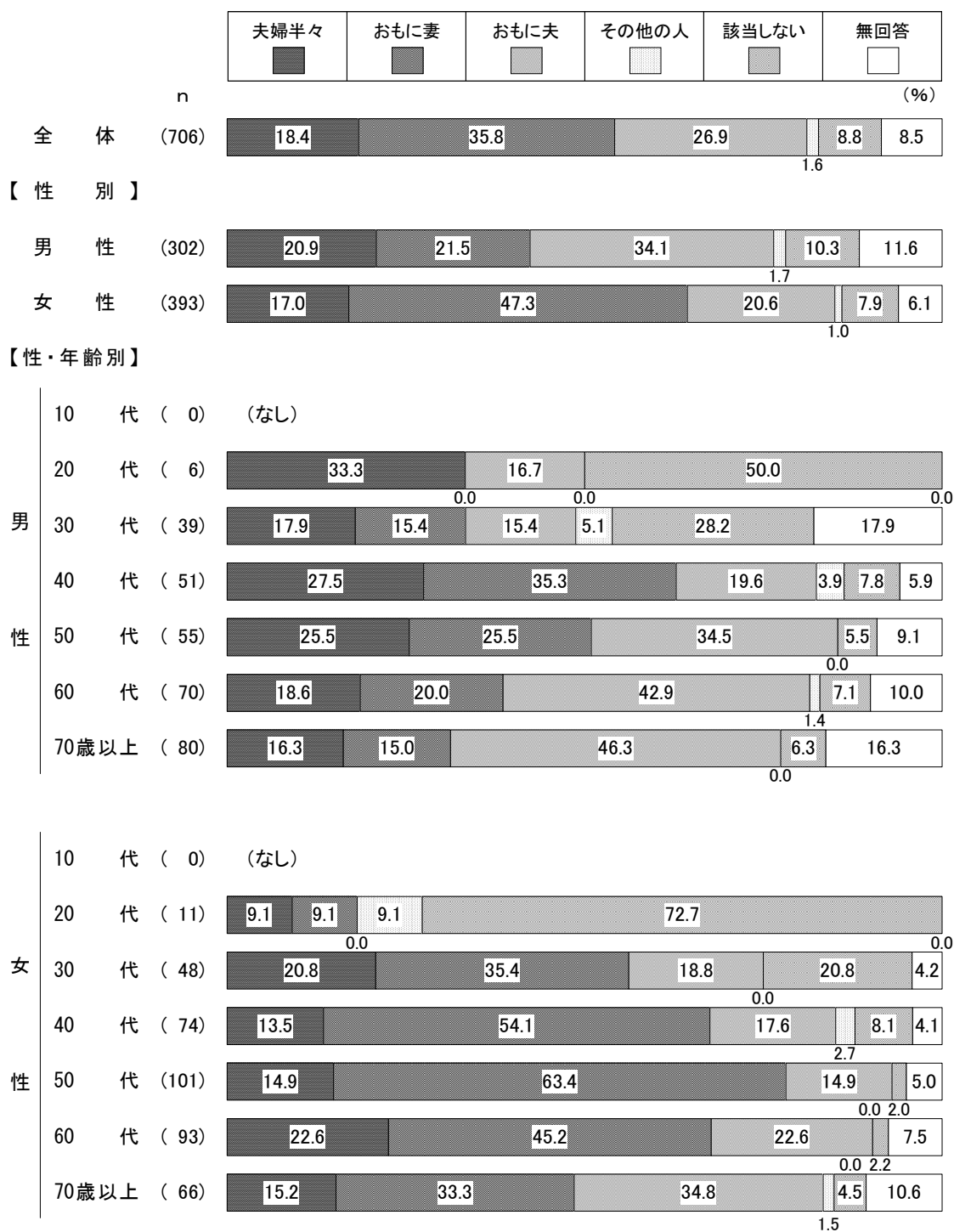


<性別、性・年齢別> ③地域活動

【現在】の地域活動の分担について、性別でみると、「おもに妻」は女性（47.3%）が男性（21.5%）より25.8ポイント高くなっている。一方、「おもに夫」は男性（34.1%）が女性（20.6%）より13.5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「おもに妻」は女性の40代（54.1%）と50代（63.4%）で高くなっている。「おもに夫」は男性の60代（42.9%）と70歳以上（46.3%）で高くなっている。

【現在】<配偶者（事実婚を含む）のいる方のみ>

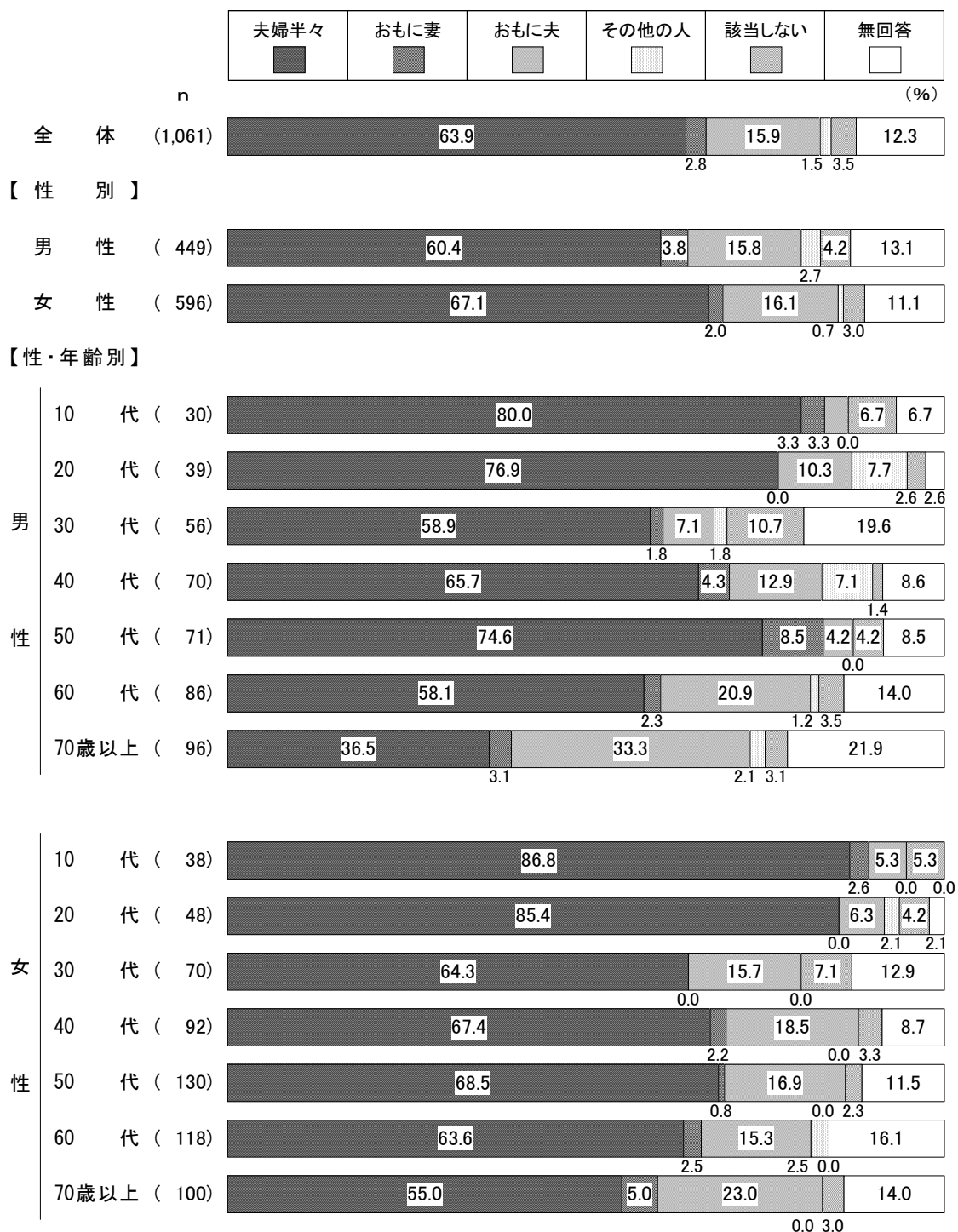


<性別、性・年齢別> ③地域活動

【理想】の地域活動の分担について、性別でみると、「夫婦半々」は女性(67.1%)が男性(60.4%)より6.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「夫婦半々」は女性の10代(86.8%)と20代(85.4%)で高くなっている。「おもに夫」は男性70歳以上(33.3%)で高くなっている。

【理想】

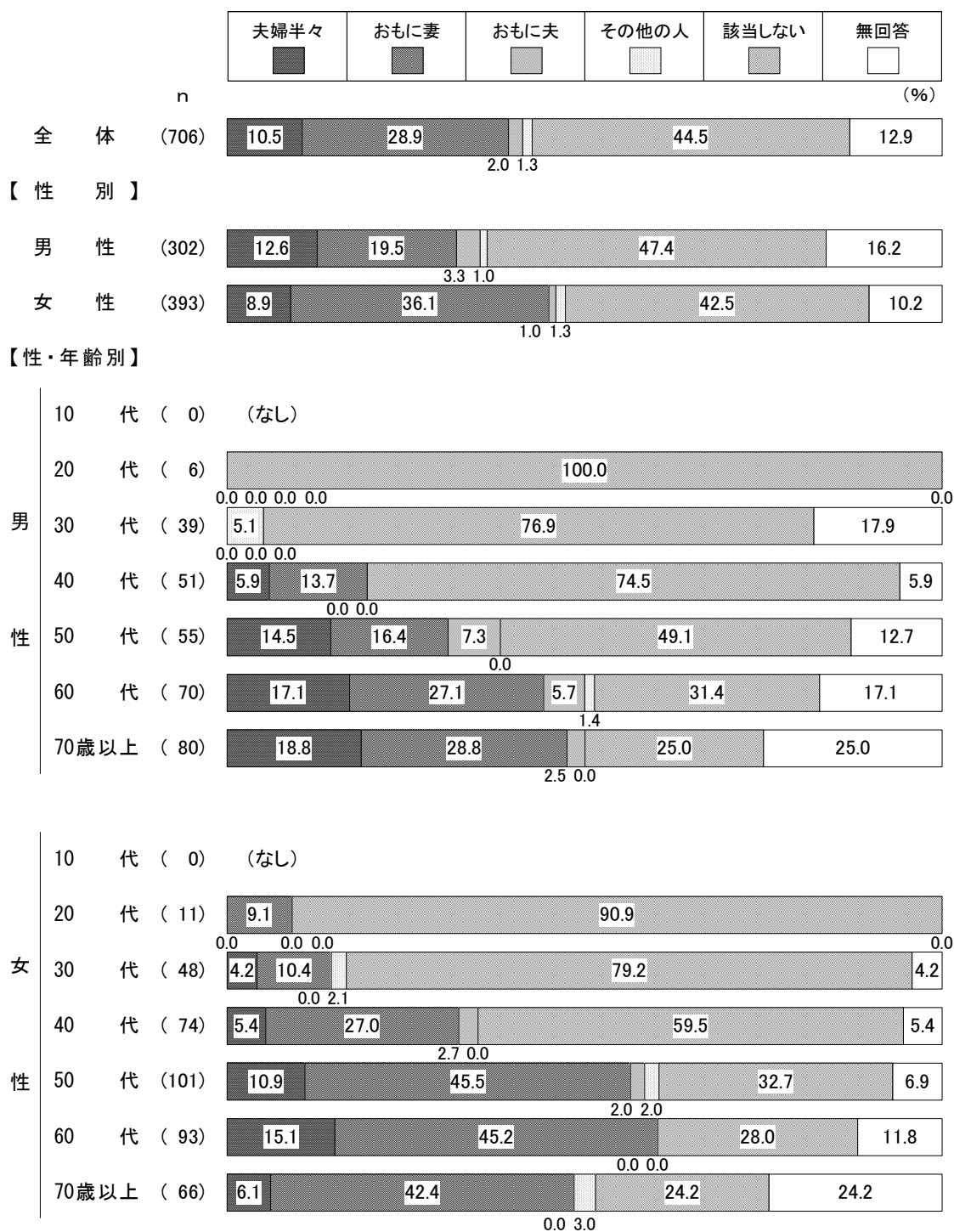


<性別、性・年齢別> ④介護

【現在】の介護の分担について、性別でみると、「おもに妻」は女性（36.1%）が男性（19.5%）より16.6ポイント高くなっている。一方、「夫婦半々」は男性（12.6%）が女性（8.9%）より3.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「おもに妻」は女性の50代（45.5%）、60代（45.2%）、70歳以上（42.4%）で高くなっている。

【現在】<配偶者（事実婚を含む）のいる方のみ>

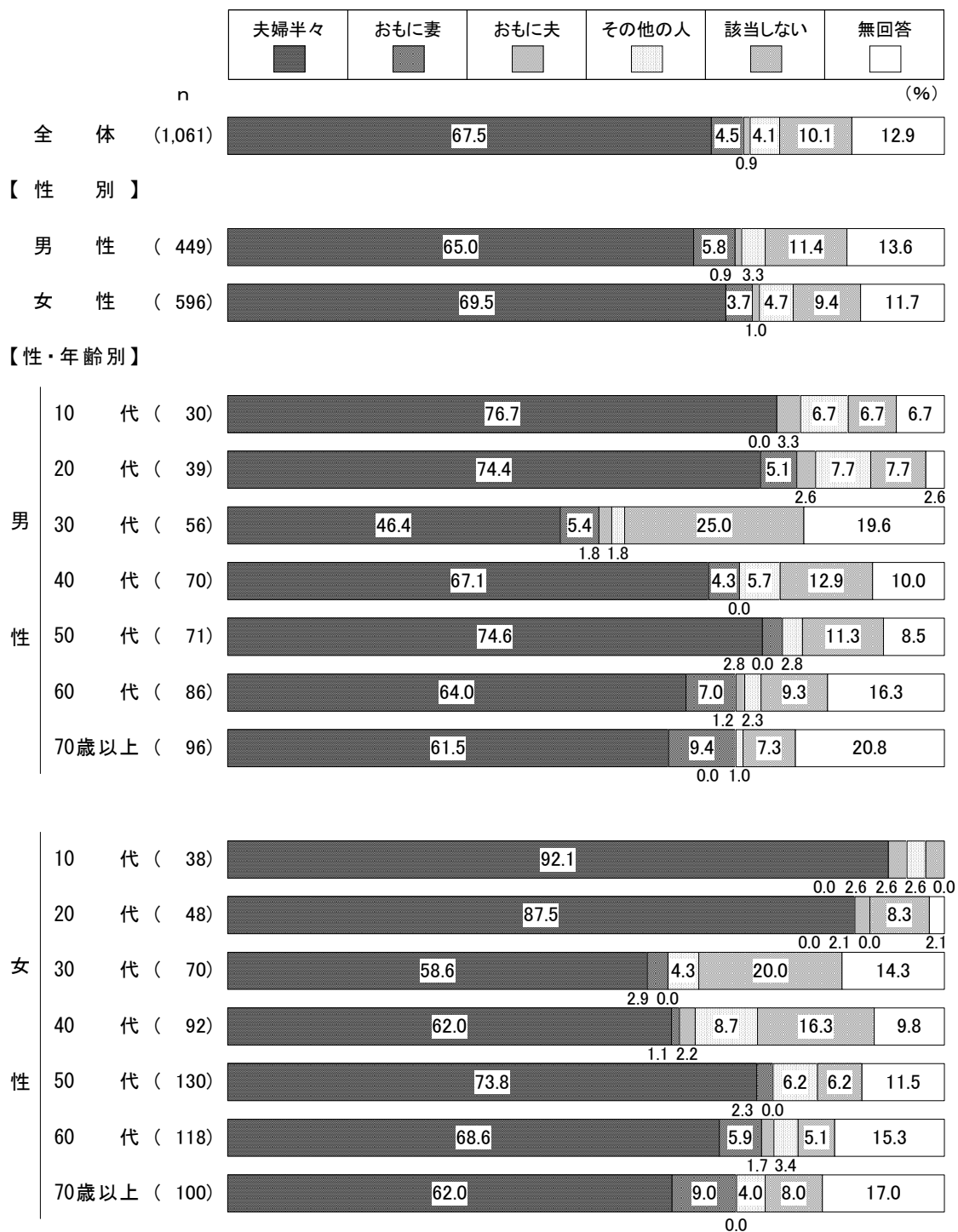


<性別、性・年齢別> ④介護

【理想】の介護の分担について、性別でみると、「夫婦半々」は女性（69.5%）が男性（65.0%）より4.5ポイント高くなっている。

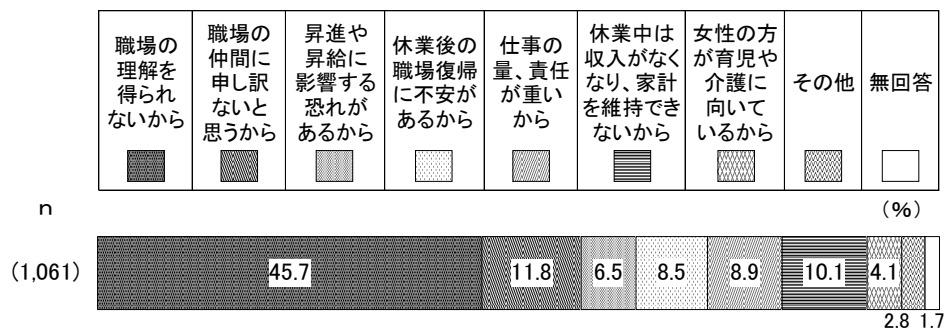
性・年齢別でみると、「夫婦半々」は女性の10代（92.1%）と20代（87.5%）で高くなっている。

【理想】



(9) 育児休業や介護休業を取得する男性が少ない理由

問8 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないのが現状です。この理由についてどのようにお考えですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

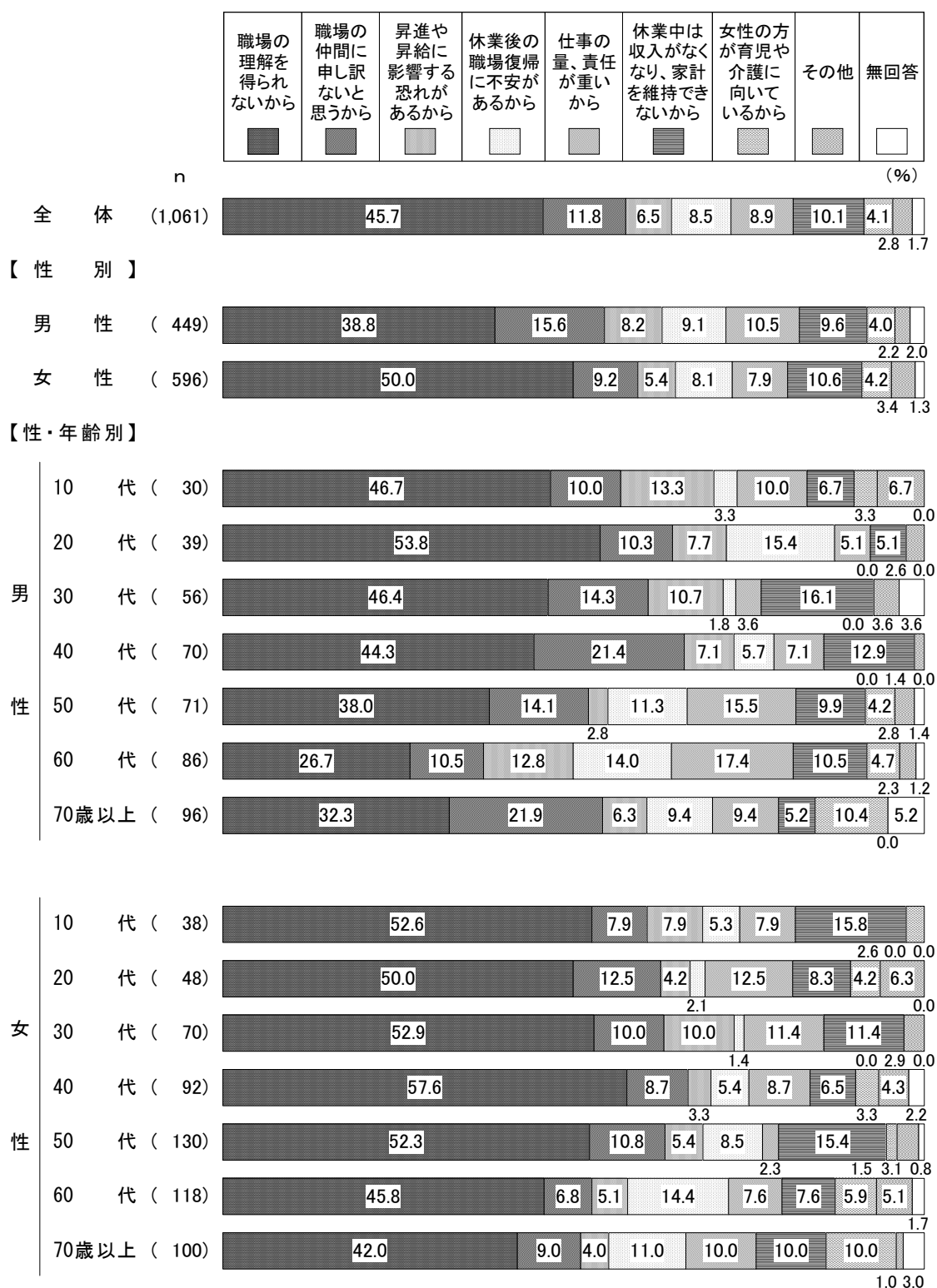


育児休業や介護休業を取得する男性が少ない理由について聞いたところ、「職場の理解を得られないから」が45.7%で最も高く、次いで「職場の仲間に申し訳ないと思うから」(11.8%)、「休業中は収入がなくなり、家計を維持できないから」(10.1%)となっている。

<性別、性・年齢別>

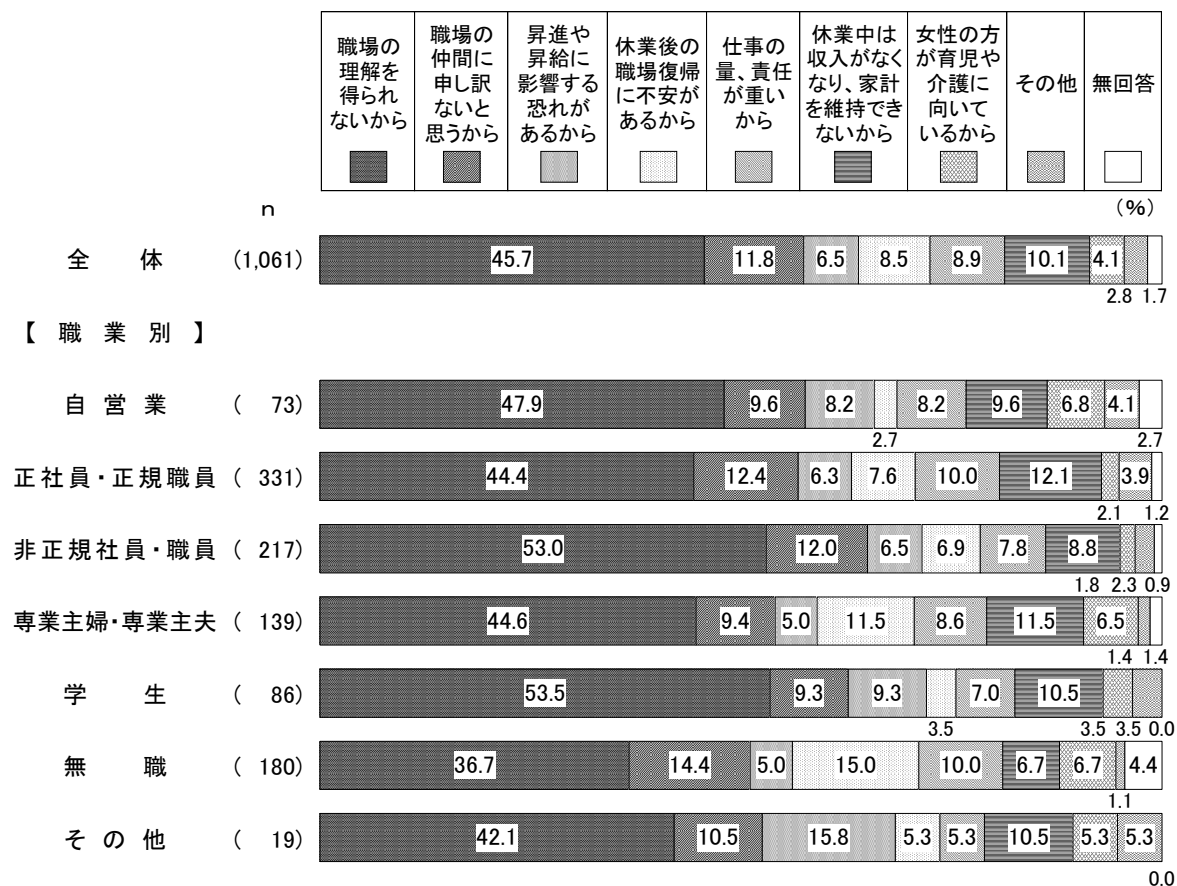
性別でみると、「職場の理解を得られないから」は女性（50.0%）が男性（38.8%）より11.2ポイント高くなっている。一方、「職場の仲間に申し訳ないと思うから」は男性（15.6%）が女性（9.2%）より6.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「職場の理解を得られないから」は女性40代（57.6%）で高くなっている。「職場の仲間に申し訳ないと思うから」は男性の40代（21.4%）と70歳以上（21.9%）で高くなっている。



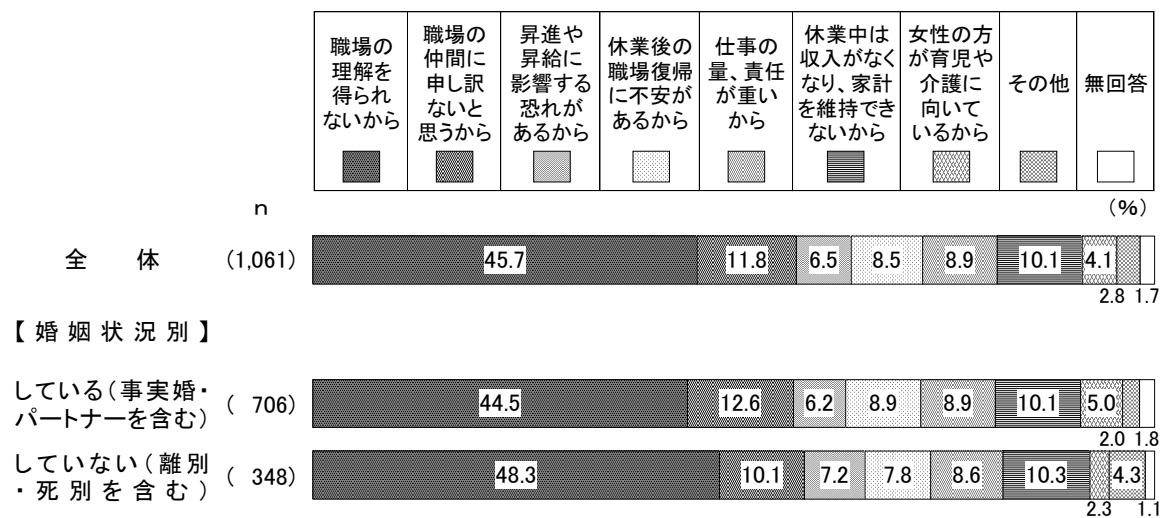
<職業別>

職業別でみると、「職場の理解を得られないから」は学生（53.5%）とパート、アルバイト、派遣社員等の非正規社員・職員（53.0%）で高くなっている。



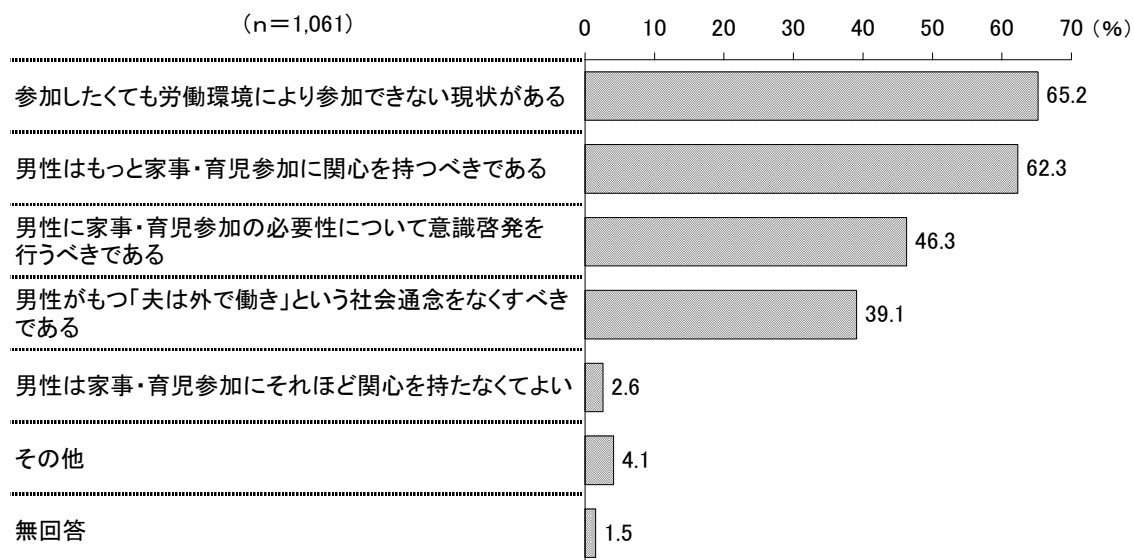
<婚姻状況別>

婚姻状況別でみると、「職場の理解を得られないから」は結婚していない人（48.3%）が結婚している人（44.5%）より3.8ポイント高くなっている。



(10) 男性の家事・育児参加についての考え

問9 男性の家事・育児参加についてどのようにお考えですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

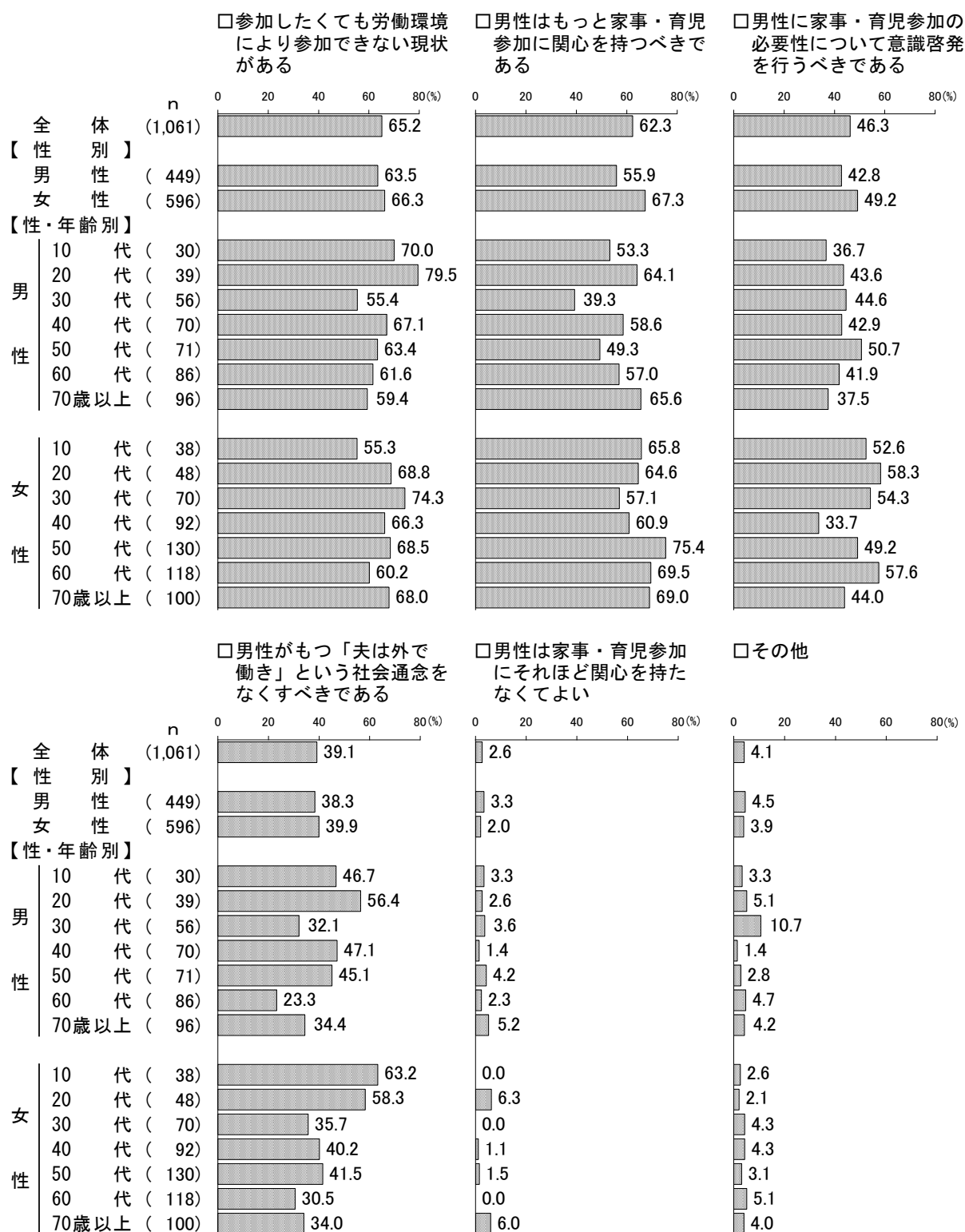


男性の家事・育児参加についての考えを聞いたところ、「参加したくても労働環境により参加できない現状がある」が65.2%で最も高く、次いで「男性はもっと家事・育児参加に関心を持つべきである」(62.3%)、「男性に家事・育児参加の必要性について意識啓発を行うべきである」(46.3%)、「男性がもつ『夫は外で働き』という社会通念をなくすべきである」(39.1%)となっている。

<性別、性・年齢別>

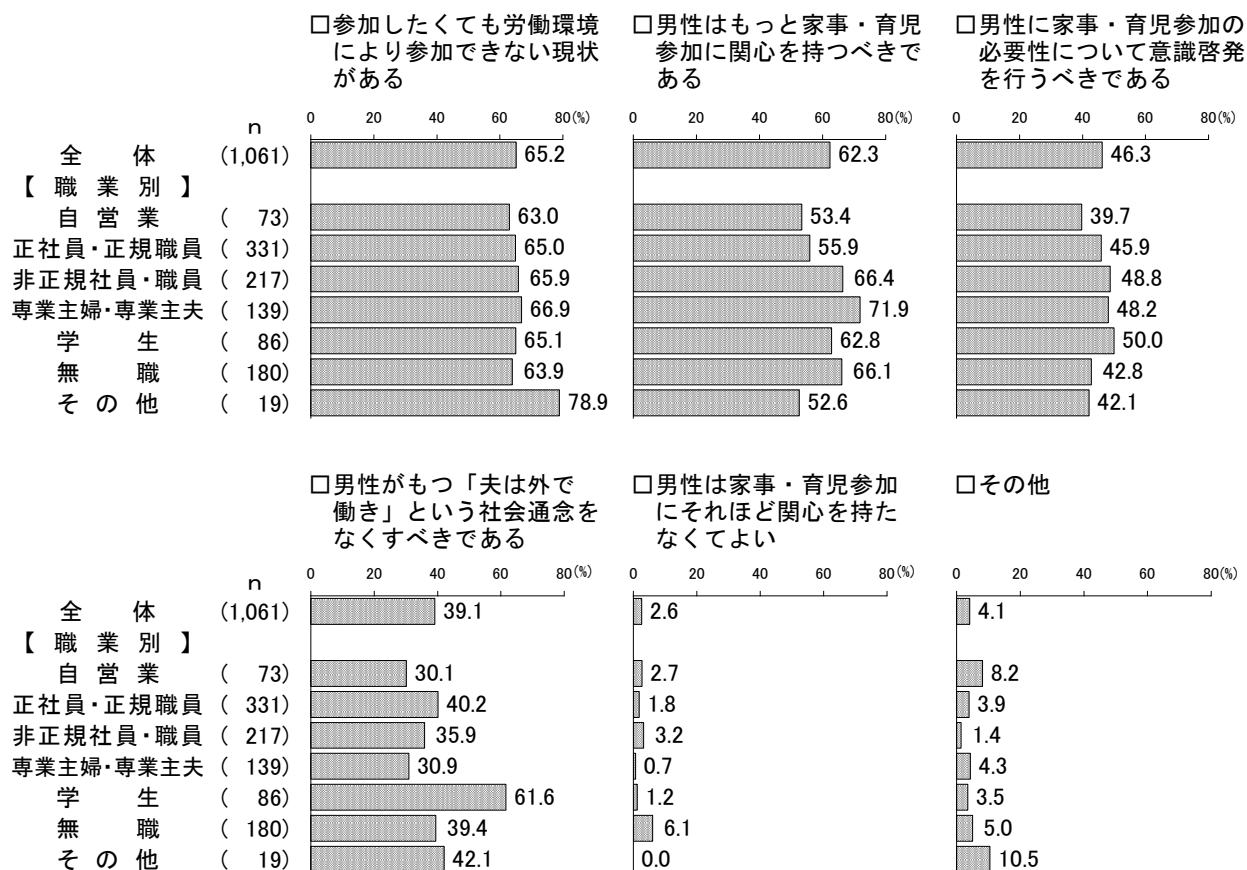
性別でみると、「男性はもっと家事・育児参加に関心を持つべきである」は女性（67.3%）が男性（55.9%）より11.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「参加したくても労働環境により参加できない現状がある」は男性20代（79.5%）と女性30代（74.3%）で高くなっている。「男性はもっと家事・育児参加に関心を持つべきである」は女性50代（75.4%）で高くなっている。「男性がもつ『夫は外で働き』という社会通念をなくすべきである」は女性10代（63.2%）で高くなっている。



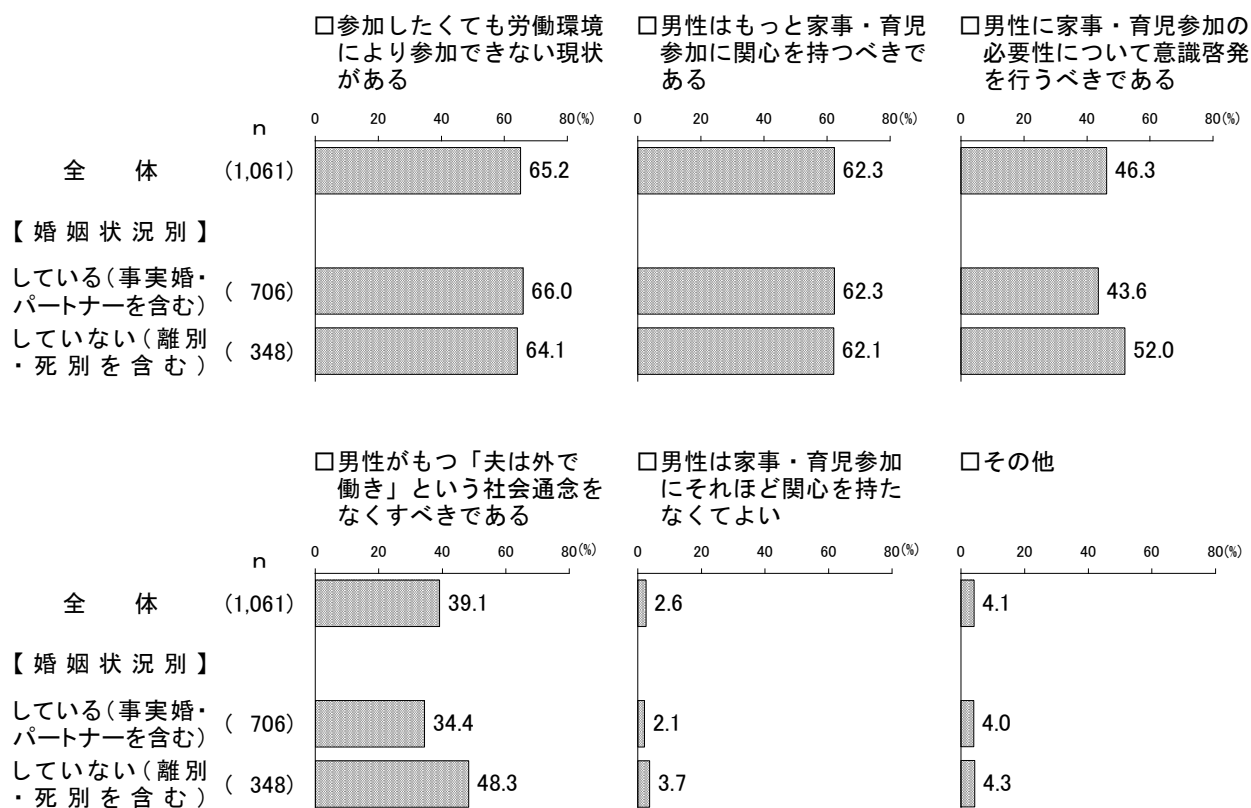
<職業別>

職業別でみると、「男性はもっと家事・育児参加に関心を持つべきである」は専業主婦・専業主夫（71.9%）で高くなっている。「男性がもつ『夫は外で働き』という社会通念をなくすべきである」は学生（61.6%）で高くなっている。



<婚姻状況別>

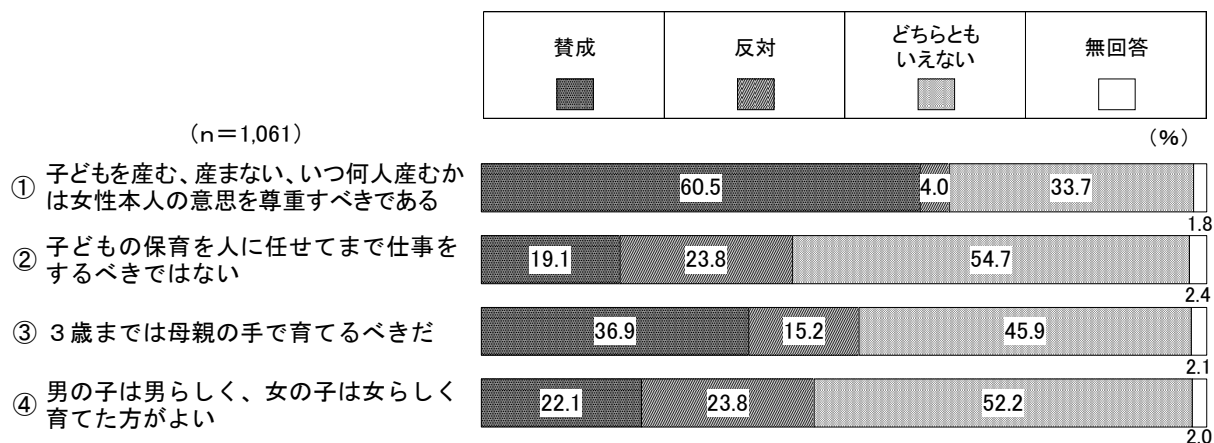
婚姻状況別でみると、「男性がもつ『夫は外で働き』という社会通念をなくすべきである」は結婚していない人（48.3%）が結婚している人（34.4%）より13.9ポイント、「男性に家事・育児参加の必要性について意識啓発を行うべきである」は結婚していない人（52.0%）が結婚している人（43.6%）より8.4ポイント、それぞれ高くなっている。



2 出産・育児に関する意識について

(1) 出産・育児についての考え

問10 出産・育児について、あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

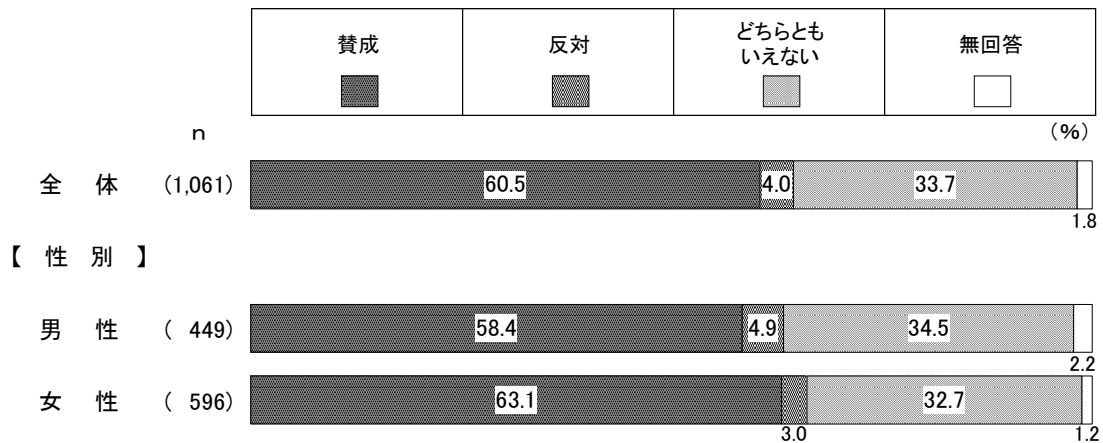


出産・育児について、4項目に分けて聞いたところ、「賛成」は“子どもを産む、産まない、いつ何人産むかは女性本人の意思を尊重すべきである”が60.5%で最も高く、次いで“3歳までは母親の手で育てるべきだ”（36.9%）となっている。

一方、「反対」は“子どもの保育を人に任せてまで仕事をするべきではない”と“男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい”がともに23.8%と高くなっている。

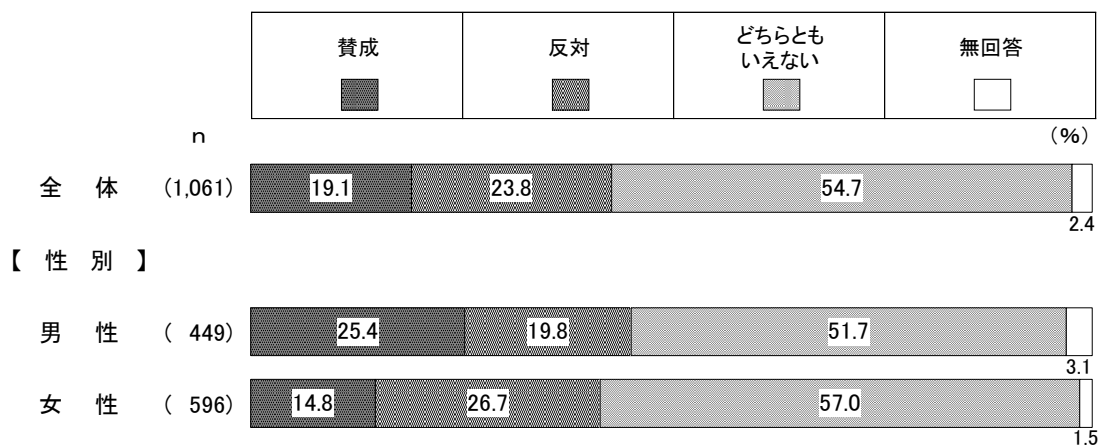
<性別> ①子どもを産む、産まない、いつ何人産むかは女性本人の意思を尊重すべきである

「子どもを産む、産まない、いつ何人産むかは女性本人の意思を尊重すべきである」について、性別でみると、「賛成」は女性（63.1%）が男性（58.4%）より4.7ポイント高くなっている。



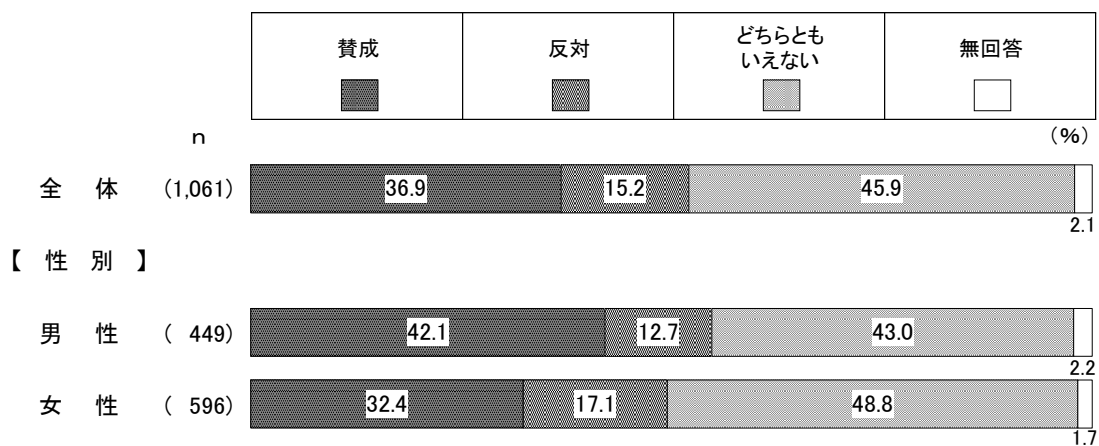
<性別> ②子どもの保育を人に任せてまで仕事をするべきではない

「子どもの保育を人に任せてまで仕事をするべきではない」について、性別でみると、「賛成」は男性（25.4%）が女性（14.8%）より10.6ポイント高くなっている。一方、「反対」は女性（26.7%）が男性（19.8%）より6.9ポイント高くなっている。



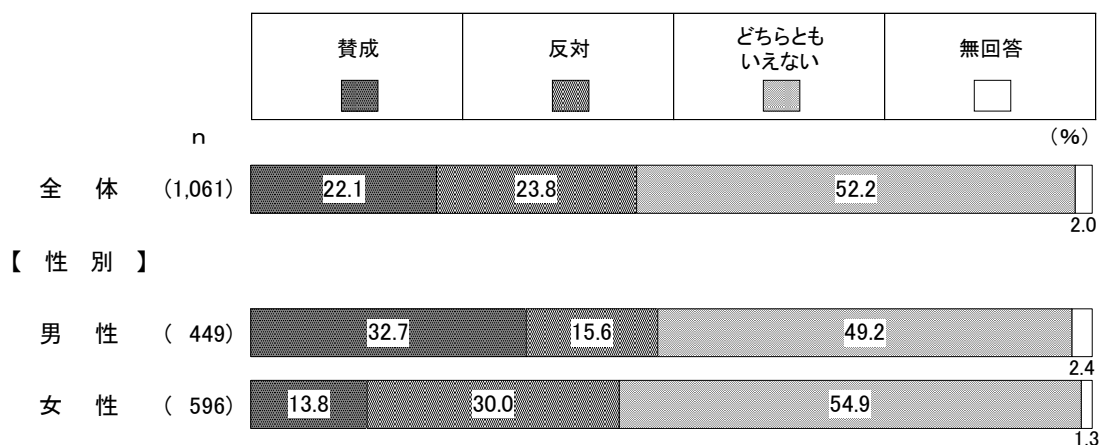
＜性別＞ ③3歳までは母親の手で育てるべきだ

「3歳までは母親の手で育てるべきだ」について、性別でみると、「賛成」は男性（42.1%）が女性（32.4%）より9.7ポイント高くなっている。一方、「反対」は女性（17.1%）が男性（12.7%）より4.4ポイント高くなっている。



＜性別＞ ④男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい

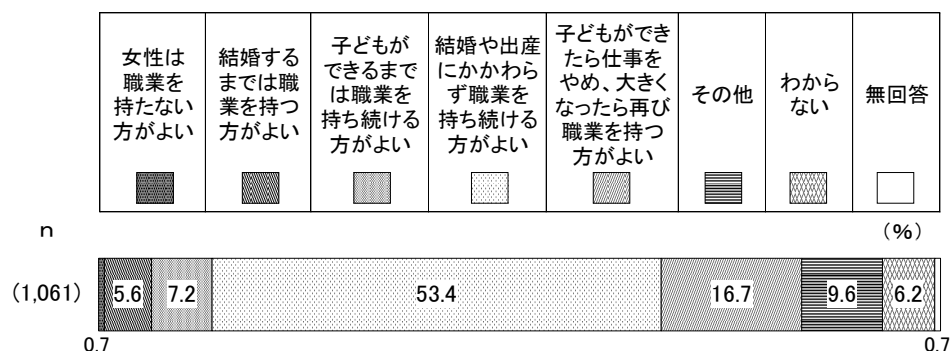
「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」について、性別でみると、「賛成」は男性（32.7%）が女性（13.8%）より18.9ポイント高くなっている。一方、「反対」は女性（30.0%）が男性（15.6%）より14.4ポイント高くなっている。



3 女性の活躍推進に関する意識について

(1) 女性が職業を持つことについての考え

問11 あなたは女性が職業を持つことについてどのようにお考えですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

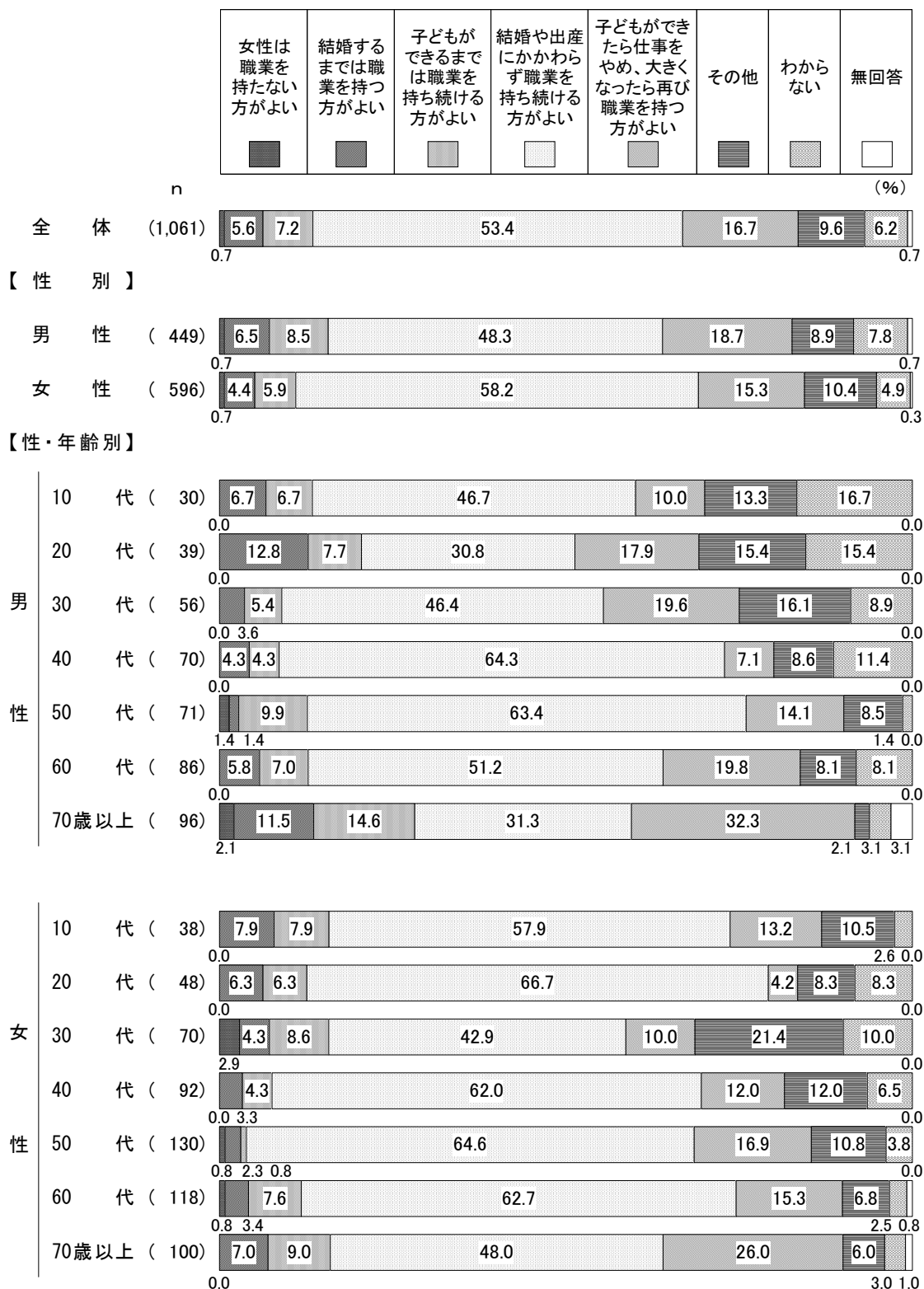


女性が職業を持つことについて聞いたところ、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい」が53.4%で最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(16.7%)、「子どもができるまでは職業を持ち続ける方がよい」(7.2%)となっている。

<性別、性・年齢別>

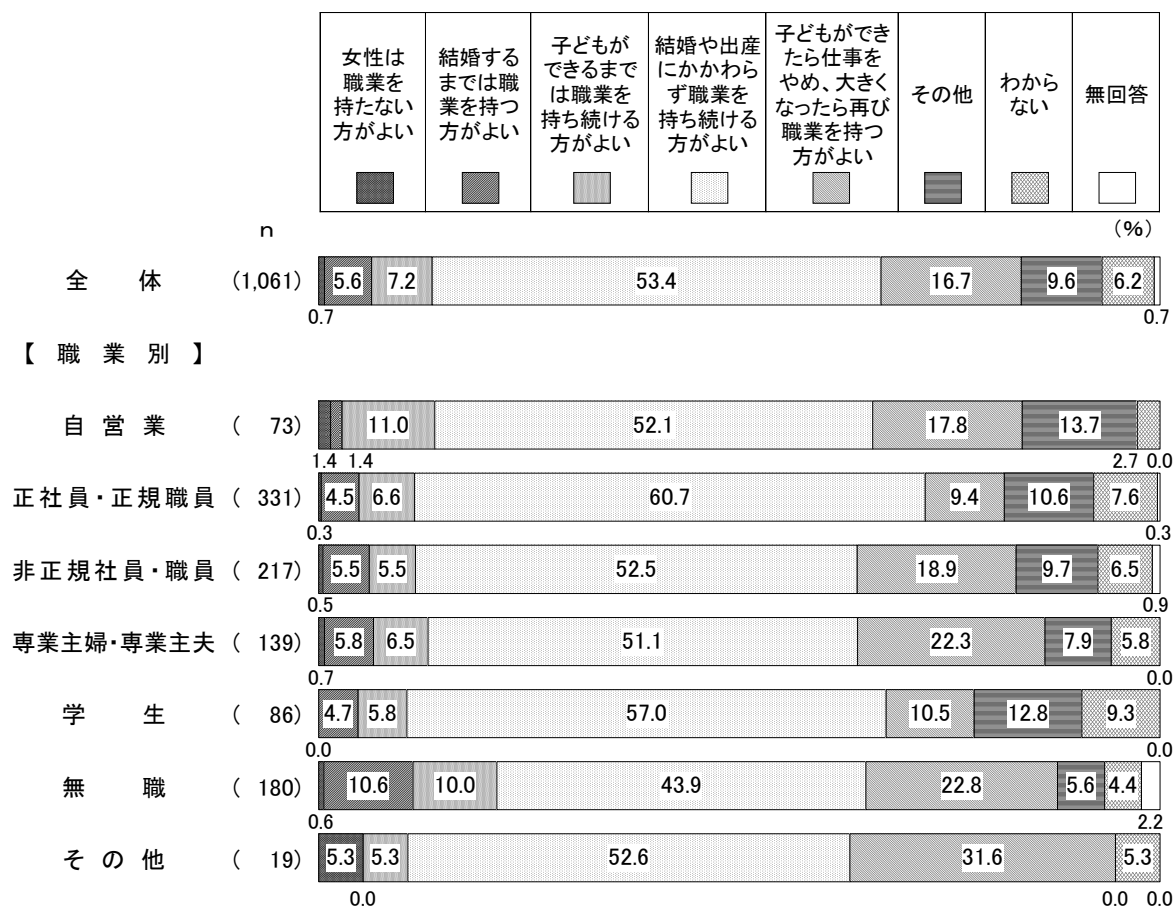
性別でみると、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい」は女性（58.2%）が男性（48.3%）より9.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい」は女性20代（66.7%）で高くなっている。「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」は男性70歳以上（32.3%）で高くなっている。



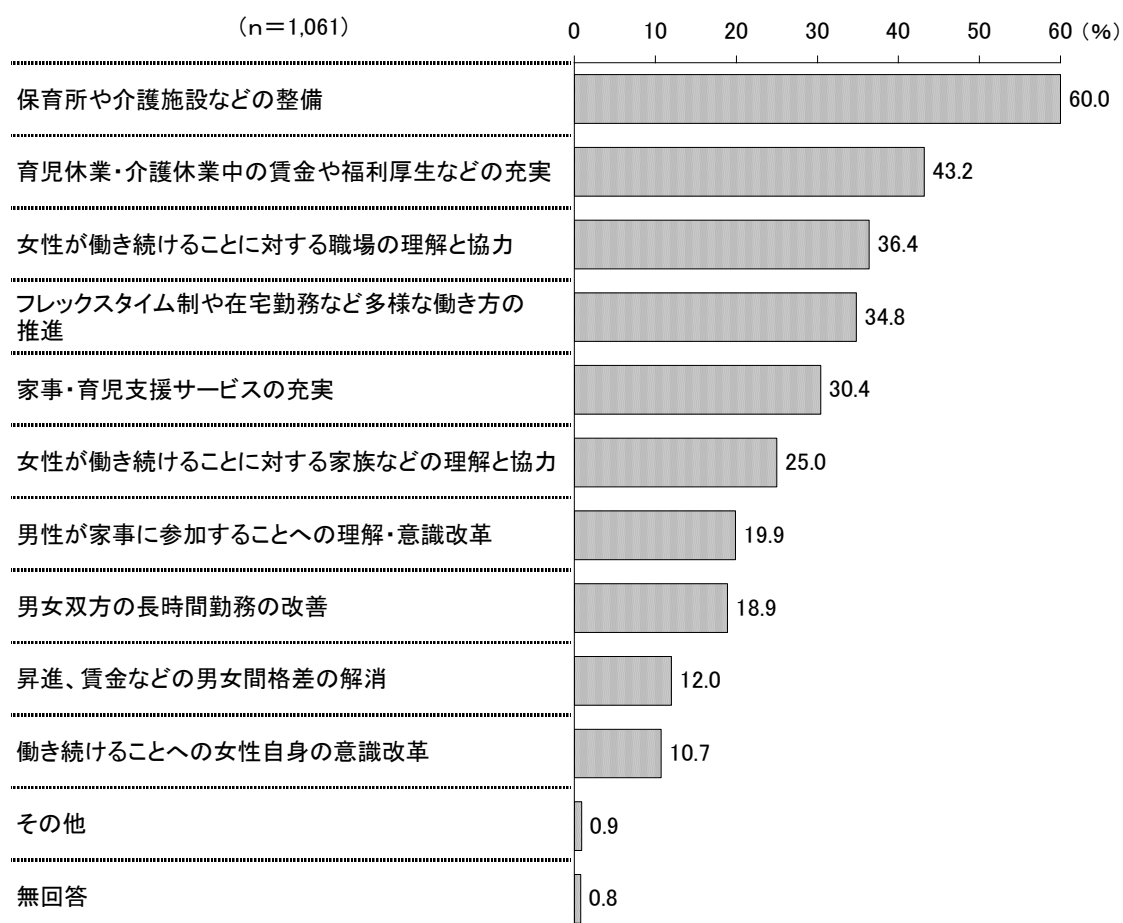
<職業別>

職業別でみると、「結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい」は正社員・正規職員（60.7%）で高くなっている。「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」は無職（22.8%）と専業主婦・専業主夫（22.3%）で高くなっている。



(2) 女性が働き続けるために必要だと思うこと

問12 女性は男性に比べ、就職しても途中で離職する割合が高いですが、女性が働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いもの3つに○をつけてください。

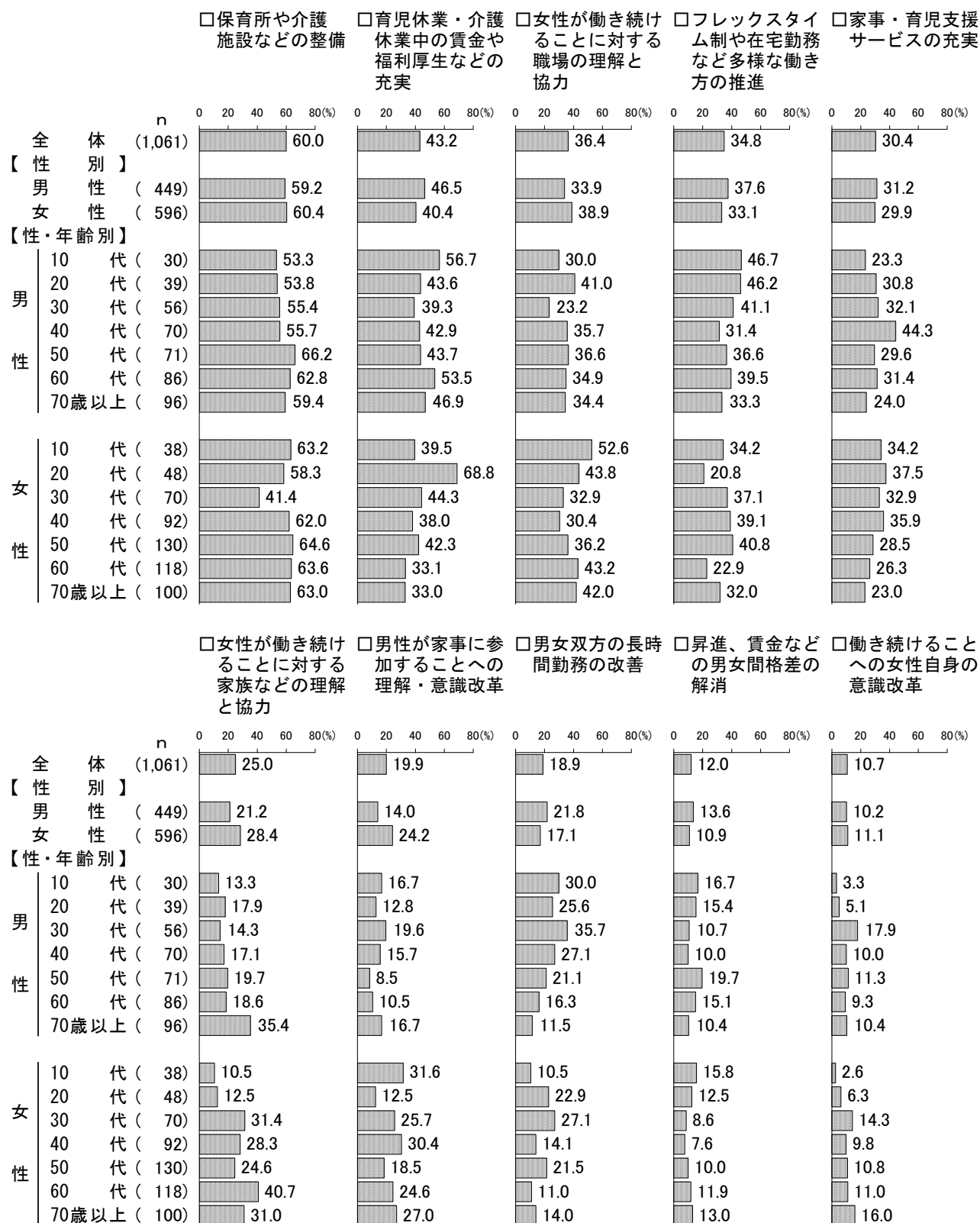


女性が働き続けるためにはどのようなことが必要だと思うか聞いたところ、「保育所や介護施設などの整備」が60.0%で最も高く、次いで「育児休業・介護休業中の賃金や福利厚生などの充実」(43.2%)、「女性が働き続けることに対する職場の理解と協力」(36.4%)、「フレックスタイム制や在宅勤務など多様な働き方の推進」(34.8%)となっている。

<性別、性・年齢別>

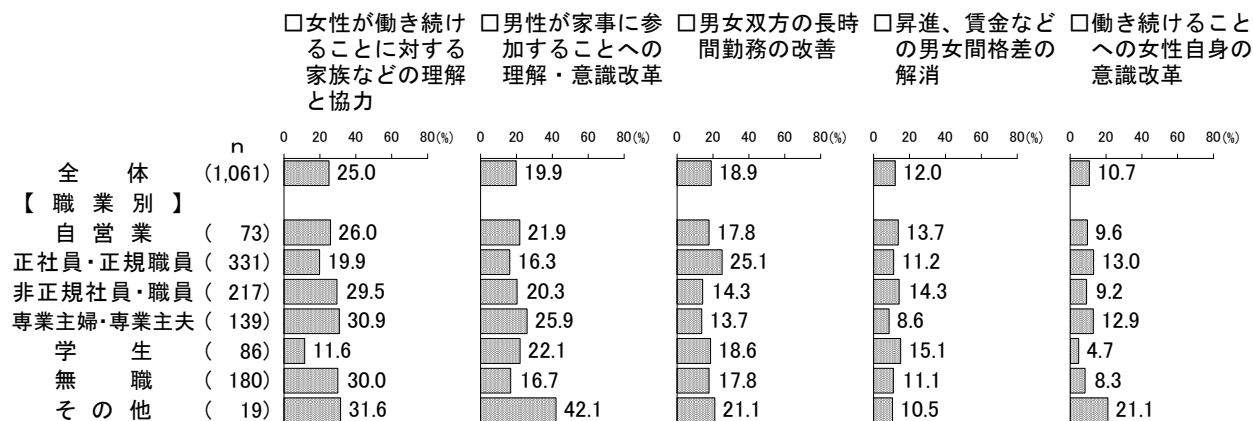
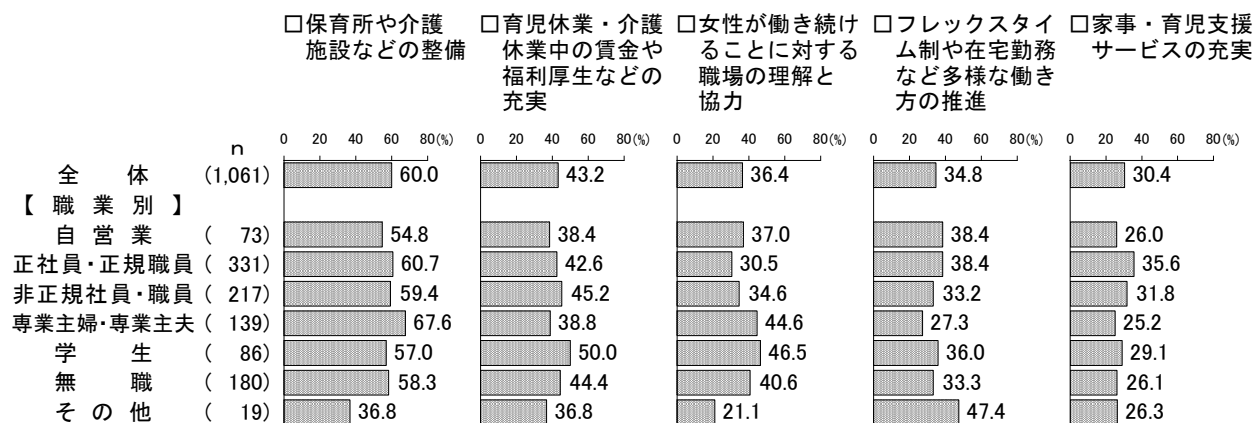
性別でみると、「男性が家事に参加することへの理解・意識改革」は女性(24.2%)が男性(14.0%)より10.2ポイント高くなっている。一方、「育児休業・介護休業中の賃金や福利厚生などの充実」は男性(46.5%)が女性(40.4%)より6.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「育児休業・介護休業中の賃金や福利厚生などの充実」は女性20代(68.8%)で高くなっている。「女性が働き続けることに対する職場の理解と協力」は女性10代(52.6%)で高くなっている。



<職業別>

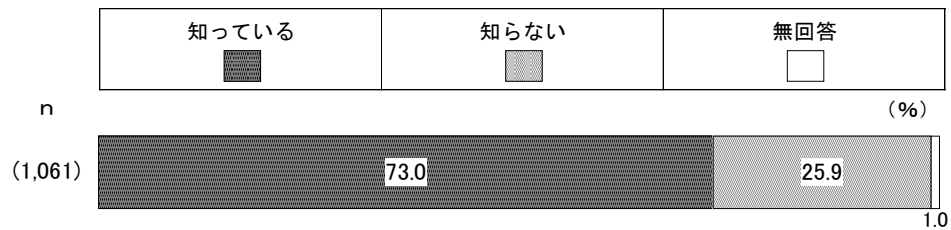
職業別でみると、「保育所や介護施設などの整備」は専業主婦・専業主夫（67.6%）で高くなっている。「育児休業・介護休業中の賃金や福利厚生などの充実」は学生（50.0%）で高くなっている。



4 性の多様性について

(1) セクシュアル・マイノリティ（LGBT等）の認知度

問13 あなたは、セクシュアル・マイノリティ（またはLGBT等）という言葉を知っていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

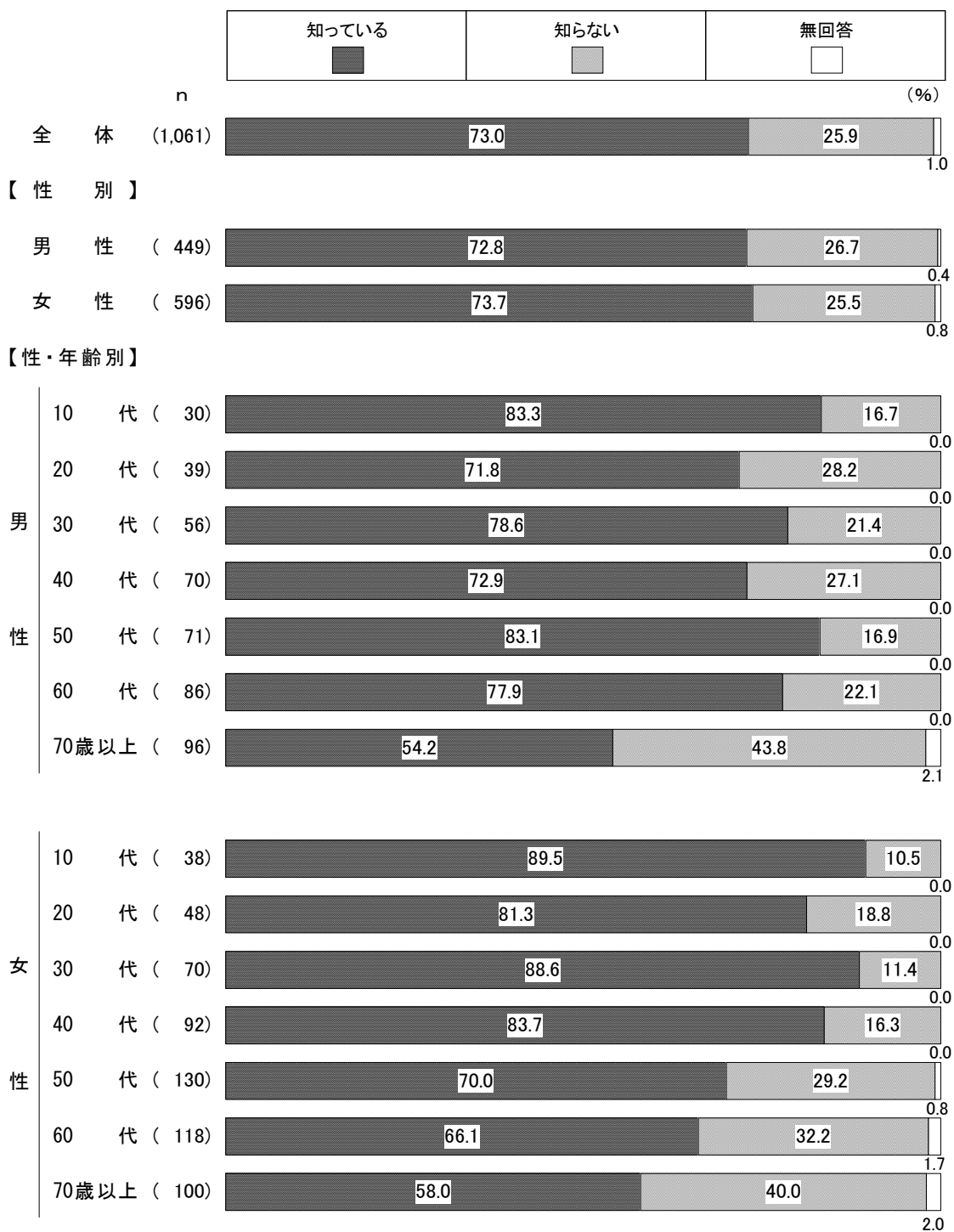


セクシュアル・マイノリティ（またはLGBT等）という言葉を知っているか聞いたところ、「知っている」が73.0%、「知らない」は25.9%となっている。

<性別、性・年齢別>

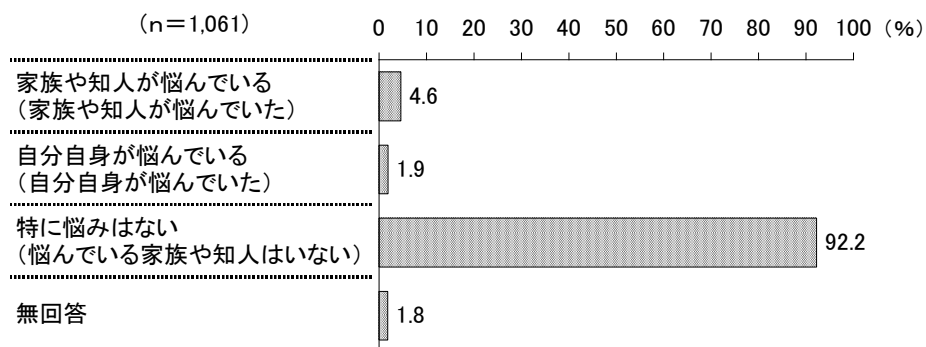
性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、「知っている」は女性の10代（89.5%）と30代（88.6%）で高くなっている。一方、「知らない」は男性70歳以上（43.8%）と女性70歳以上（40.0%）で高くなっている。



(2) 性について悩んだ経験と身近に悩んでいる人の有無

問14 あなたは、今までに自分の身体の性や心の性、または性的指向（同性愛など）に悩んだことはありますか。または、身近に悩んでいる人がいますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

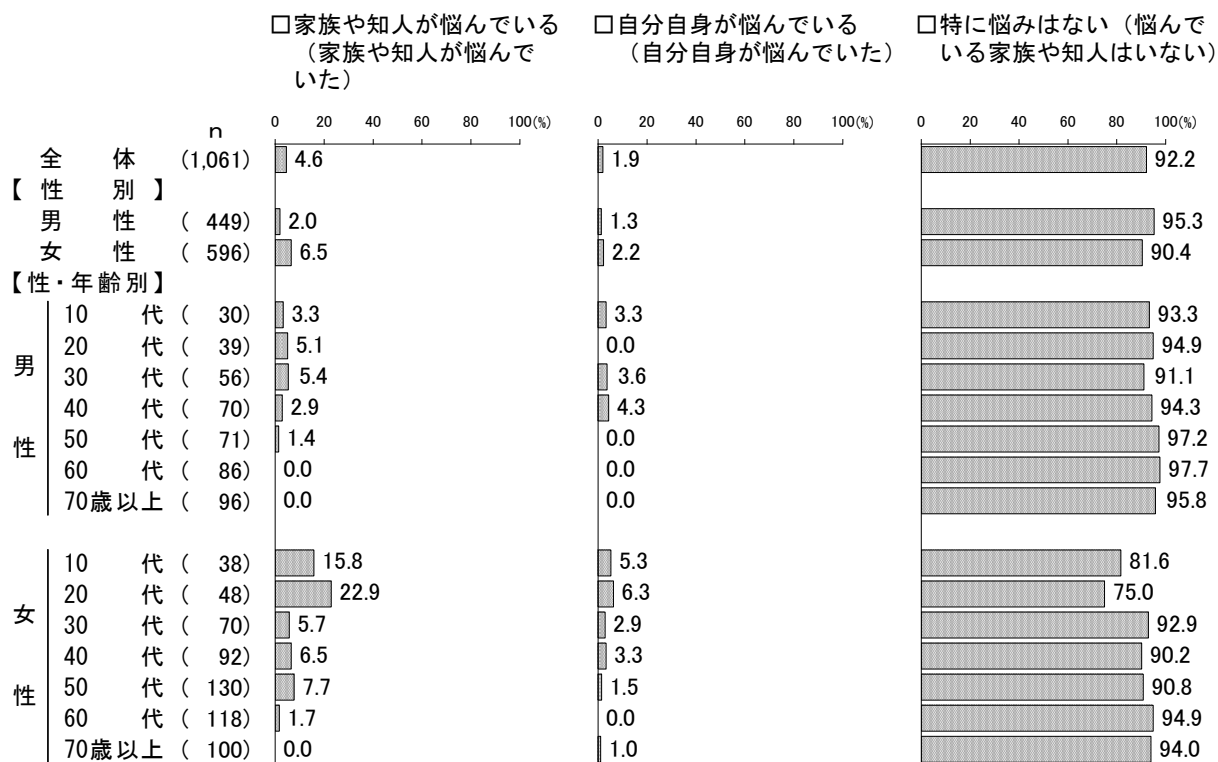


性について悩んだ経験と身近に悩んでいる人の有無を聞いたところ、「家族や知人が悩んでいる（家族や知人が悩んでいた）」が4.6%、「自分自身が悩んでいる（自分自身が悩んでいた）」は1.9%となっている。一方、「特に悩みはない（悩んでいる家族や知人はいない）」は92.2%となっている。

<性別、性・年齢別>

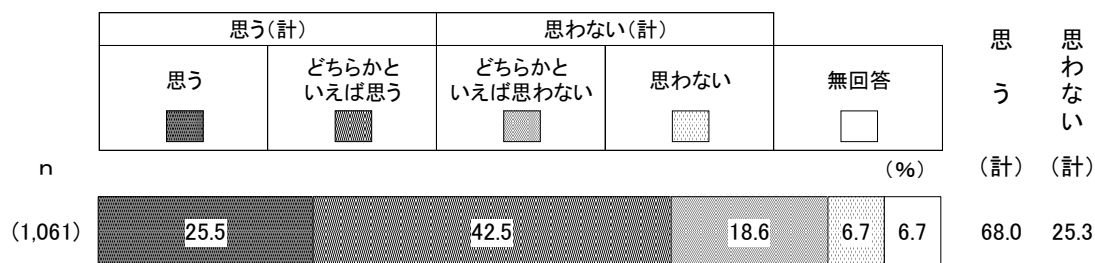
性別でみると、「家族や知人が悩んでいる（家族や知人が悩んでいた）」は女性（6.5%）が男性（2.0%）より4.5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「家族や知人が悩んでいる（家族や知人が悩んでいた）」は女性の10代（15.8%）と20代（22.9%）で高くなっている。



(3) セクシュアル・マイノリティの方々にとって、生活しづらい社会だと思うか

問15 現在、セクシュアル・マイノリティ（またはLGBT等）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

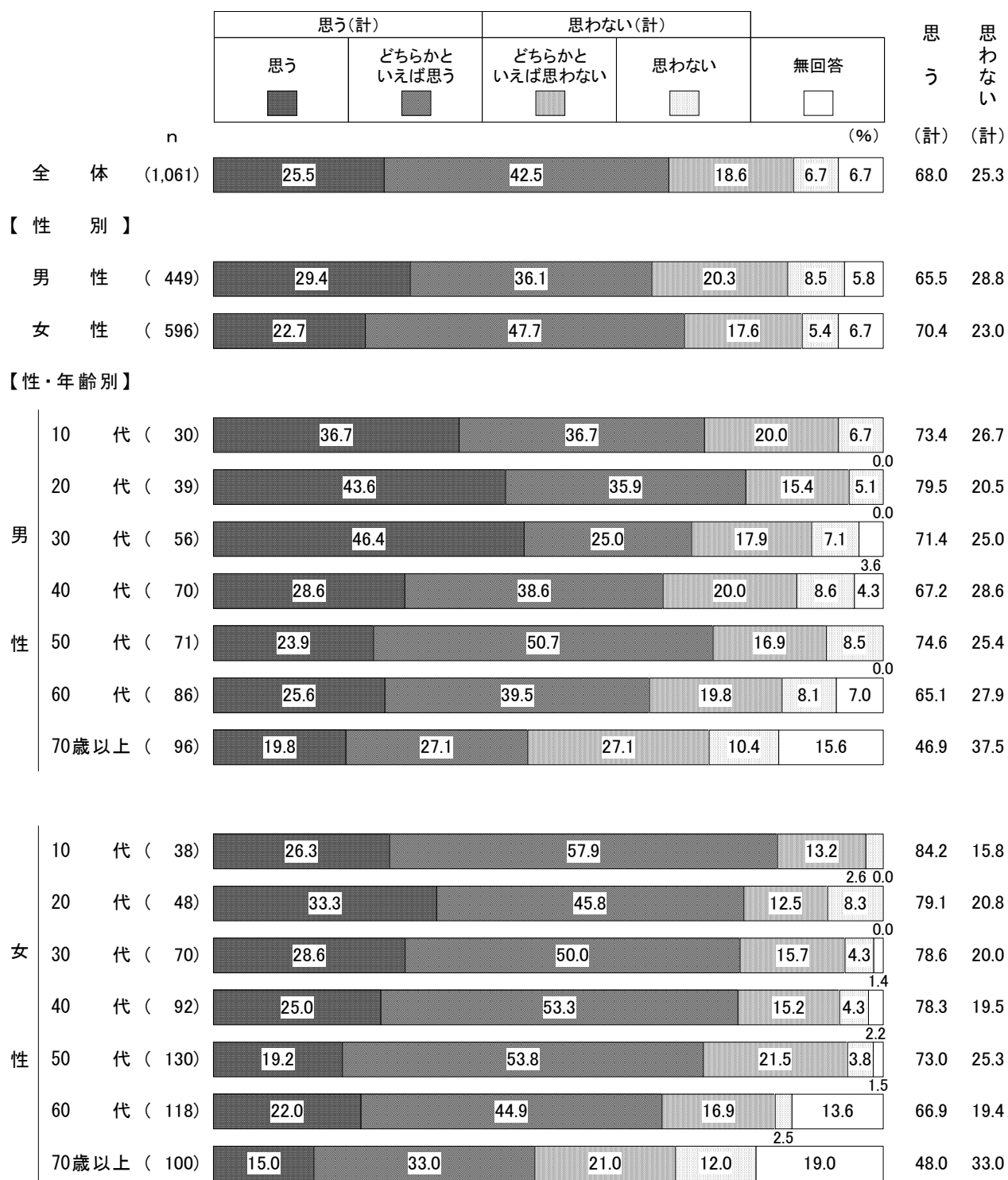


セクシュアル・マイノリティの方々にとって、生活しづらい社会だと思うか聞いたところ、「思う」(25.5%)と「どちらかといえば思う」(42.5%)を合わせた『思う(計)』は68.0%となっている。一方、「どちらかといえば思わない」(18.6%)と「思わない」(6.7%)を合わせた『思わない(計)』は25.3%となっている。

<性別、性・年齢別>

性別でみると、『思う（計）』は女性（70.4%）が男性（65.5%）より4.9ポイント高くなっている。一方、『思わない（計）』は男性（28.8%）が女性（23.0%）より5.8ポイント高くなっている。

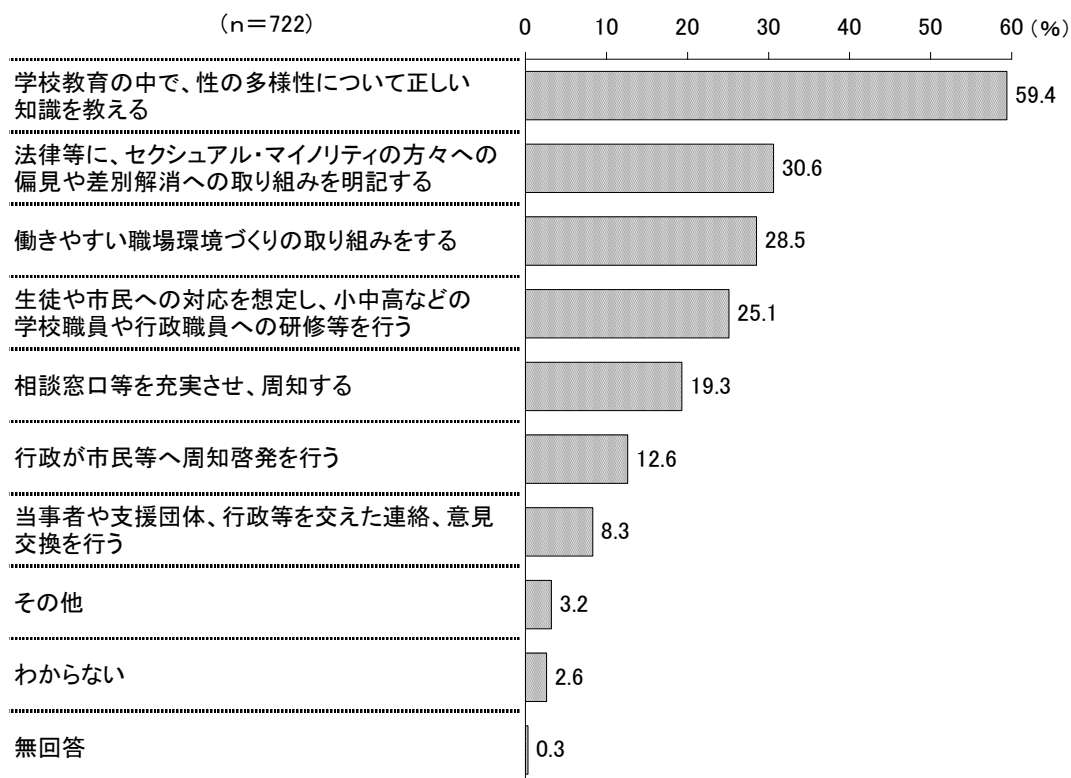
性・年齢別でみると、『思う（計）』は女性10代（84.2%）で高くなっている。一方、『思わない（計）』は男性70歳以上（37.5%）と女性70歳以上（33.0%）で高くなっている。



(4) セクシュアル・マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策

(問15で、「思う」または「どちらかといえば思う」と回答した方にお伺いします。)

問15-1 セクシュアル・マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、セクシュアル・マイノリティの方々が生活しやすくなるためどのような対策が必要だと思いますか。あてはまる番号2つに○をつけてください。

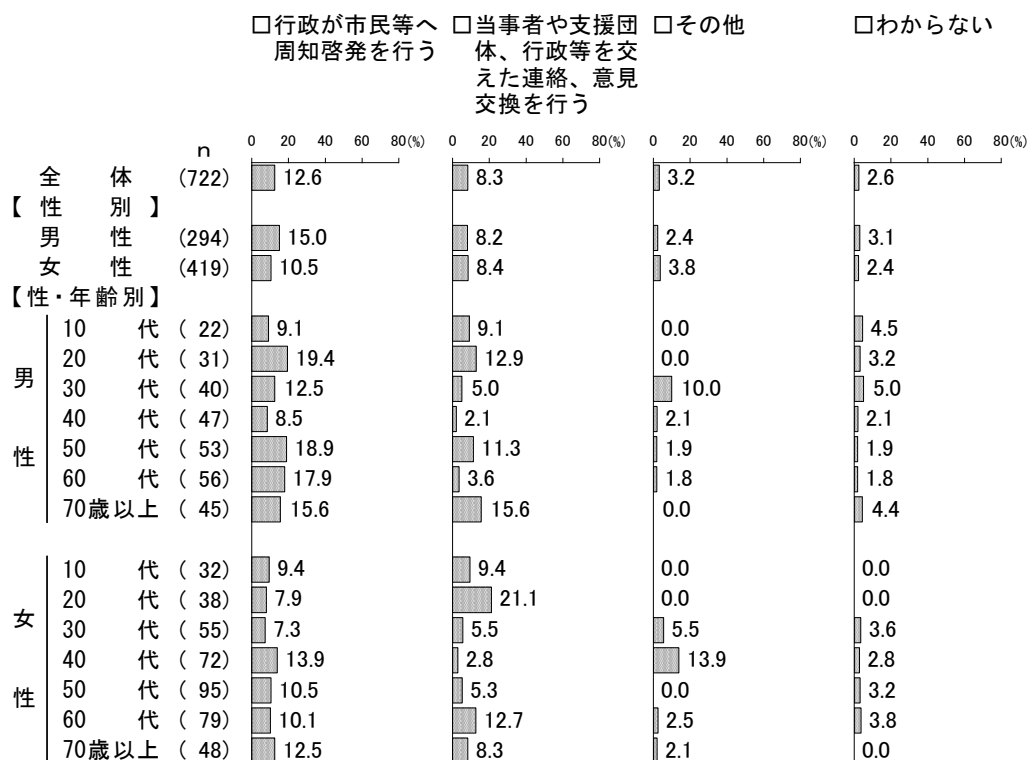
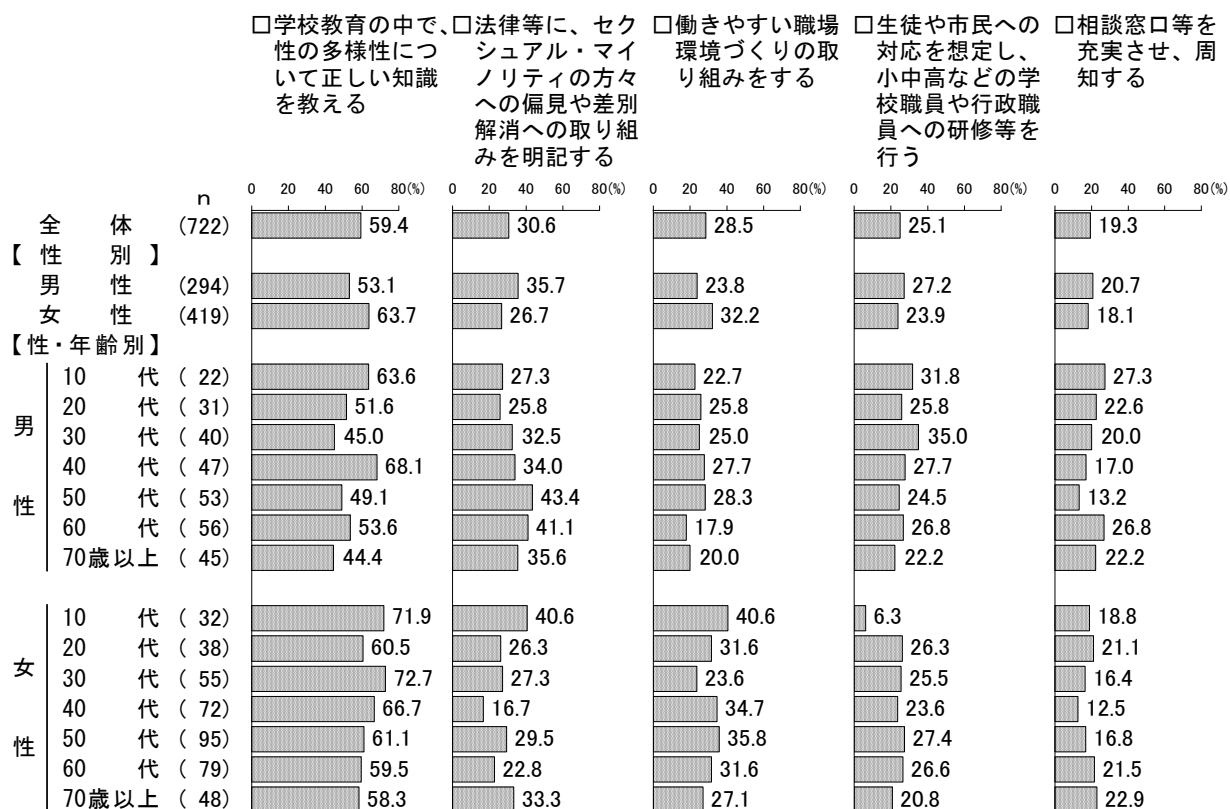


セクシュアル・マイノリティの方々にとって、生活しづらい社会だと「思う」または「どちらかといえば思う」と答えた方に、セクシュアル・マイノリティの方々が生活しやすくなるためどのような対策が必要だと思うか聞いたところ、「学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える」が59.4%で最も高く、次いで「法律等に、セクシュアル・マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」(30.6%)、「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」(28.5%)、「生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校職員や行政職員への研修等を行う」(25.1%)となっている。

<性別、性・年齢別>

性別でみると、「学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える」は女性（63.7%）が男性（53.1%）より10.6ポイント高くなっている。一方、「法律等に、セクシュアル・マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」は男性（35.7%）が女性（26.7%）より9.0ポイント高くなっている。

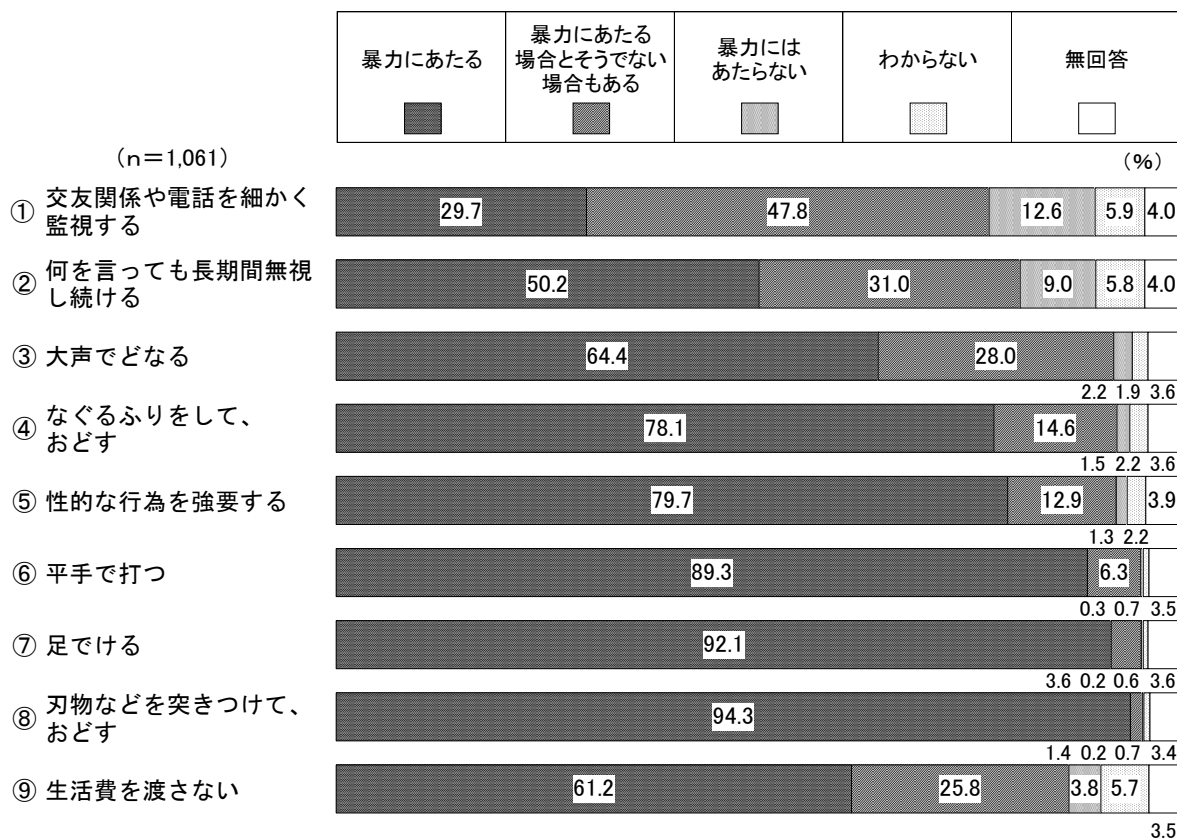
性・年齢別でみると、「学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える」は女性の10代（71.9%）と30代（72.7%）で高くなっている。



5 DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する意識について

（１）暴力として認識される行為

問16 あなたは、次のようなことが夫婦や恋人などの間で行われた場合、暴力だと思いますか。あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。



次のようなことが夫婦や恋人などの間で行われた場合、暴力だと思うかを、9項目に分けて聞いたところ、「暴力にあたる」は“刃物などを突きつけて、おどす”が94.3%で最も高く、次いで“足でける”（92.1%）、“平手で打つ”（89.3%）となっている。

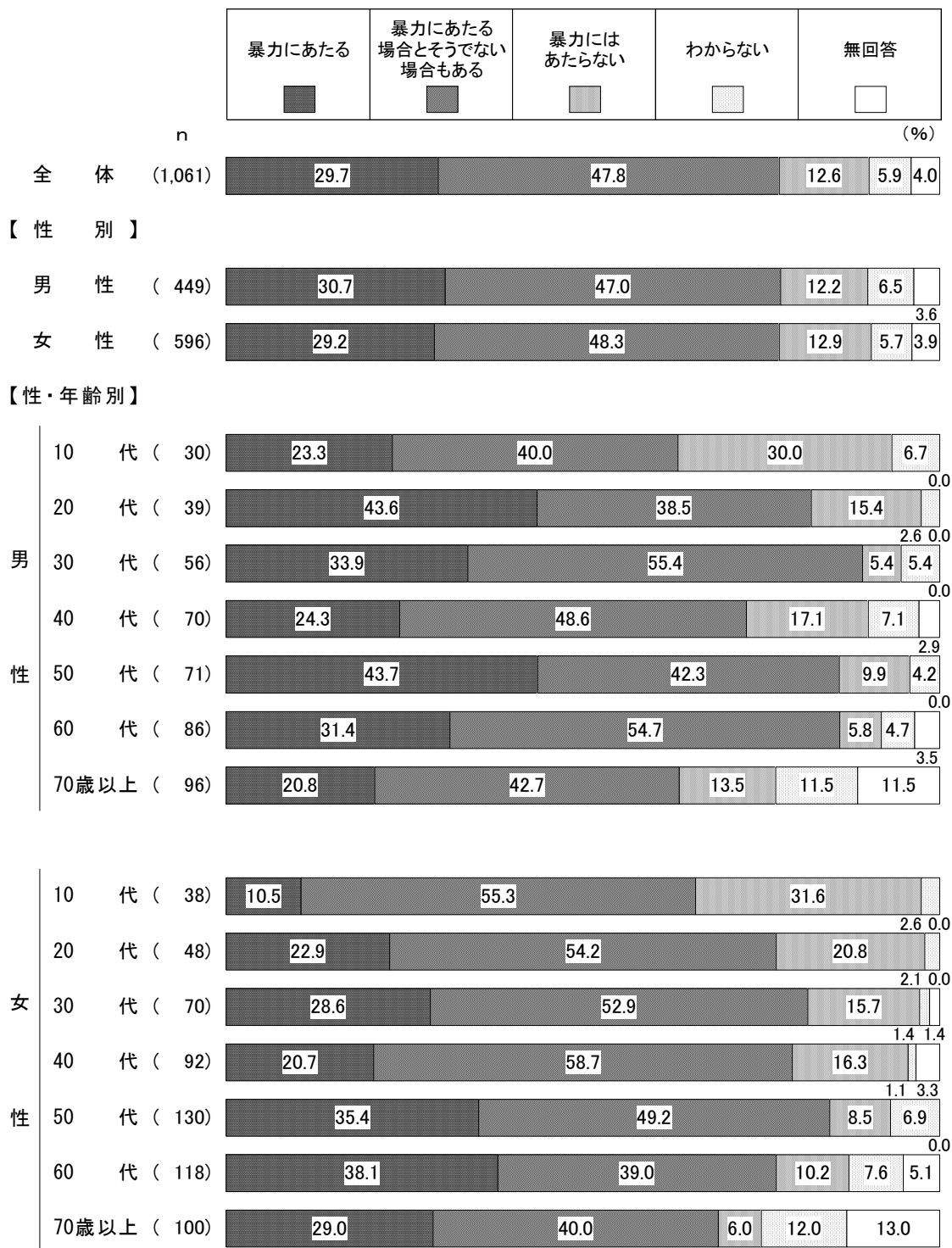
一方、「暴力にはあたらない」は“交友関係や電話を細かく監視する”が12.6%で最も高く、次いで“何を言っても長期間無視し続ける”（9.0%）となっている。

また、「暴力にあたる場合とそうでない場合もある」は“交友関係や電話を細かく監視する”が47.8%で最も高く、次いで“何を言っても長期間無視し続ける”（31.0%）、“大声でどなる”（28.0%）となっている。

<性別、性・年齢別> ①交友関係や電話を細かく監視する

交友関係や電話を細かく監視するについて、性別でみると、大きな違いはみられない。

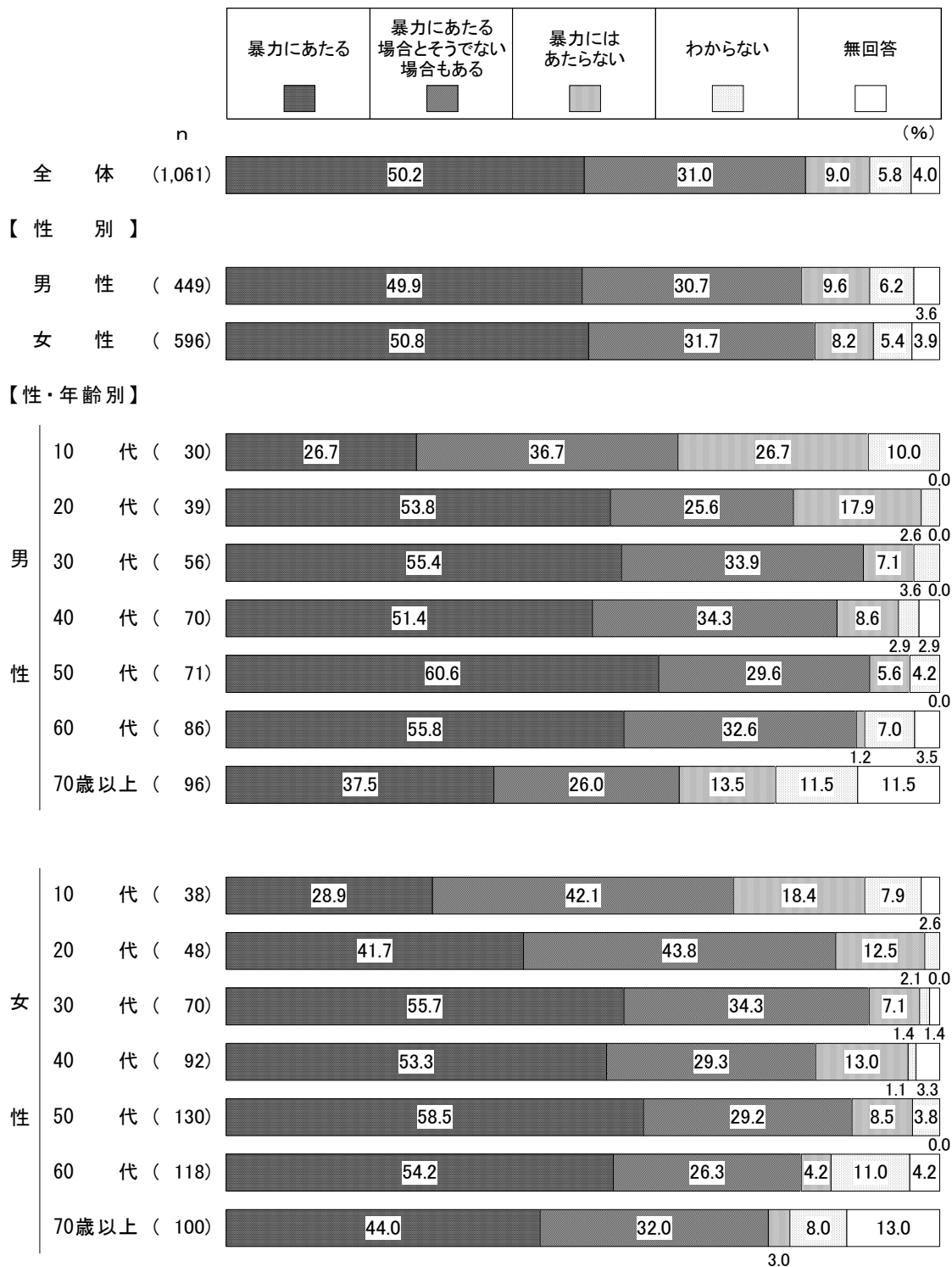
性・年齢別でみると、「暴力にあたる」は男性の20代（43.6%）と50代（43.7%）で高くなっている。一方、「暴力にはあたらない」は女性10代（31.6%）と男性10代（30.0%）で高くなっている。



<性別、性・年齢別> ②何を言っても長期間無視し続ける

何を言っても長期間無視し続けるについて、性別でみると、大きな違いはみられない。

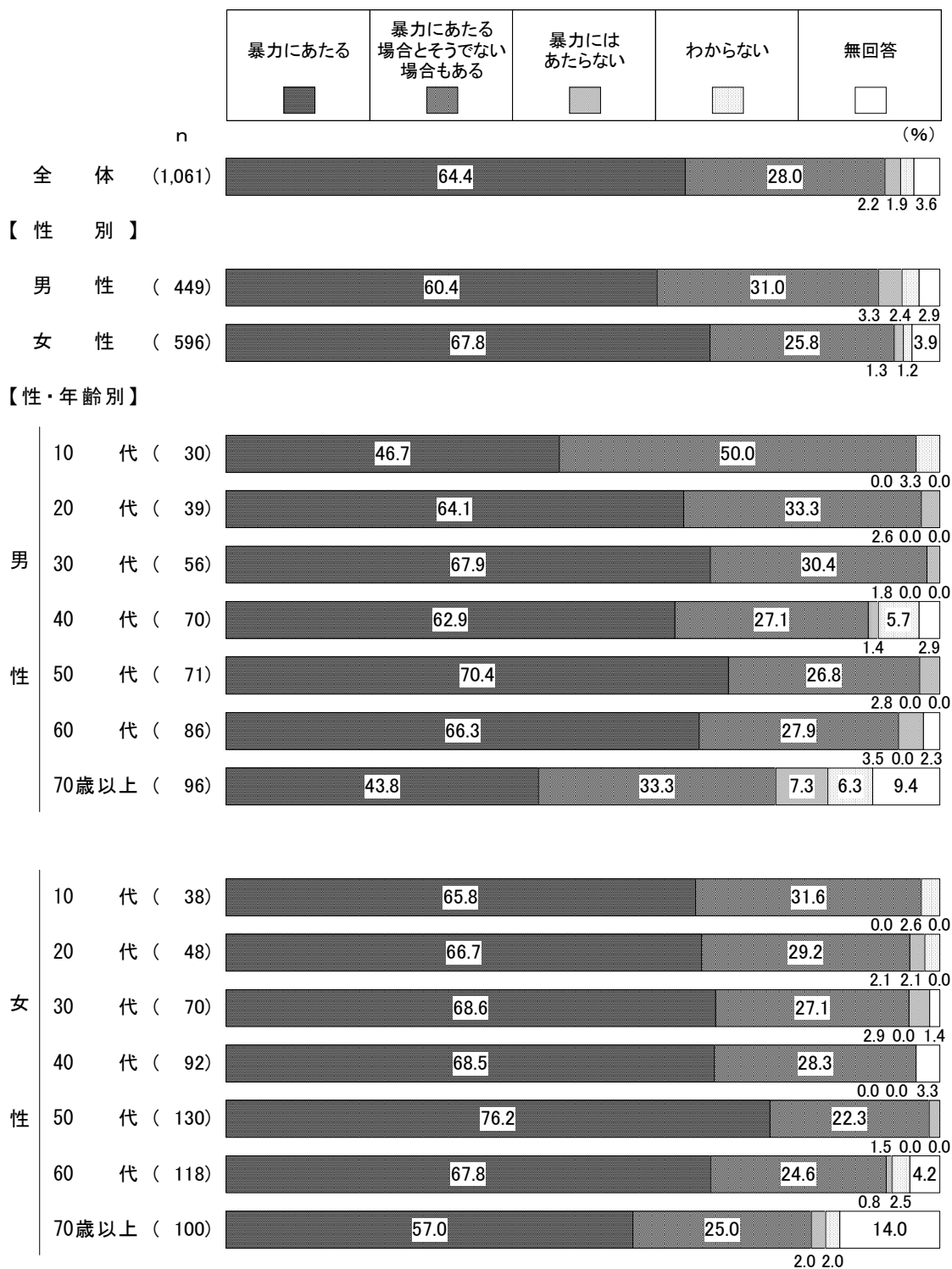
性・年齢別でみると、「暴力にあたる」は男性50代（60.6%）で高くなっている。一方、「暴力にはあたらない」は男性10代（26.7%）で高くなっている。



<性別、性・年齢別> ③大声でどなる

大声でどなるについて、性別でみると、「暴力にあたる」は女性（67.8%）が男性（60.4%）より7.4ポイント高くなっている。一方、「暴力にあたる場合とそうでない場合もある」は男性（31.0%）が女性（25.8%）より5.2ポイント高くなっている。

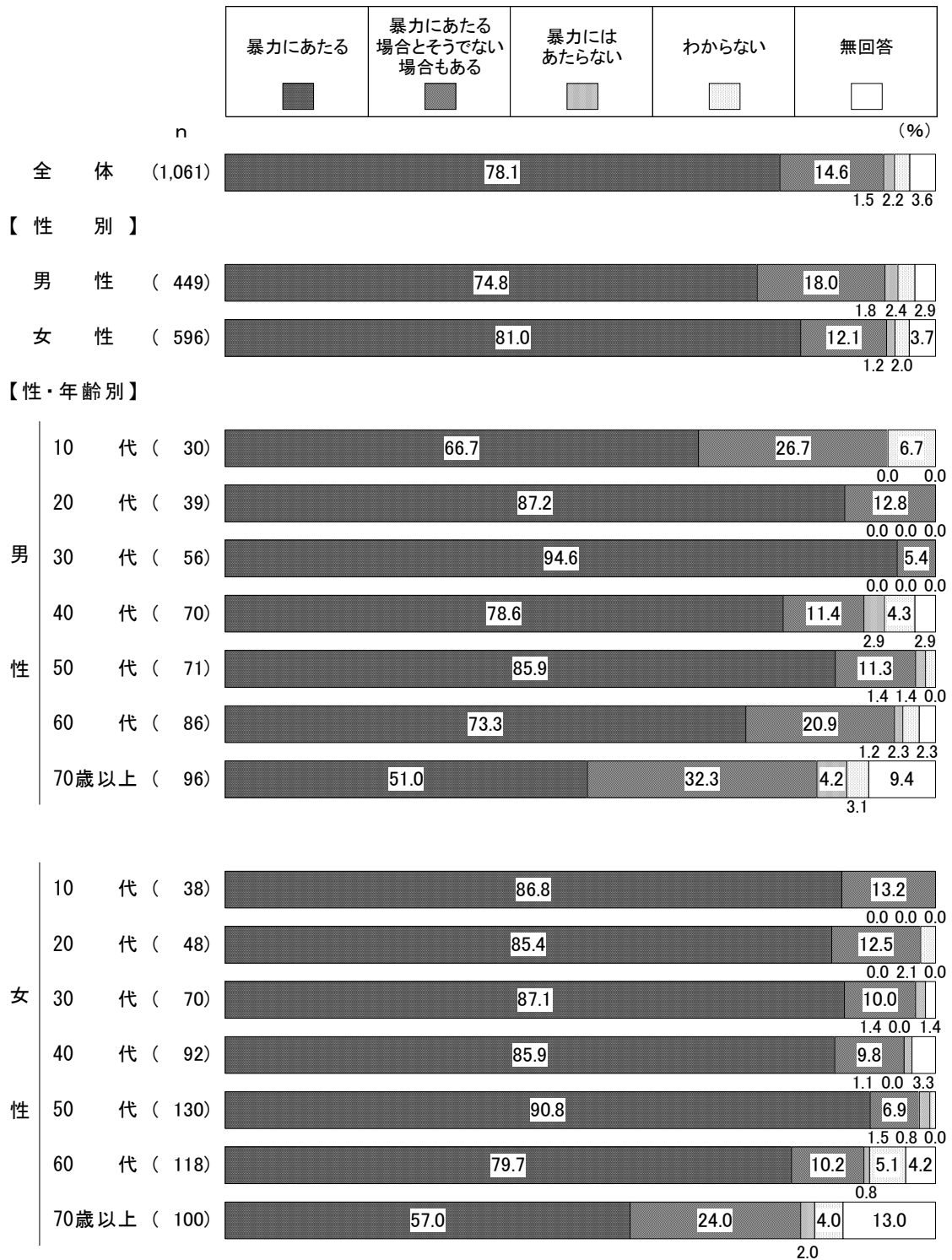
性・年齢別でみると、「暴力にあたる」は女性50代（76.2%）と男性50代（70.4%）で高くなっている。「暴力にあたる場合とそうでない場合もある」は男性10代（50.0%）で高くなっている。



<性別、性・年齢別> ④なぐるふりをして、おどす

なぐるふりをして、おどすについて、性別でみると、「暴力にあたる」は女性（81.0%）が男性（74.8%）より6.2ポイント高くなっている。一方、「暴力にあたる場合とそうでない場合もある」は男性（18.0%）が女性（12.1%）より5.9ポイント高くなっている。

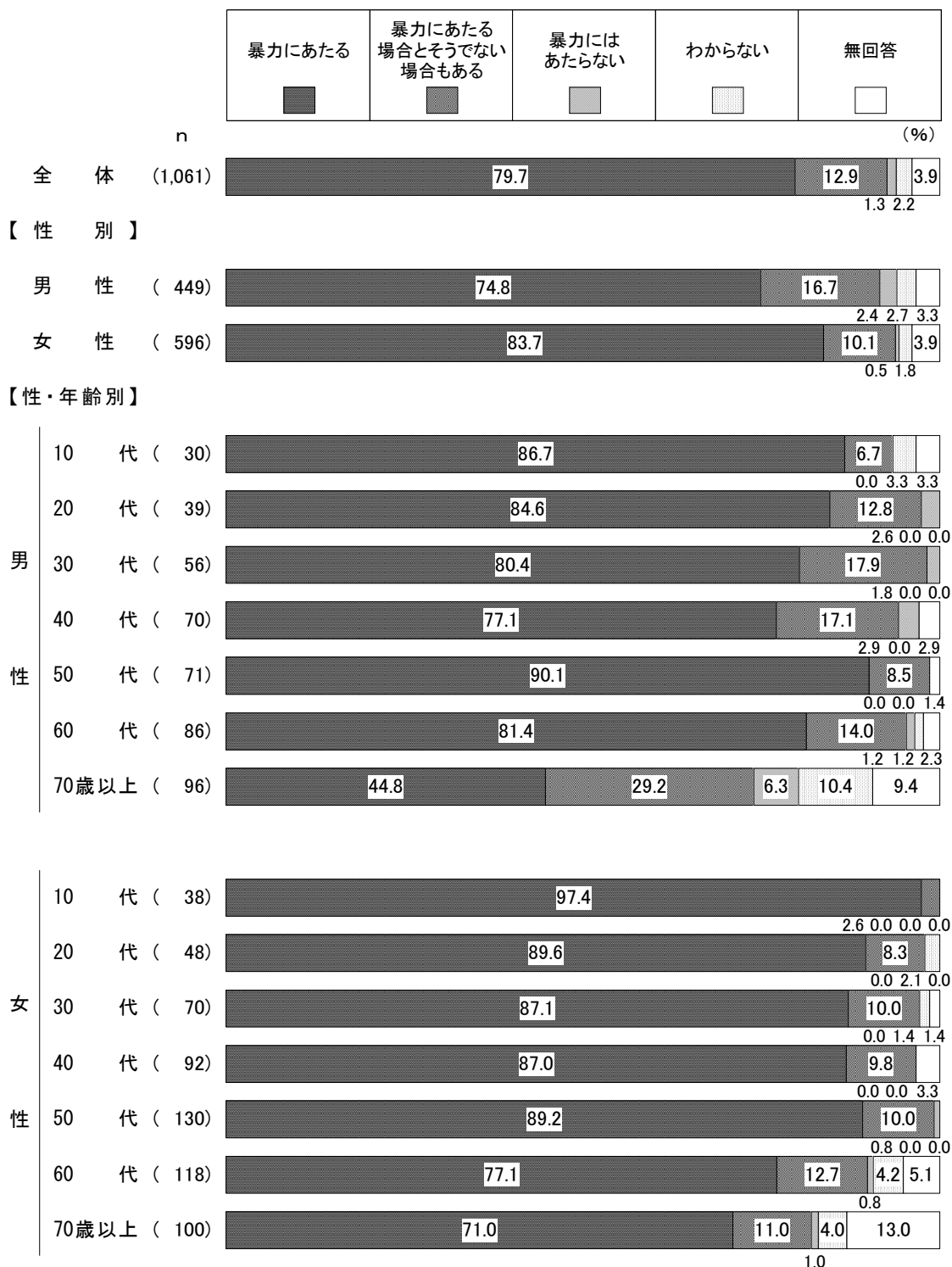
性・年齢別でみると、「暴力にあたる」は男性30代（94.6%）で高くなっている。「暴力にあたる場合とそうでない場合もある」は男性70歳以上（32.3%）で高くなっている。



<性別、性・年齢別> ⑤性的な行為を強要する

性的な行為を強要するについて、性別でみると、「暴力にあたる」は女性(83.7%)が男性(74.8%)より8.9ポイント高くなっている。一方、「暴力にあたる場合とそうでない場合もある」は男性(16.7%)が女性(10.1%)より6.6ポイント高くなっている。

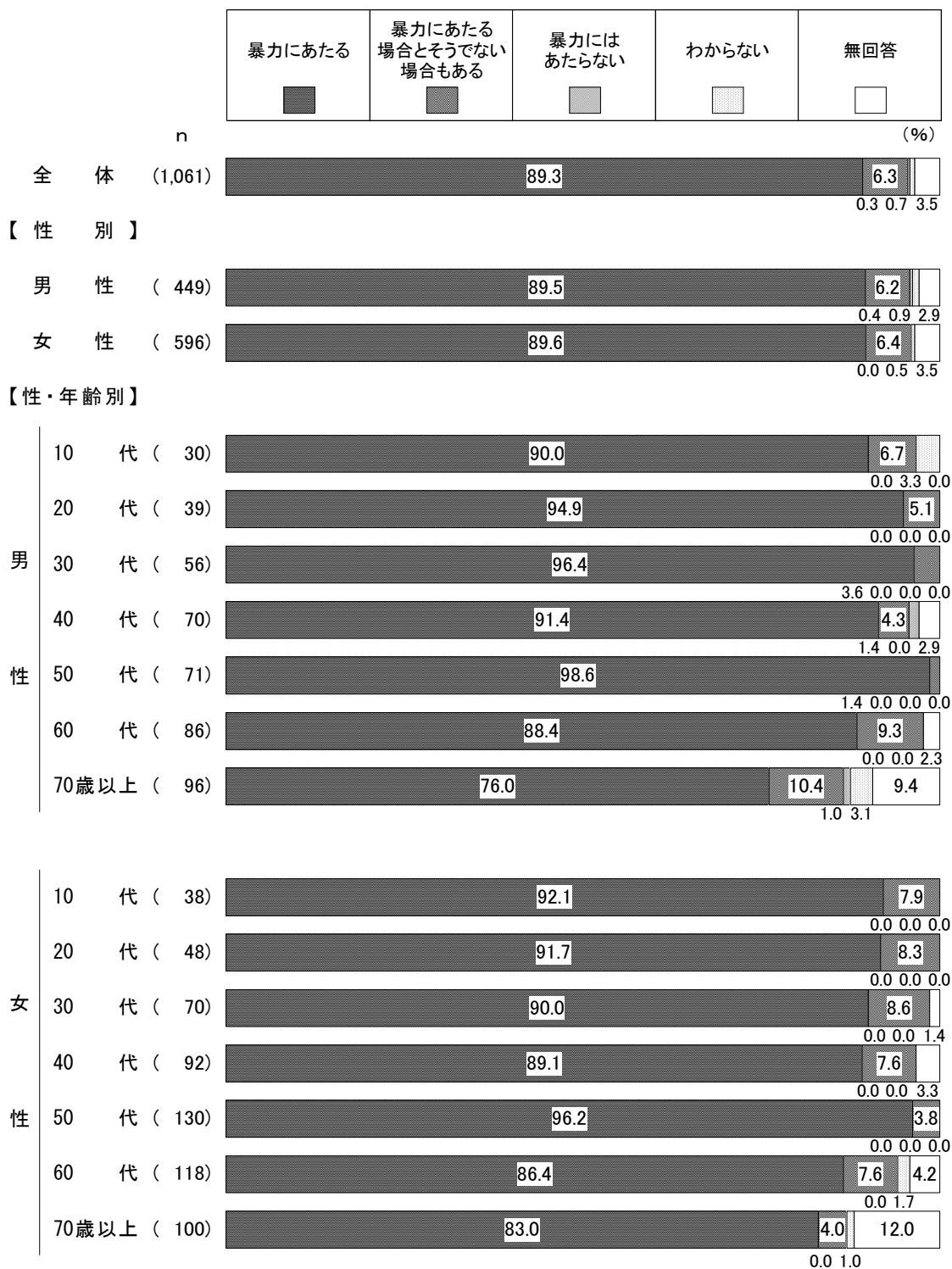
性・年齢別でみると、「暴力にあたる」は女性10代(97.4%)で高くなっている。「暴力にあたる場合とそうでない場合もある」は男性70歳以上(29.2%)で高くなっている。



<性別、性・年齢別> ⑥平手で打つ

平手で打つについて、性別でみると、大きな違いはみられない。

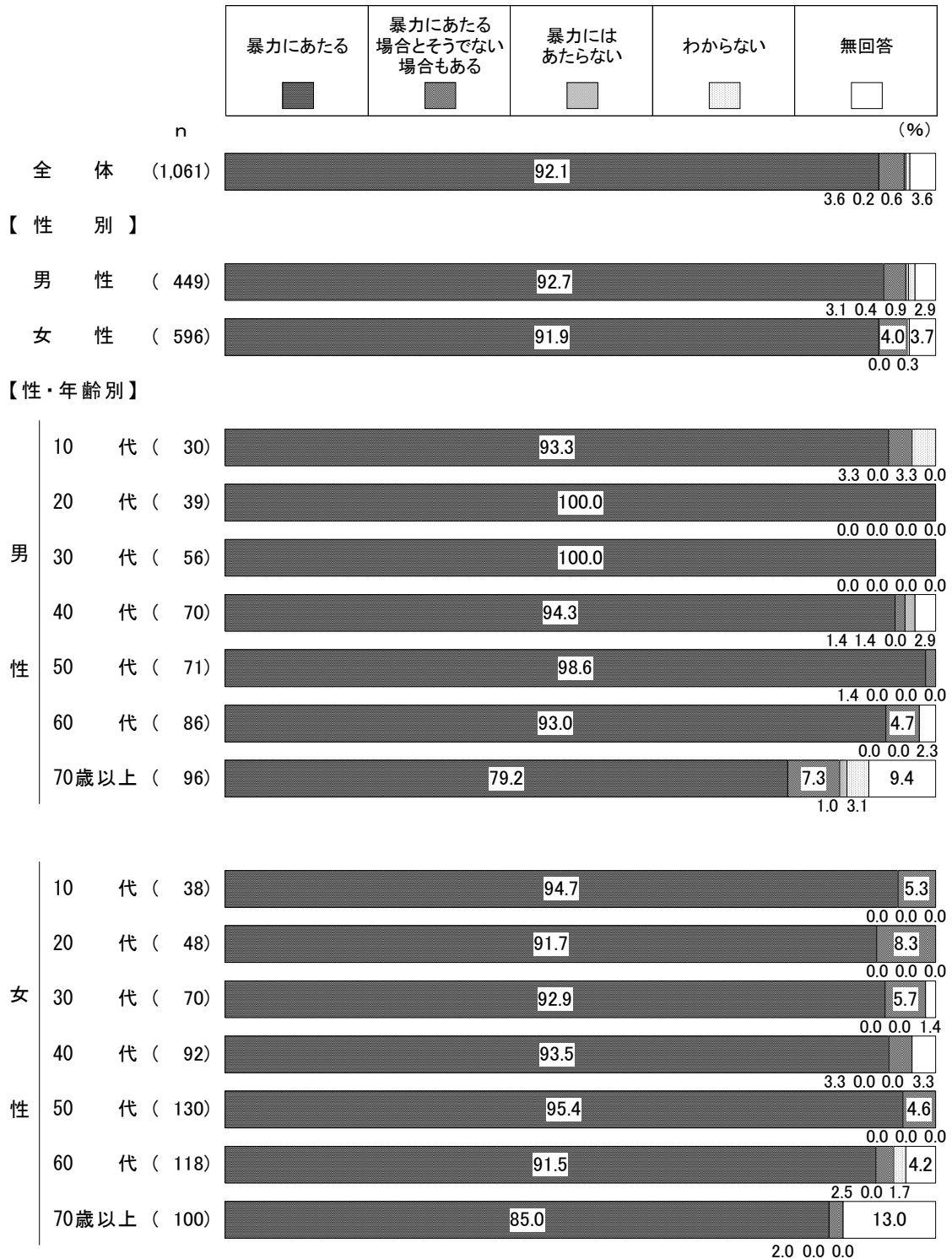
性・年齢別でみると、「暴力にあたる」は男性50代（98.6%）で高くなっている。



<性別、性・年齢別> ⑦足でける

足でけるについて、性別でみると、大きな違いはみられない。

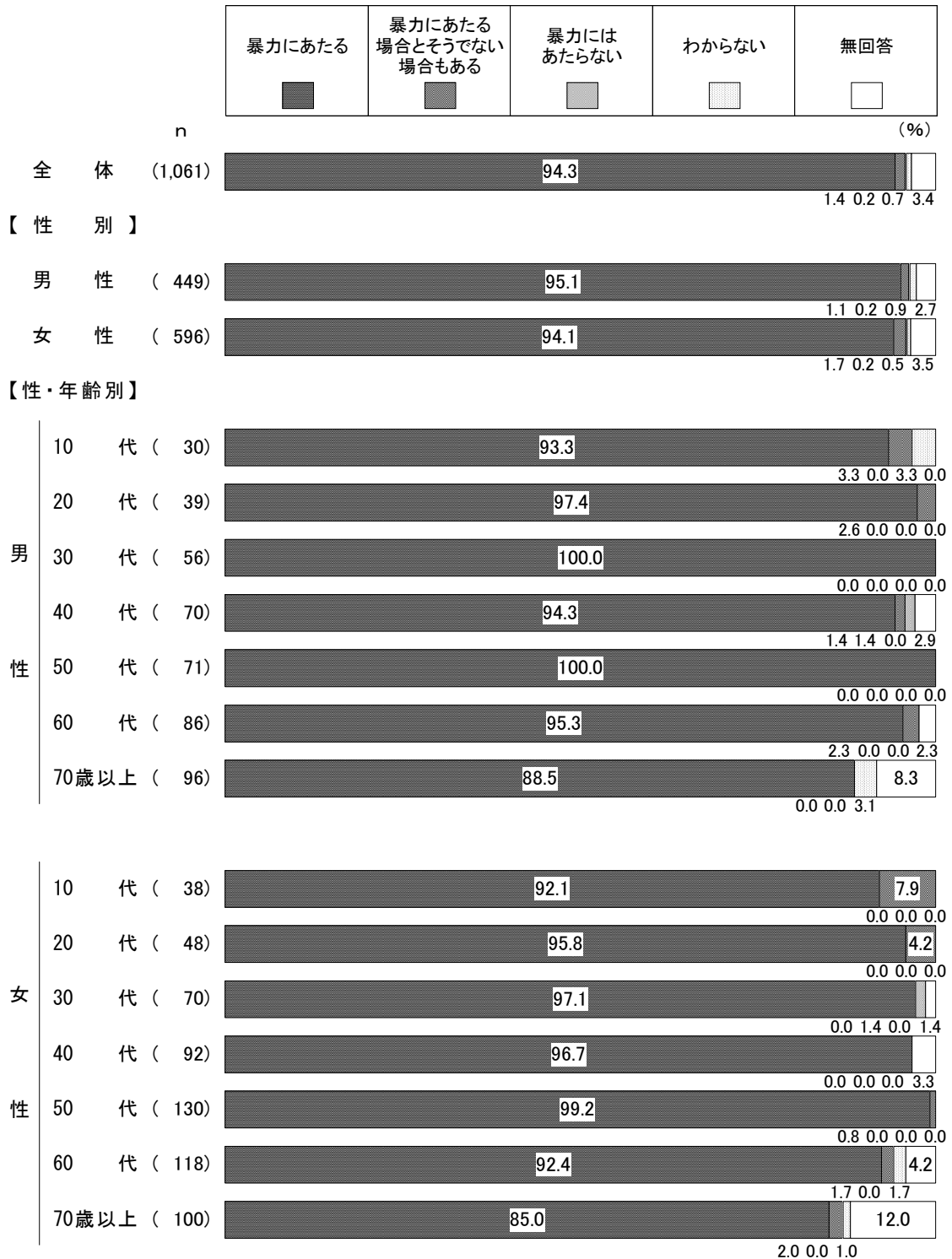
性・年齢別でみると、「暴力にあたる」は男性の20代と30代（ともに100.0%）で高くなっている。



<性別、性・年齢別> ⑧刃物などを突きつけて、おどす

刃物などを突きつけて、おどすについて、性別でみると、大きな違いはみられない。

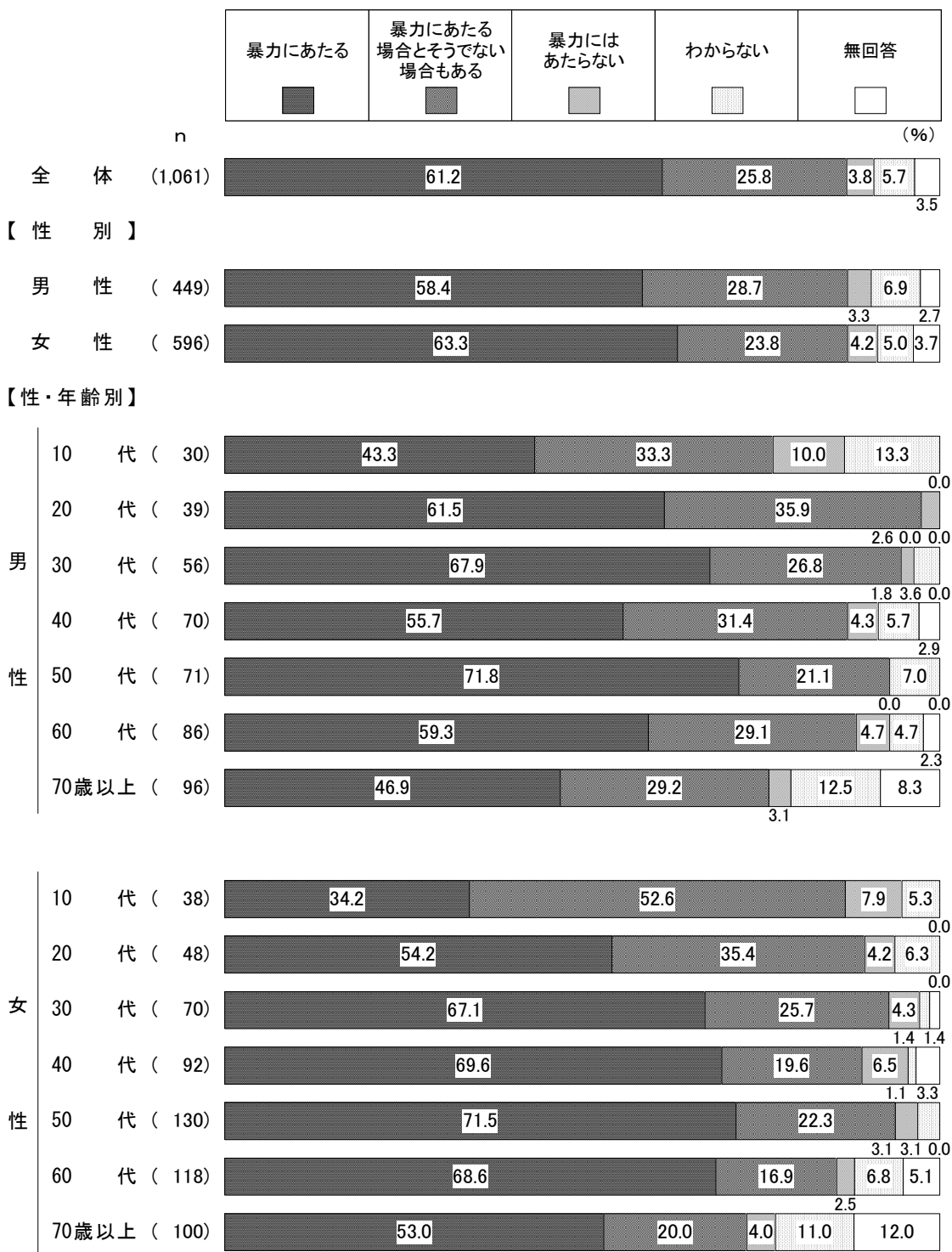
性・年齢別でみると、「暴力にあたる」は男性の30代と50代（ともに100.0%）で高くなっている。



<性別、性・年齢別> ⑨生活費を渡さない

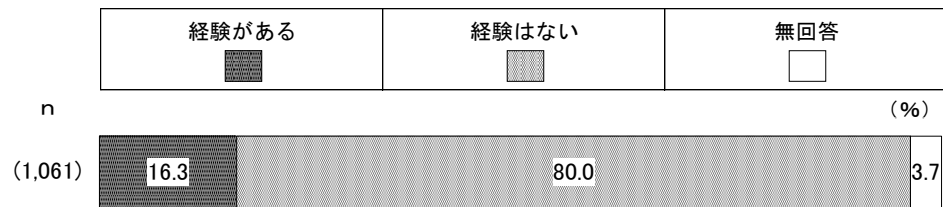
生活費を渡さないについて、性別でみると、「暴力にあたる」は女性（63.3%）が男性（58.4%）より4.9ポイント高くなっている。一方、「暴力にあたる場合とそうでない場合もある」は男性（28.7%）が女性（23.8%）より4.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「暴力にあたる」は男性50代（71.8%）と女性50代（71.5%）で高くなっている。「暴力にあたる場合とそうでない場合もある」は女性10代（52.6%）で高くなっている。



(2) 暴力を受けた経験

問17 問16の①から⑨のような行為を受けた経験はありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

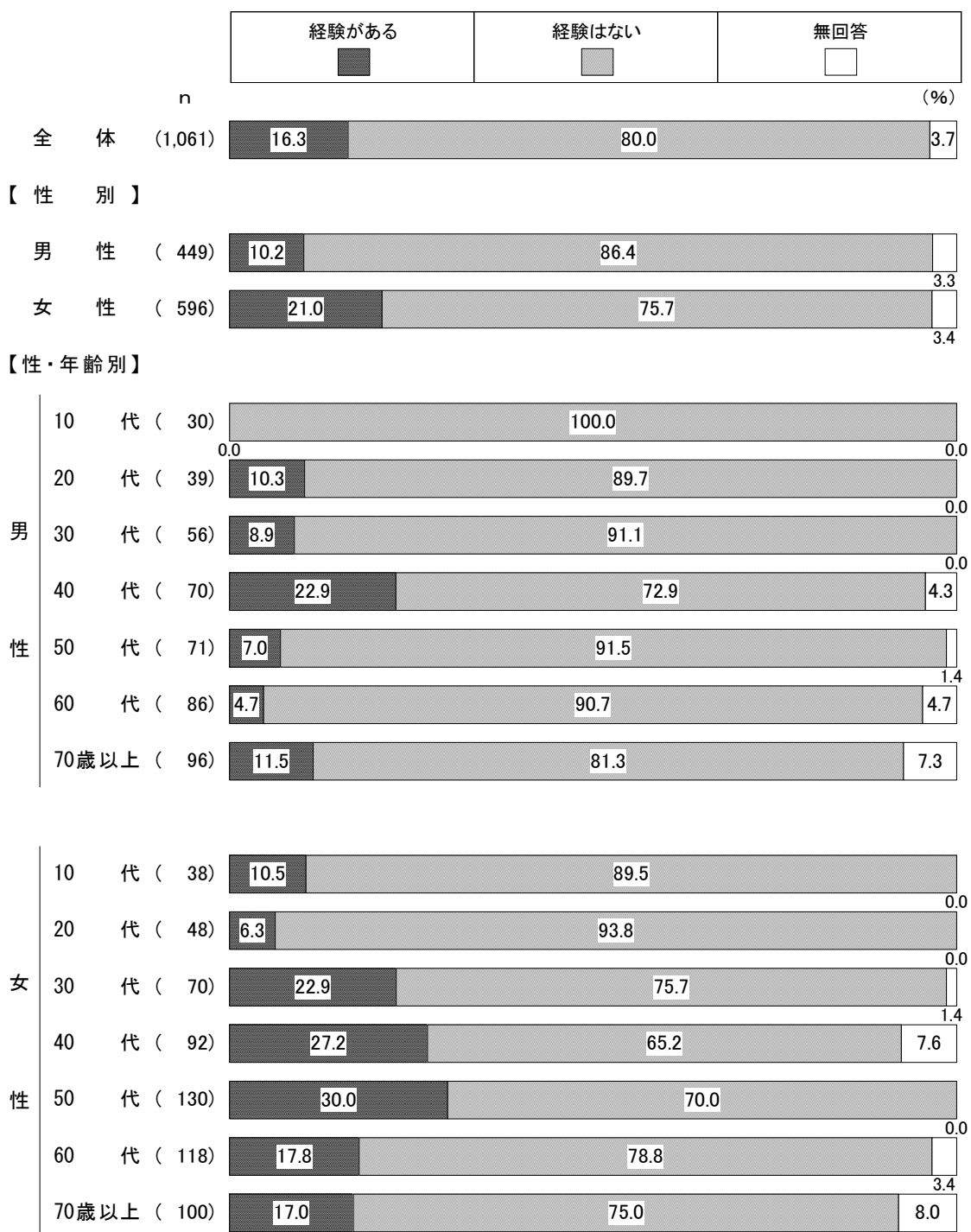


問16の①から⑨のような行為を受けた経験があるか聞いたところ、「経験がある」が16.3%、「経験はない」は80.0%となっている。

<性別、性・年齢別>

性別でみると、「経験がある」は女性（21.0%）が男性（10.2%）より10.8ポイント高くなっている。

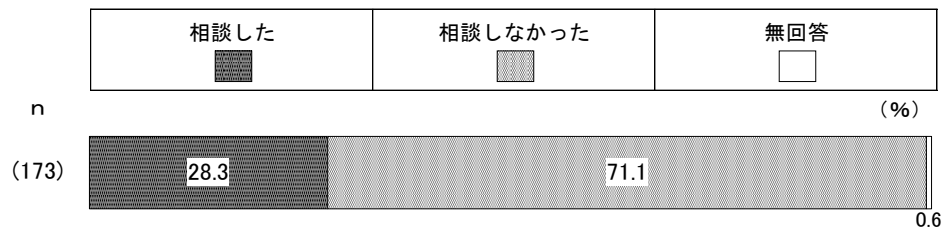
性・年齢別でみると、「経験がある」は女性の40代（27.2%）と50代（30.0%）で高くなっている。一方、「経験はない」は男性10代（100.0%）で高くなっている。



(3) 暴力を受けたことの相談の有無

(問17で、「経験がある」と回答した方にお伺いします。)

問17-1 問16の①から⑨のような行為を受けたことをだれ(どこ)かに相談しましたか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。

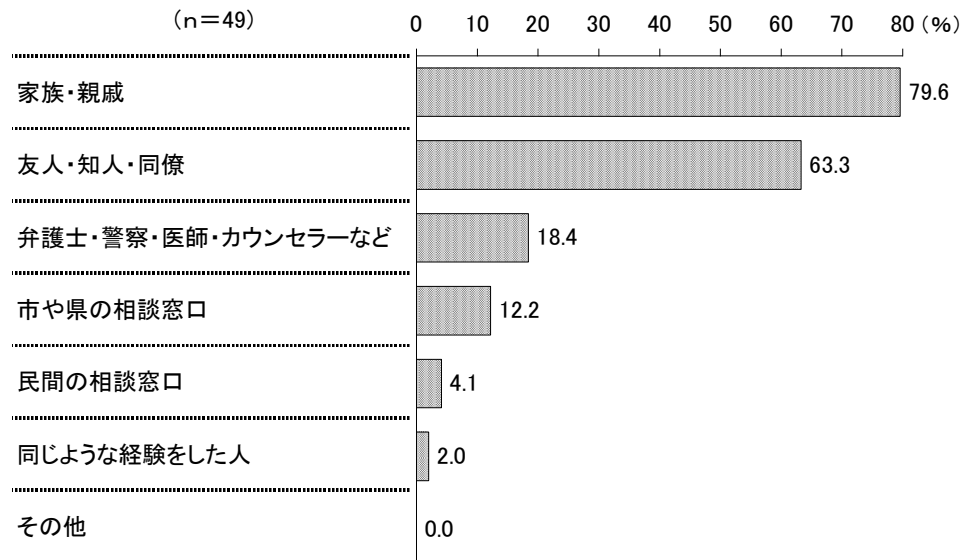


問16の①から⑨のような行為を受けた「経験がある」と答えた方に、だれ(どこ)かに相談したか聞いたところ、「相談した」が28.3%、「相談しなかった」は71.1%となっている。

(4) 暴力を受けたことの相談先

(問17-1で、「相談した」と回答した方にお伺いします。)

問17-2 だれ(どこ)に相談しましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

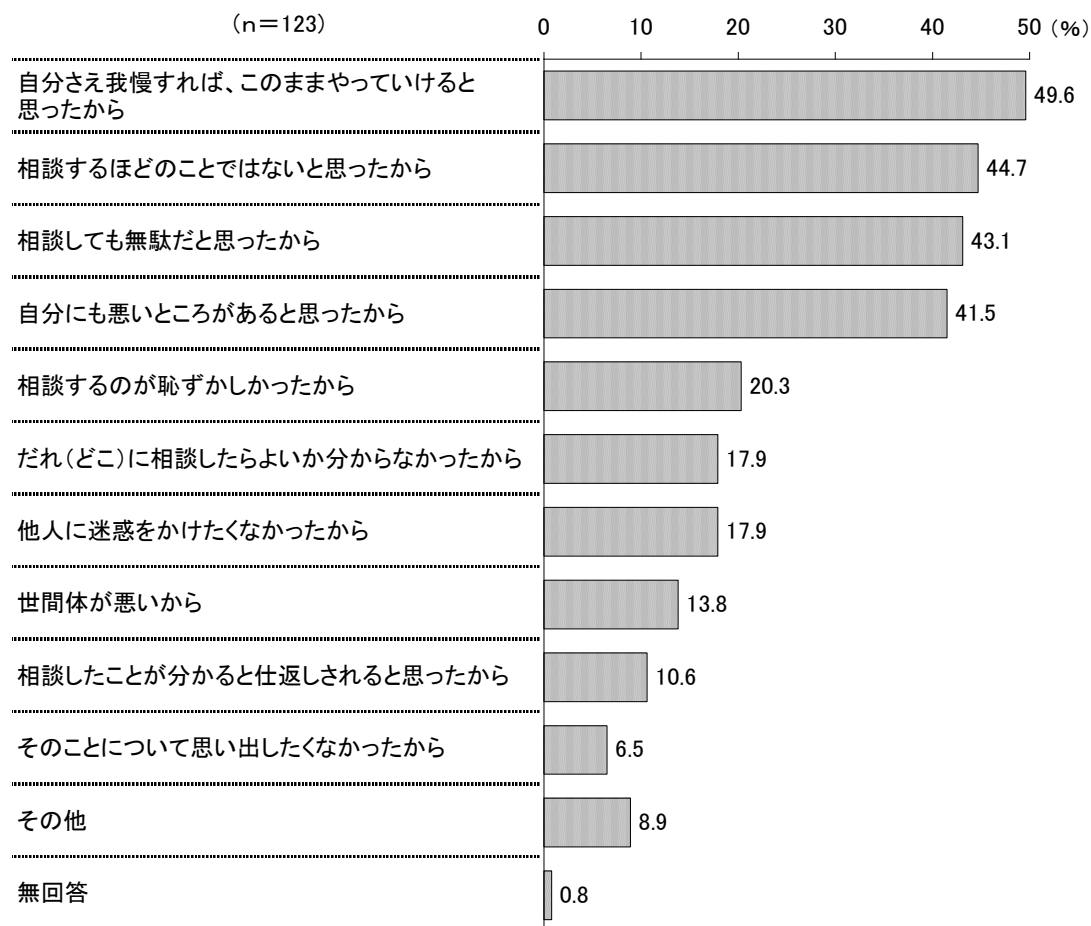


問16の①から⑨のような行為を受けたことを「相談した」と答えた方に、だれ(どこ)に相談したか聞いたところ、「家族・親戚」が79.6%で最も高く、次いで「友人・知人・同僚」(63.3%)、「弁護士・警察・医師・カウンセラーなど」(18.4%)、「市や県の相談窓口」(12.2%)となっている。

(5) 暴力を受けたことを相談しなかった理由

(問17-1で、「相談しなかった」と回答した方にお伺いします。)

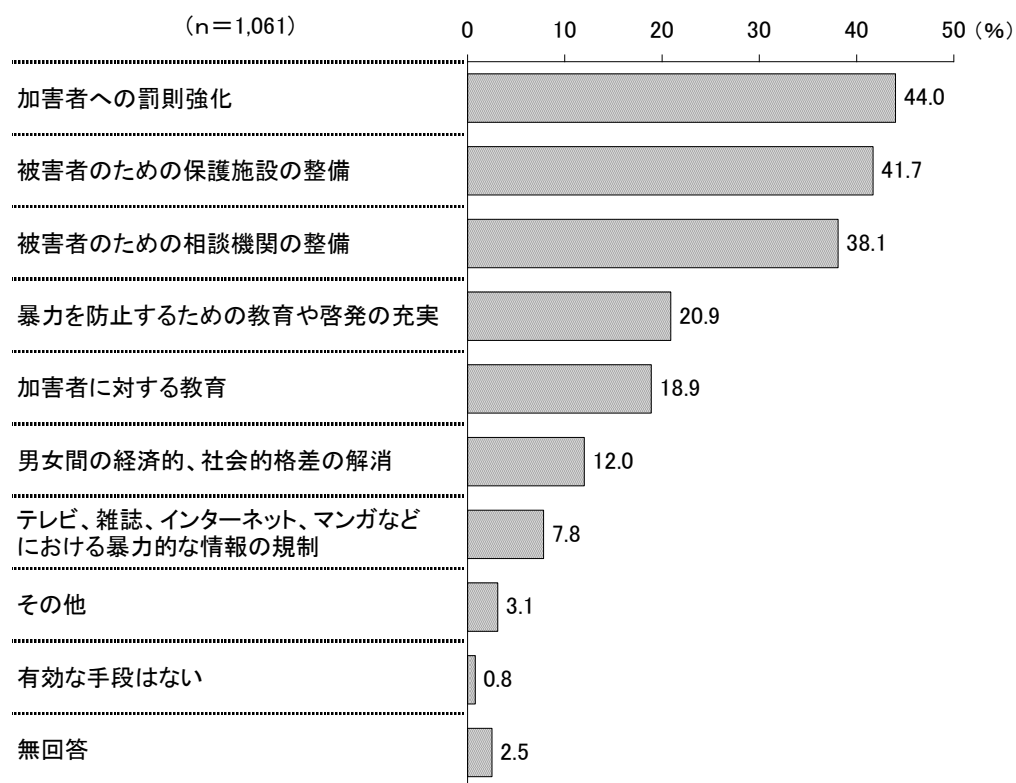
問17-3 相談しなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



問16の①から⑨のような行為を受けたことを「相談しなかった」と答えた方に、相談しなかった理由を聞いたところ、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」が49.6%で最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」(44.7%)、「相談しても無駄だと思ったから」(43.1%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(41.5%)となっている。

(6) DVの被害をなくすために必要だと思うこと

問18 DVの被害をなくすためにどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いもの2つに○をつけてください。

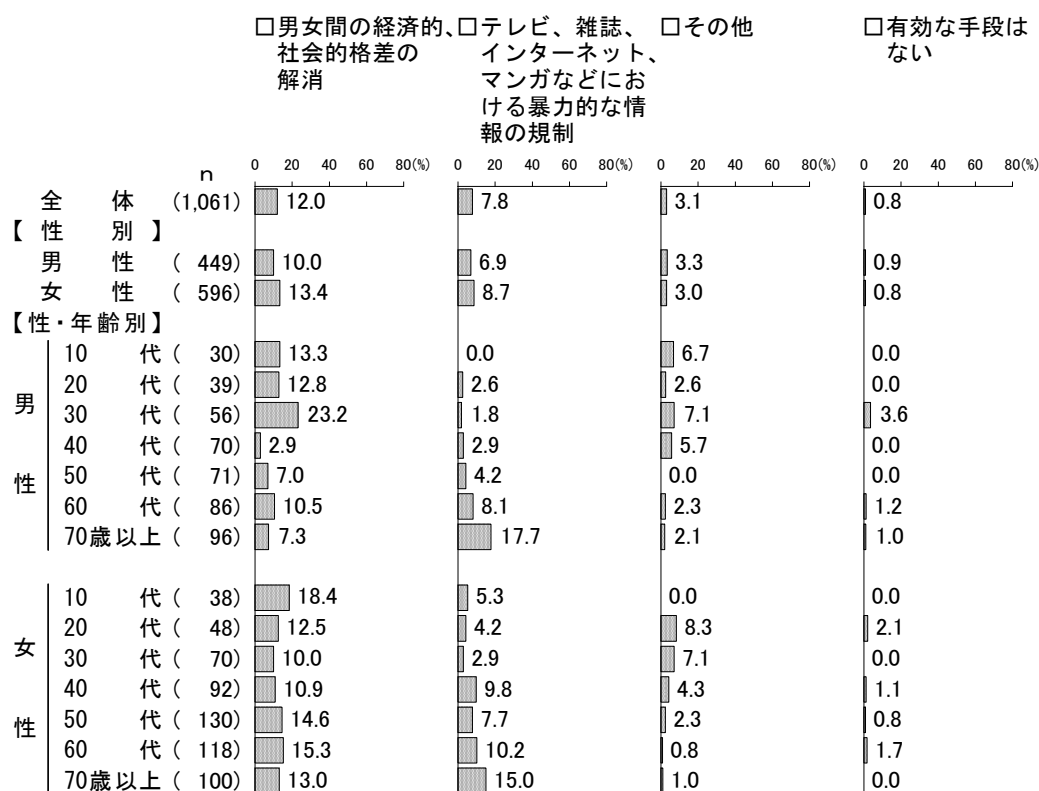
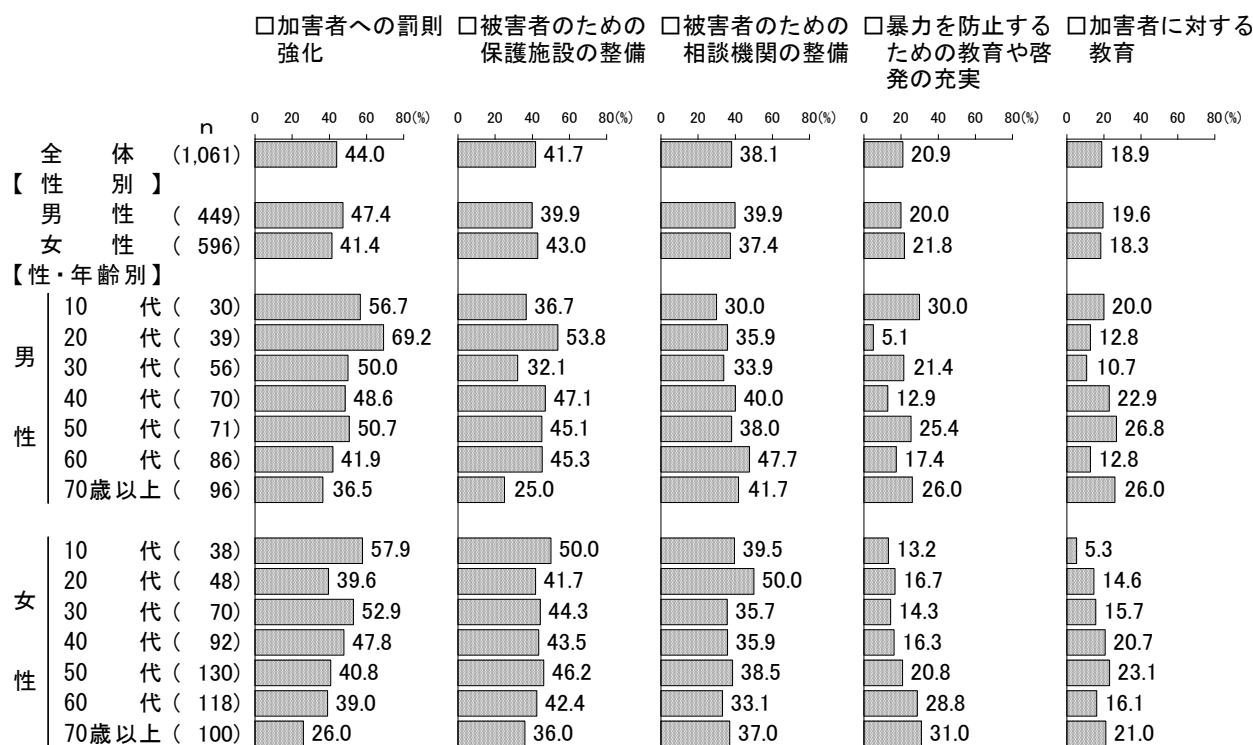


DVの被害をなくすためにどのようなことが必要だと思うか聞いたところ、「加害者への罰則強化」が44.0%で最も高く、次いで「被害者のための保護施設の整備」(41.7%)、「被害者のための相談機関の整備」(38.1%)、「暴力を防止するための教育や啓発の充実」(20.9%)となっている。

<性別、性・年齢別>

性別でみると、「加害者への罰則強化」は男性（47.4%）が女性（41.4%）より6.0ポイント高くなっている。一方、「男女間の経済的、社会的格差の解消」は女性（13.4%）が男性（10.0%）より3.4ポイント高くなっている。

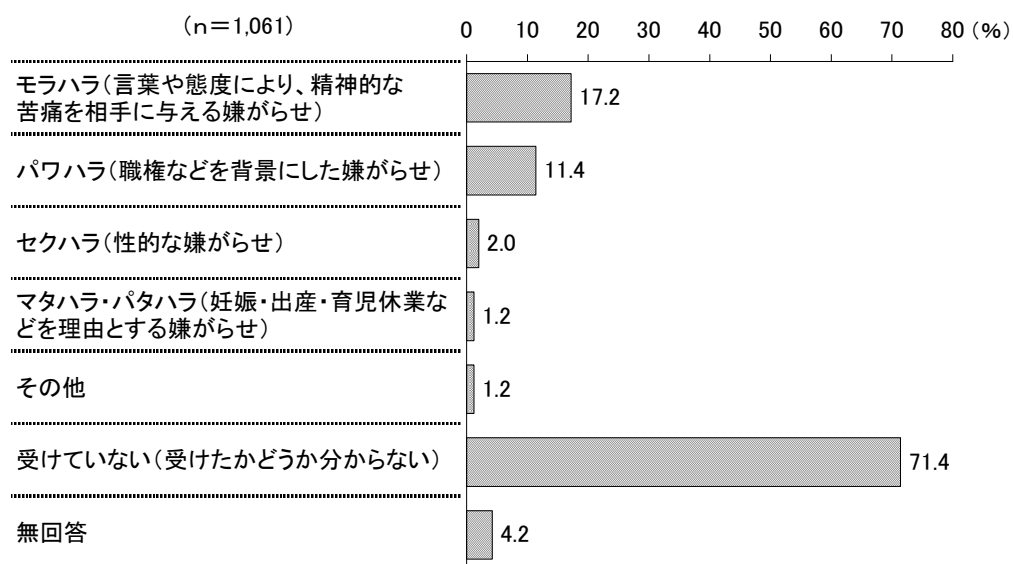
性・年齢別でみると、「加害者への罰則強化」は男性20代（69.2%）で高くなっている。「被害者のための保護施設の整備」は男性20代（53.8%）と女性10代（50.0%）で高くなっている。「被害者のための相談機関の整備」は女性20代（50.0%）で高くなっている。



6 ハラスメントに関する意識について

(1) 職場や家庭などでハラスメント（嫌がらせ）を受けた経験

問19 あなたは、直近5年以内に職場や家庭などでハラスメント（嫌がらせ）を受けたことはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

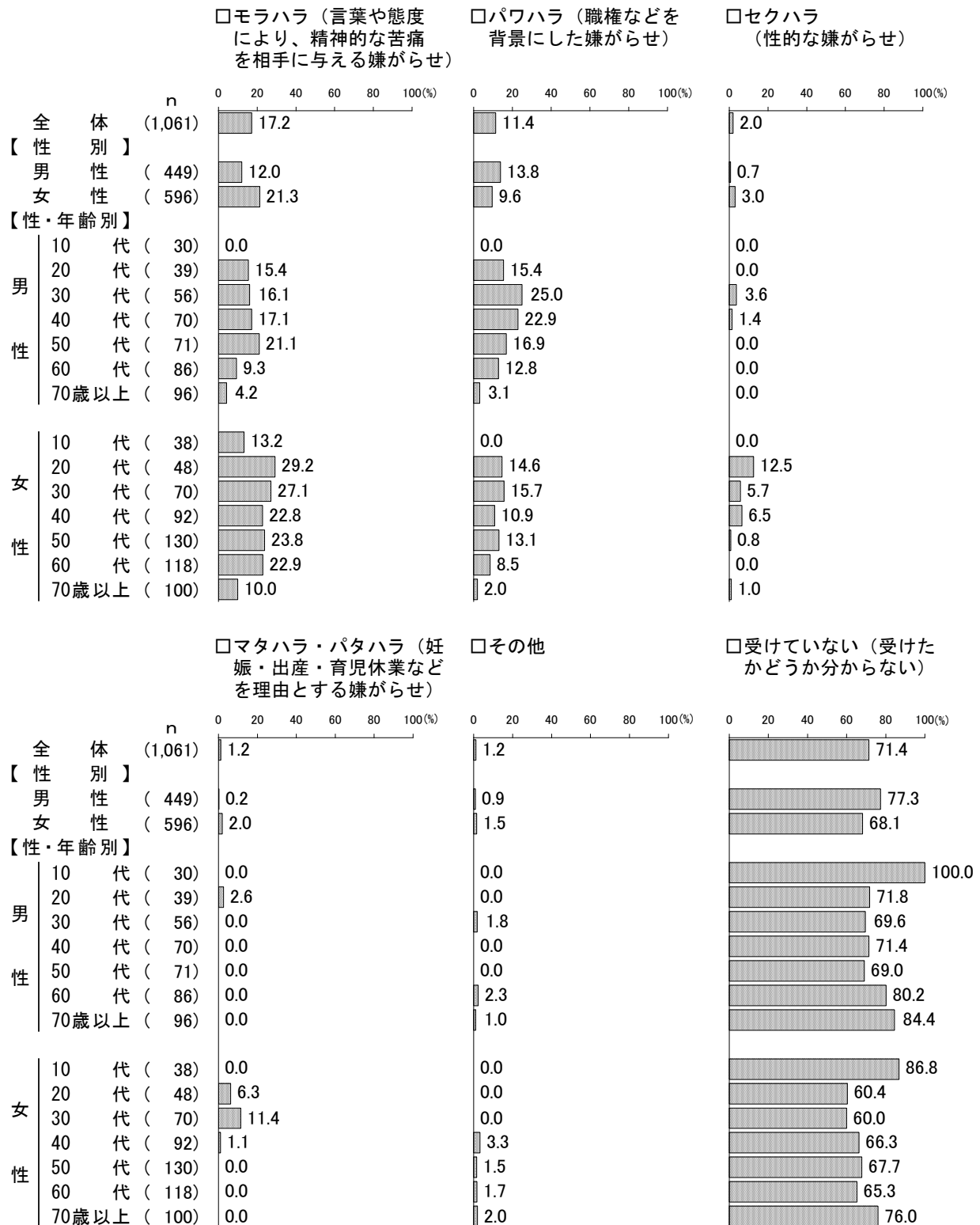


直近5年以内に職場や家庭などでハラスメント（嫌がらせ）を受けたことはあるか聞いたところ、「受けていない（受けたかどうか分からない）」が71.4%で最も高くなっている。一方、受けたことがある中では、「モラハラ（言葉や態度により、精神的な苦痛を相手に与える嫌がらせ）」が17.2%で最も高く、次いで「パワハラ（職権などを背景にした嫌がらせ）」（11.4%）となっている。

<性別、性・年齢別>

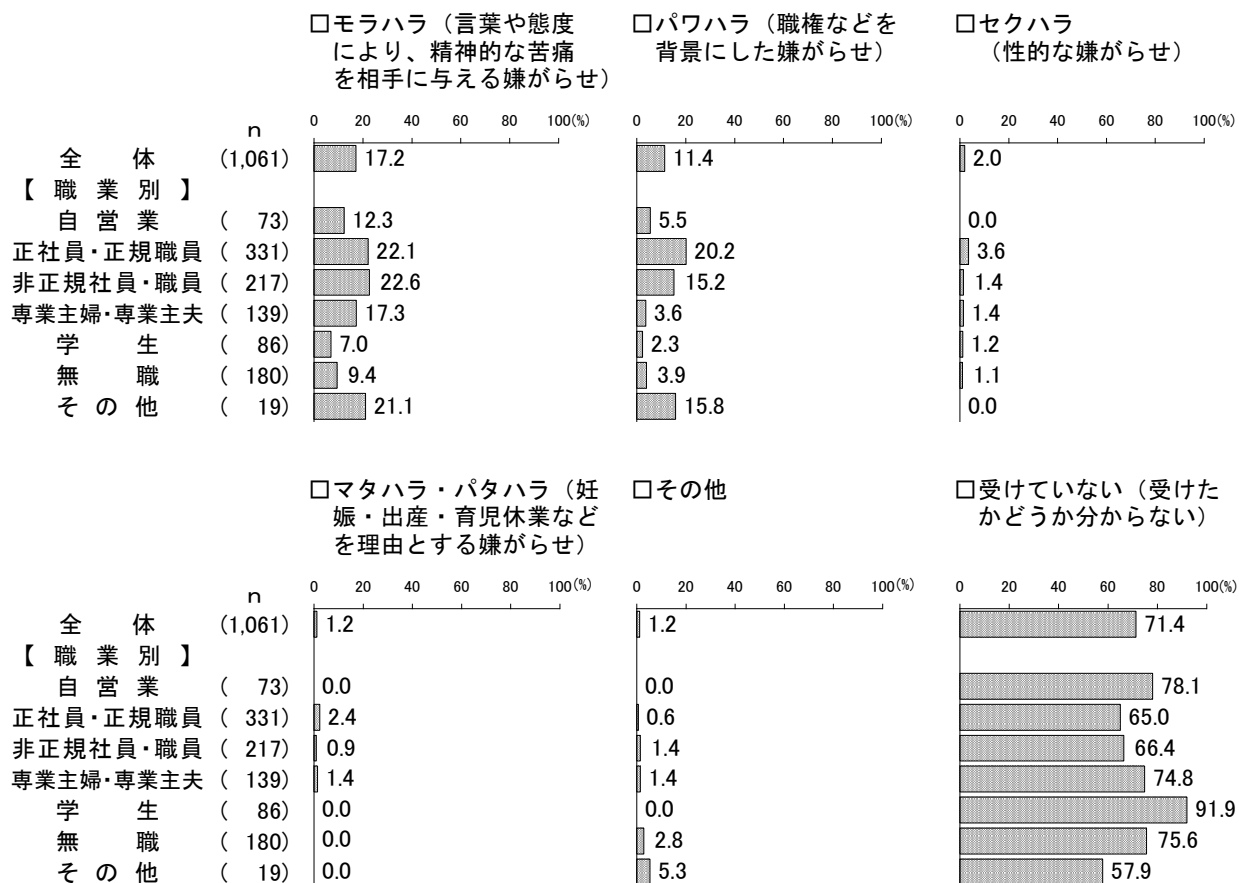
性別でみると、「モラハラ」は女性（21.3%）が男性（12.0%）より9.3ポイント高くなっている。一方、「受けていない（受けたかどうか分からない）」は男性（77.3%）が女性（68.1%）より9.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「モラハラ」は女性の20代（29.2%）と30代（27.1%）で高くなっている。「パワハラ」は男性の30代（25.0%）と40代（22.9%）で高くなっている。



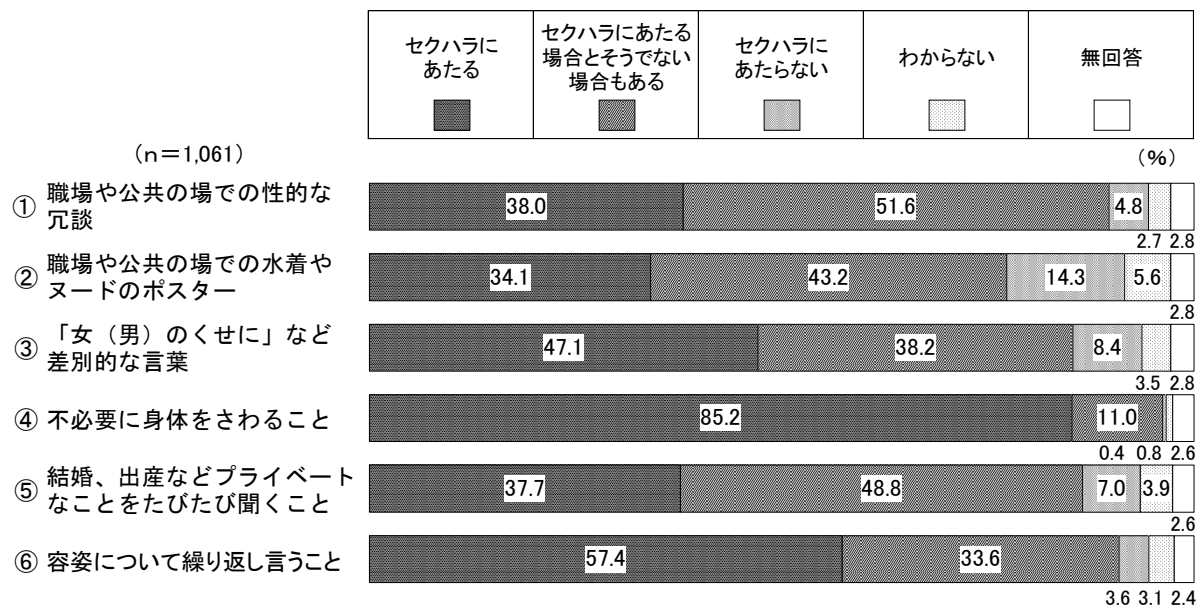
<職業別>

職業別でみると、「モラハラ」はパート、アルバイト、派遣社員等の非正規社員・職員（22.6%）と正社員・正規職員（22.1%）で高くなっている。「パワハラ」は正社員・正規職員（20.2%）で高くなっている。



(2) セクシュアル・ハラスメントだと思うこと

問20 あなたは、次のようなことが男女間で行われた場合、セクシュアル・ハラスメントだと思いますか。あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。



次のようなことが男女間で行われた場合、セクシュアル・ハラスメントだと思うかを、6項目に分けて聞いたところ、「セクハラにあたる」は“不必要に身体をさわること”が85.2%で最も高く、次いで“容姿について繰り返し言うこと”(57.4%)、“「女(男)のくせに」など差別的な言葉”(47.1%)となっている。

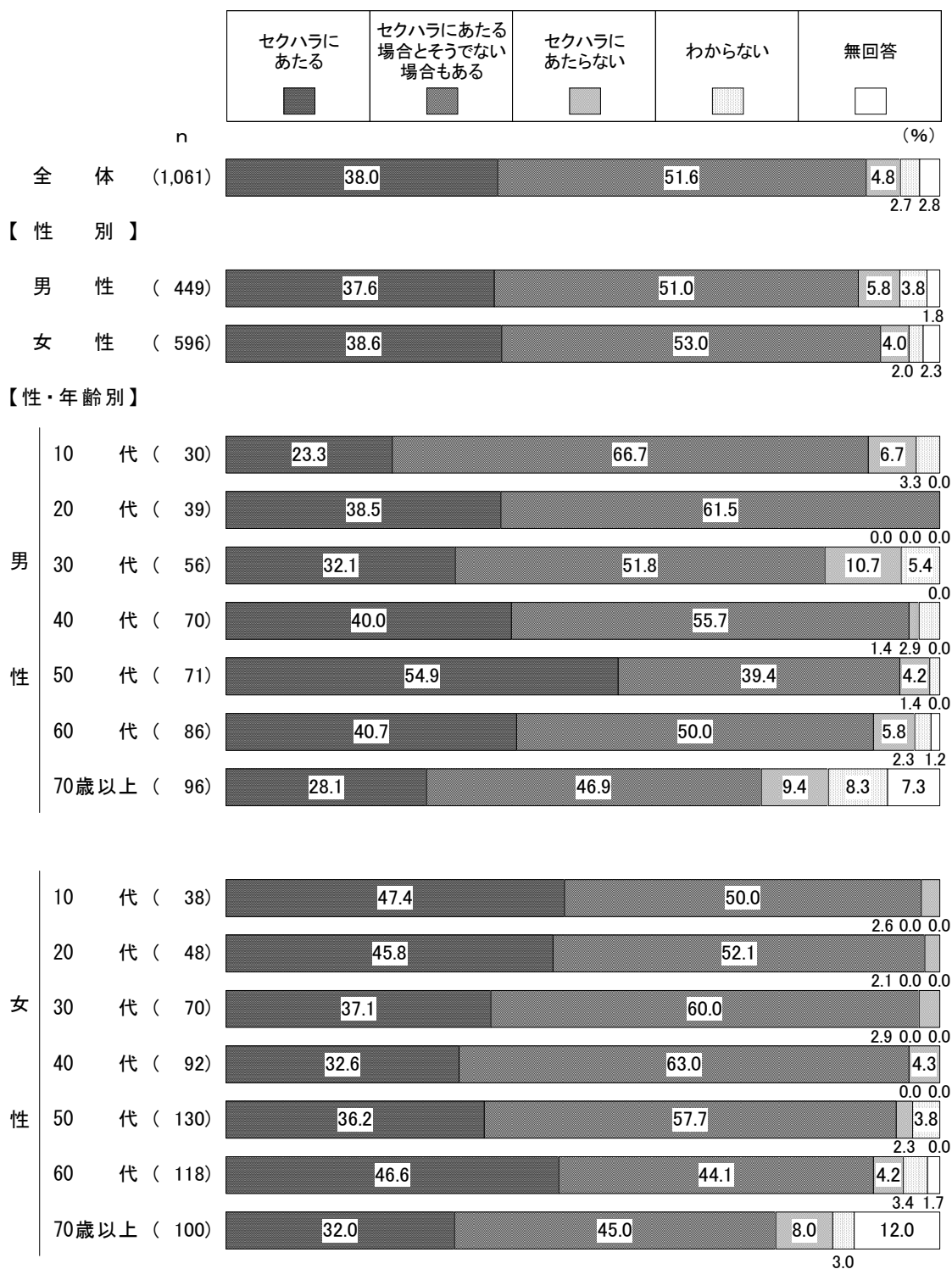
一方、「セクハラにあたらない」は“職場や公共の場での水着やヌードのポスター”が14.3%で最も高くなっている。

また、「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は“職場や公共の場での性的な冗談”が51.6%で最も高く、次いで“結婚、出産などプライベートなことをたびたび聞くこと”(48.8%)、“職場や公共の場での水着やヌードのポスター”(43.2%)となっている。

<性別、性・年齢別> ①職場や公共の場での性的な冗談

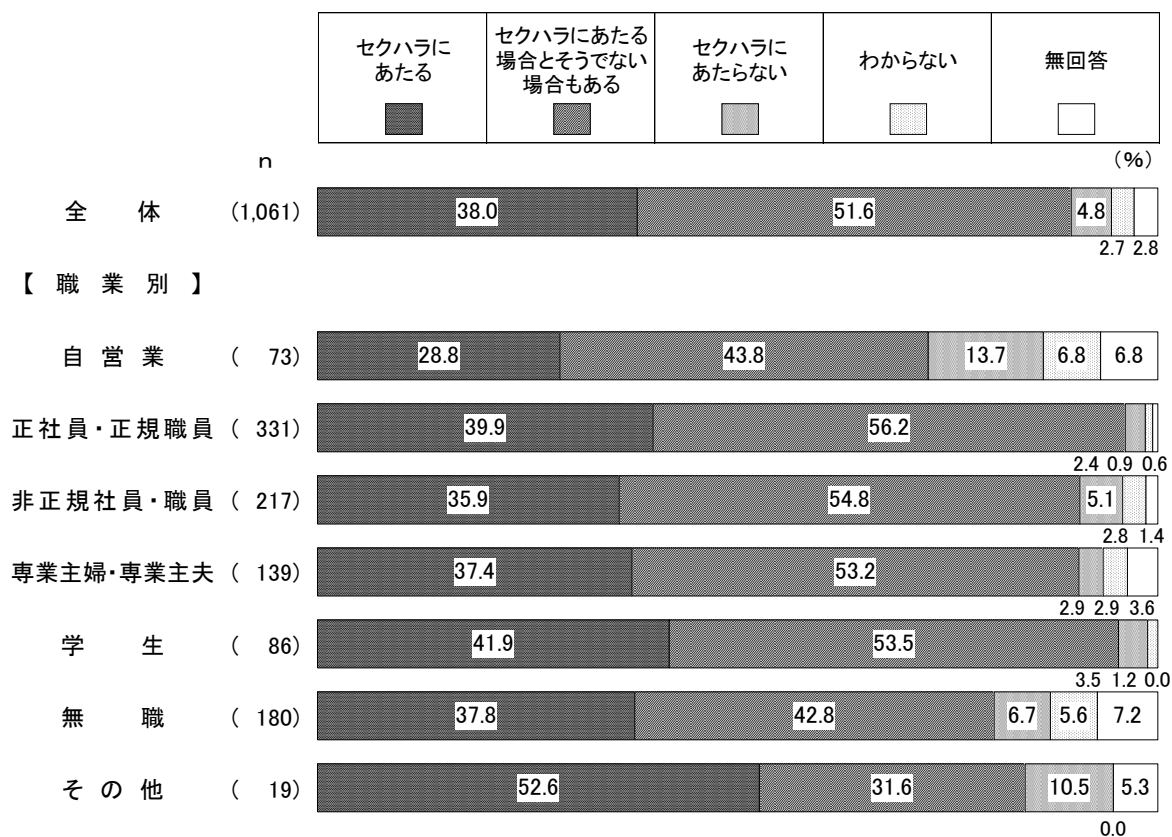
職場や公共の場での性的な冗談について、性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、「セクハラにあたる」は男性50代（54.9%）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は男性10代（66.7%）で高くなっている。



<職業別> ①職場や公共の場での性的な冗談

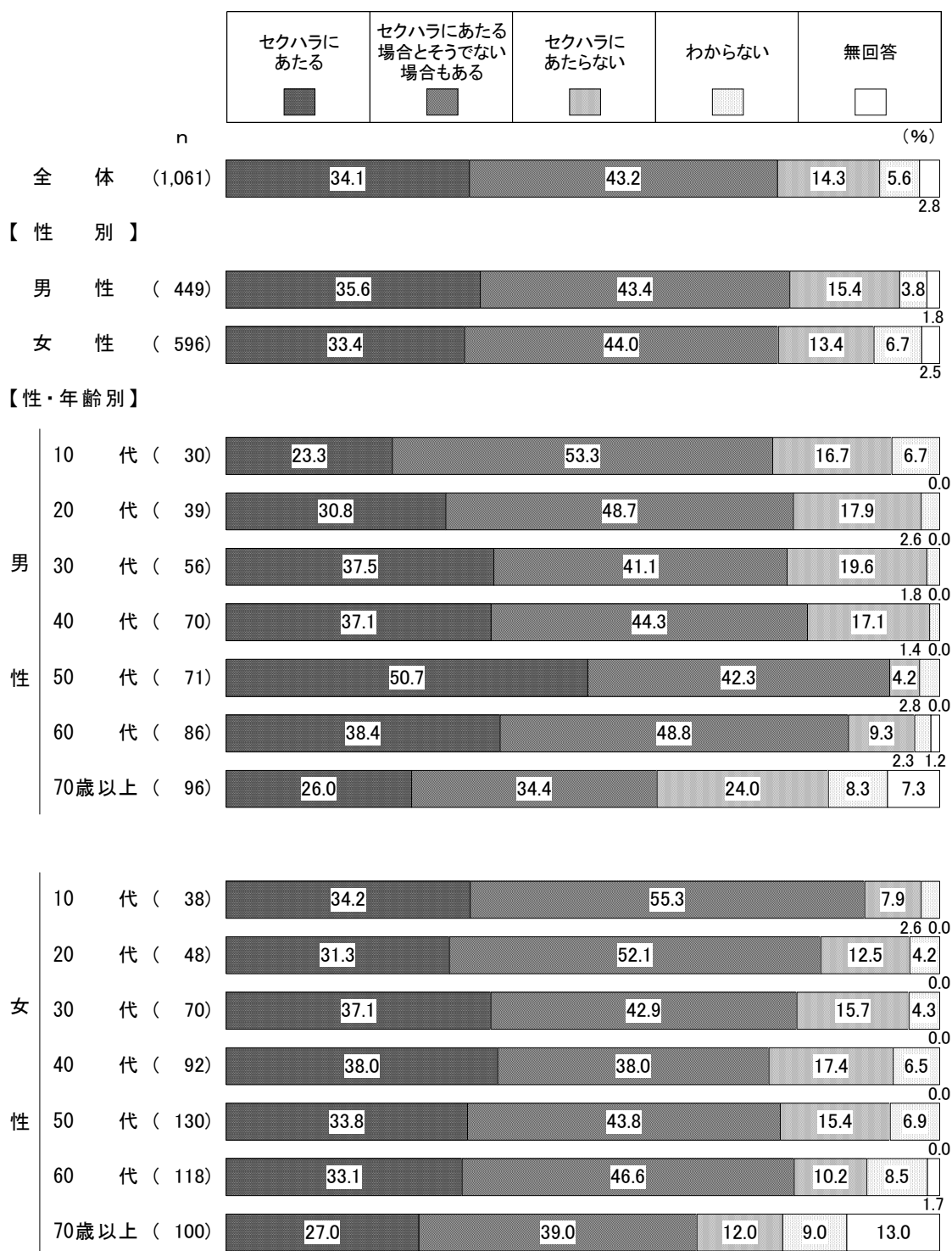
職場や公共の場での性的な冗談について、職業別でみると、「セクハラにあたる」は学生(41.9%)で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は正社員・正規職員(56.2%)で高くなっている。



<性別、性・年齢別> ②職場や公共の場での水着やヌードのポスター

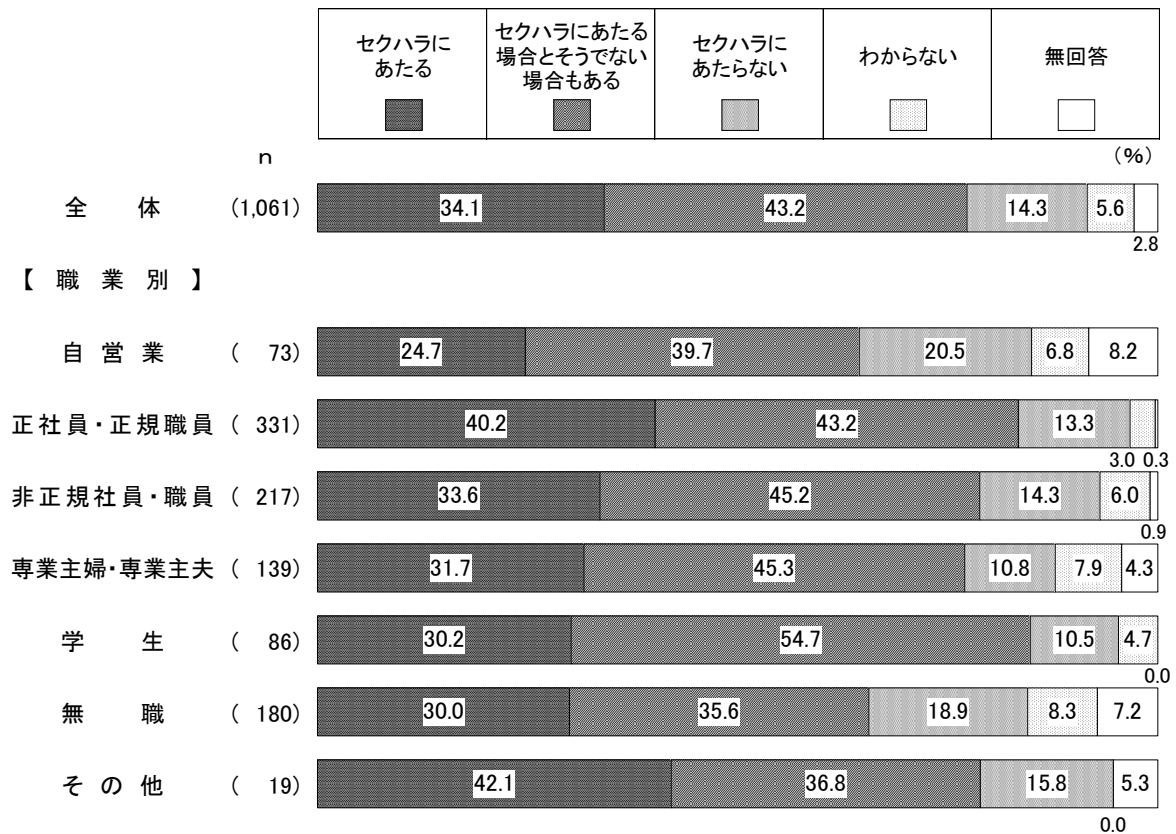
職場や公共の場での水着やヌードのポスターについて、性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、「セクハラにあたる」は男性50代（50.7%）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は女性の10代（55.3%）と20代（52.1%）、男性10代（53.3%）で高くなっている。一方、「セクハラにあたらない」は男性70歳以上（24.0%）で高くなっている。



<職業別> ②職場や公共の場での水着やヌードのポスター

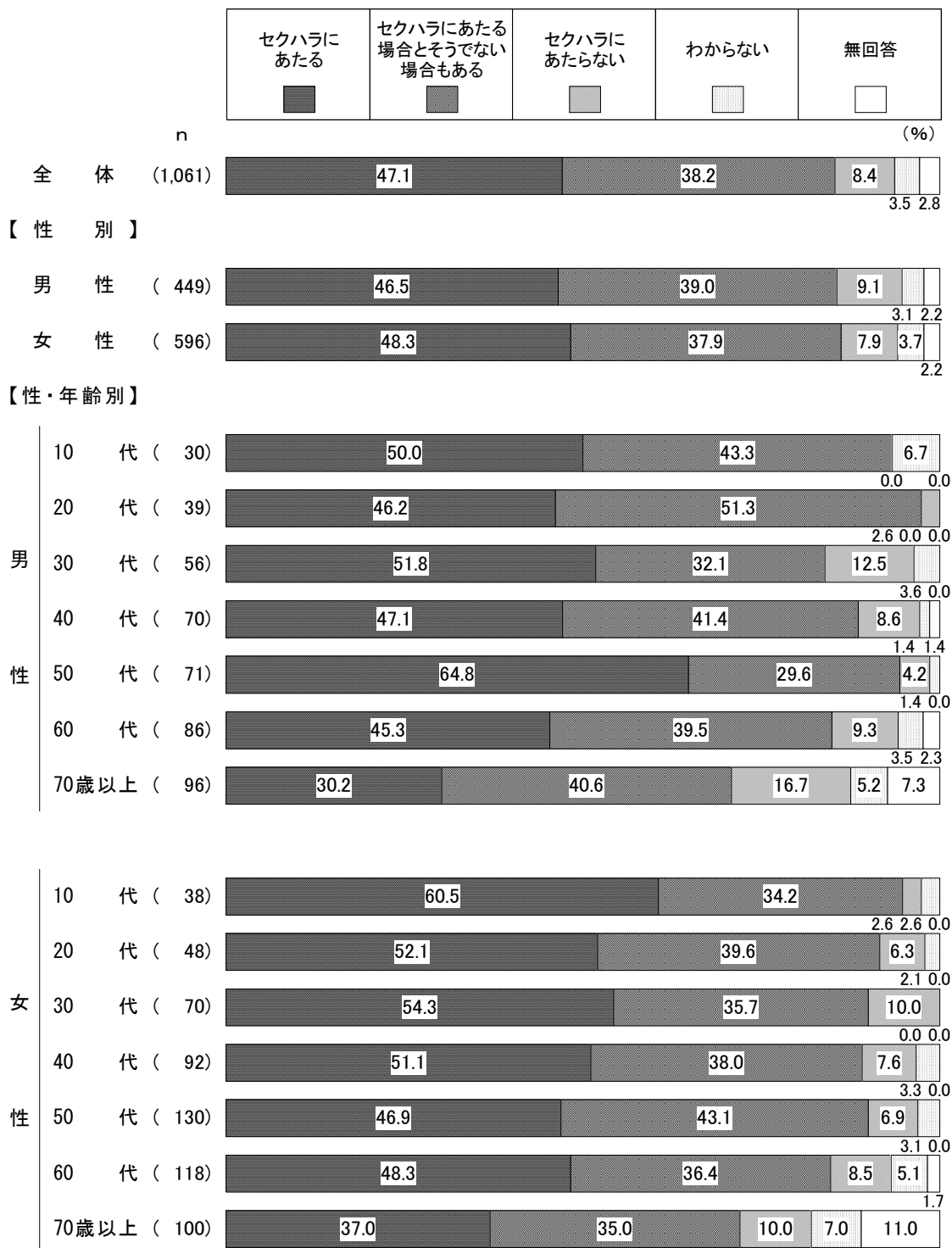
職場や公共の場での水着やヌードのポスターについて、職業別でみると、「セクハラにあたる」は正社員・正規職員（40.2%）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は学生（54.7%）で高くなっている。一方、「セクハラにあたらない」は自営業（20.5%）で高くなっている。



<性別、性・年齢別> ③「女（男）のくせに」など差別的な言葉

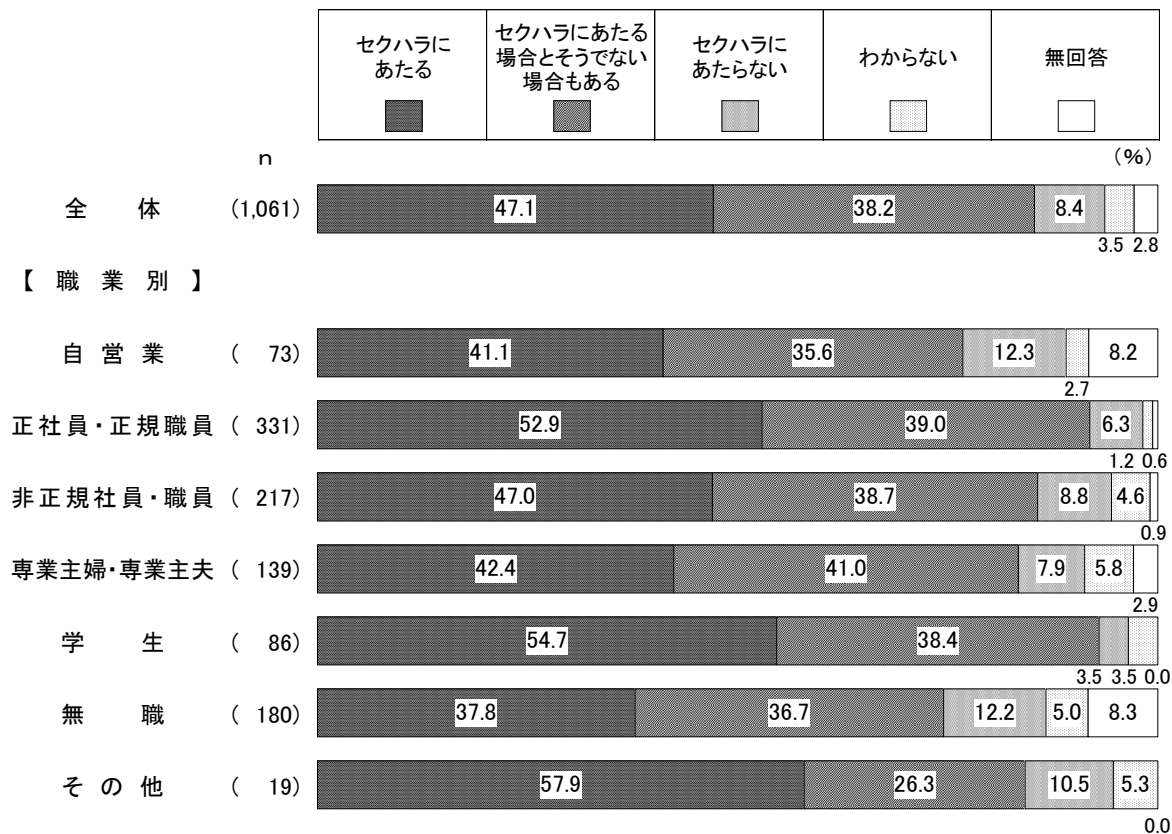
「女（男）のくせに」など差別的な言葉について、性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、「セクハラにあたる」は男性50代（64.8%）と女性10代（60.5%）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は男性20代（51.3%）で高くなっている。



＜職業別＞ ③「女（男）のくせに」など差別的な言葉

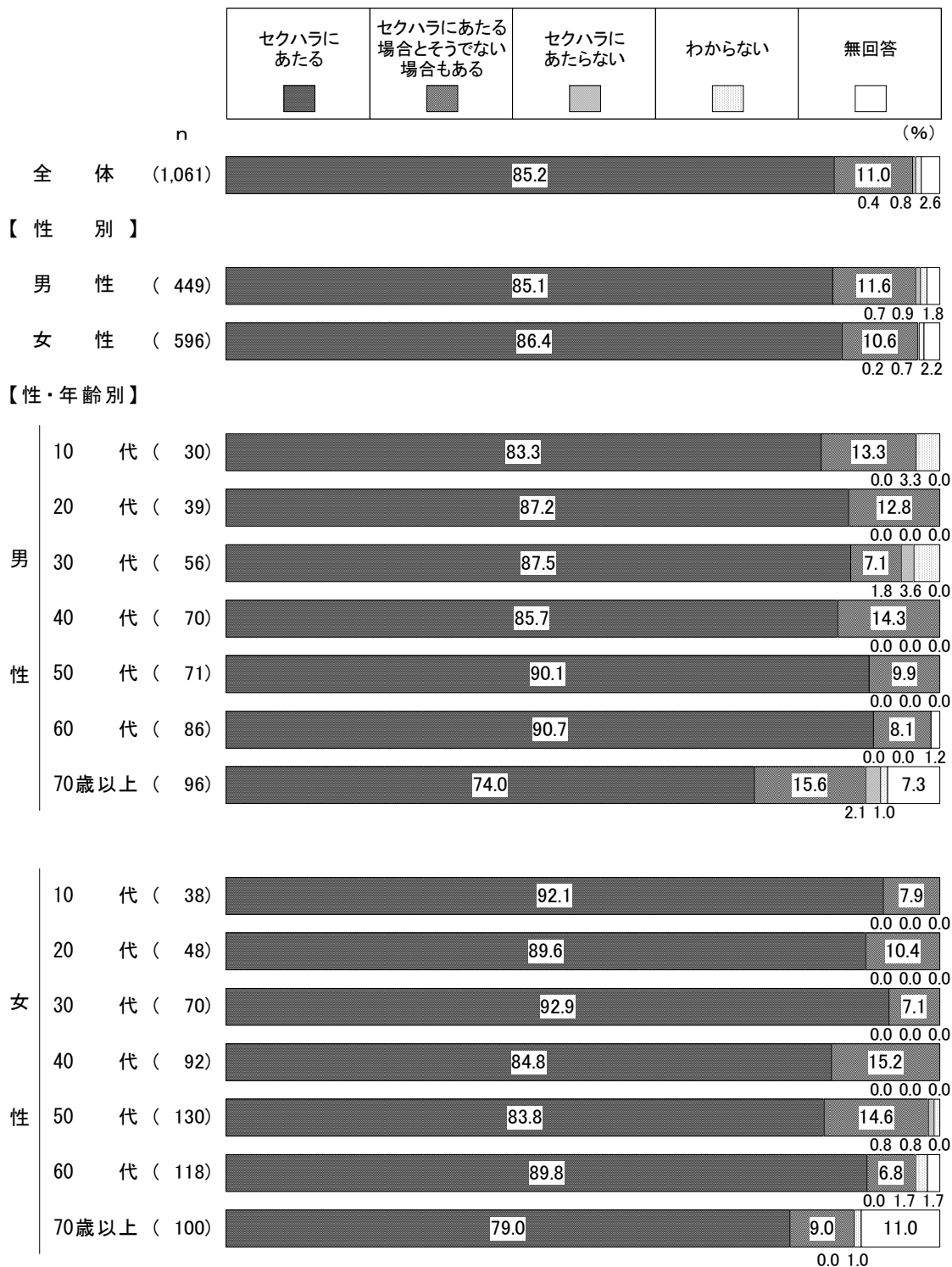
「女（男）のくせに」など差別的な言葉について、職業別でみると、「セクハラにあたる」は学生（54.7%）と正社員・正規職員（52.9%）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は専業主婦・専業主夫（41.0%）で高くなっている。



<性別、性・年齢別> ④不必要に身体をさわること

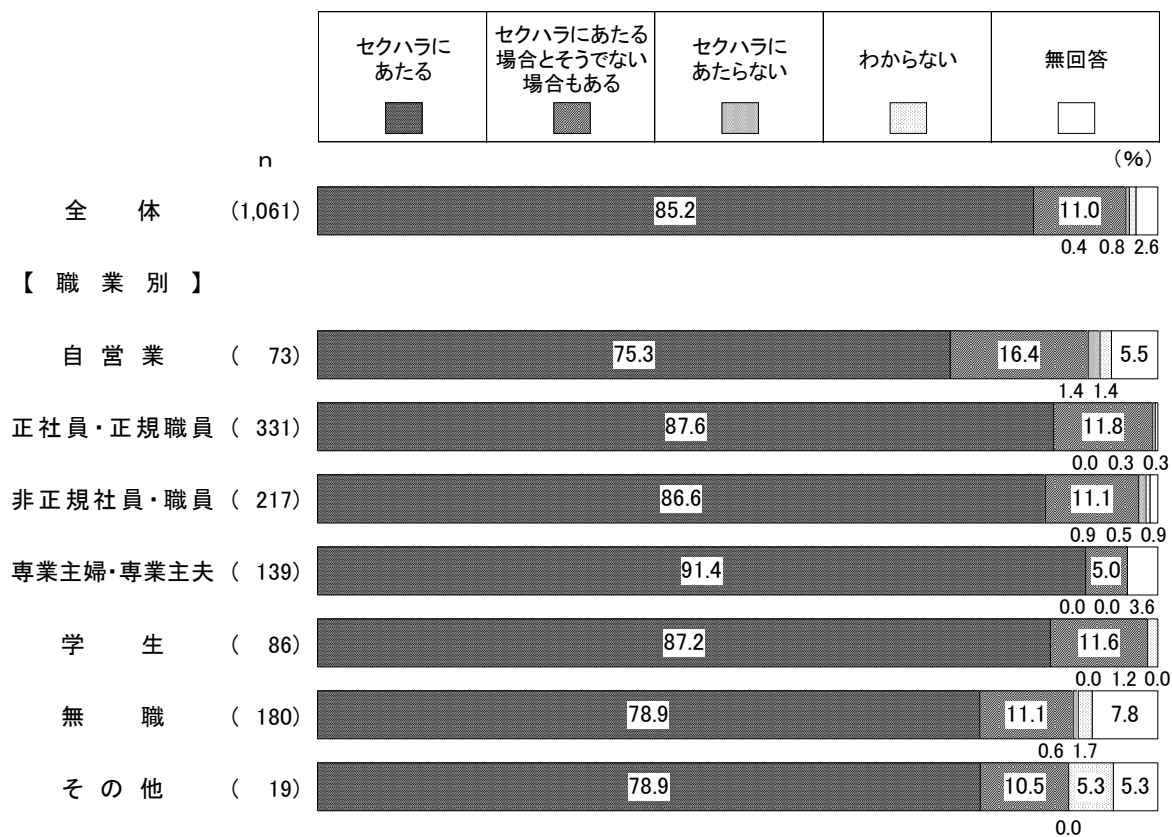
不必要に身体をさわることについて、性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、「セクハラにあたる」は女性の10代（92.1%）と30代（92.9%）で高くなっている。



<職業別> ④不必要に身体をさわること

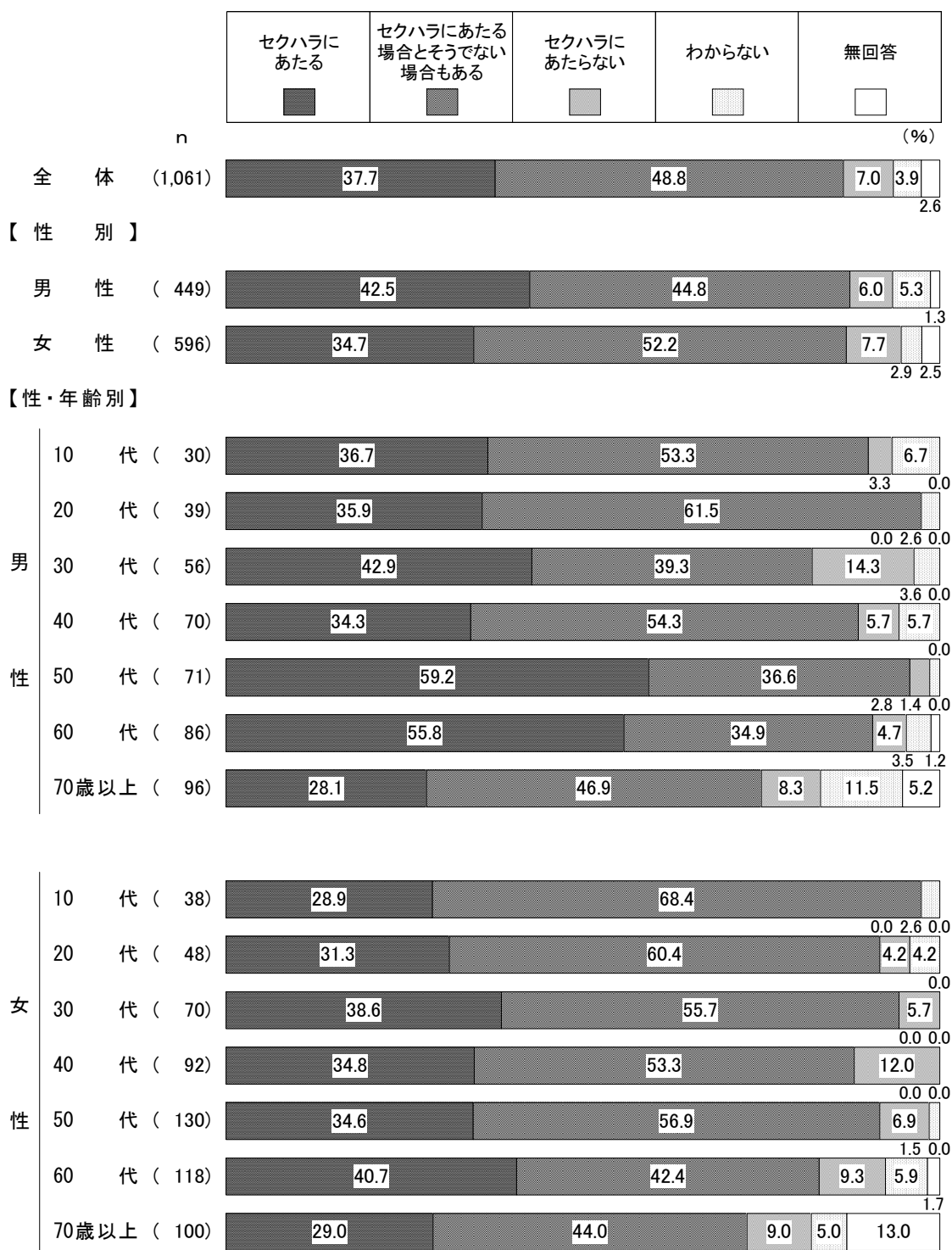
不必要に身体をさわることについて、職業別でみると、「セクハラにあたる」は専業主婦・専業主夫（91.4%）で高くなっている。



<性別、性・年齢別> ⑤結婚、出産などプライベートなことをたびたび聞くこと

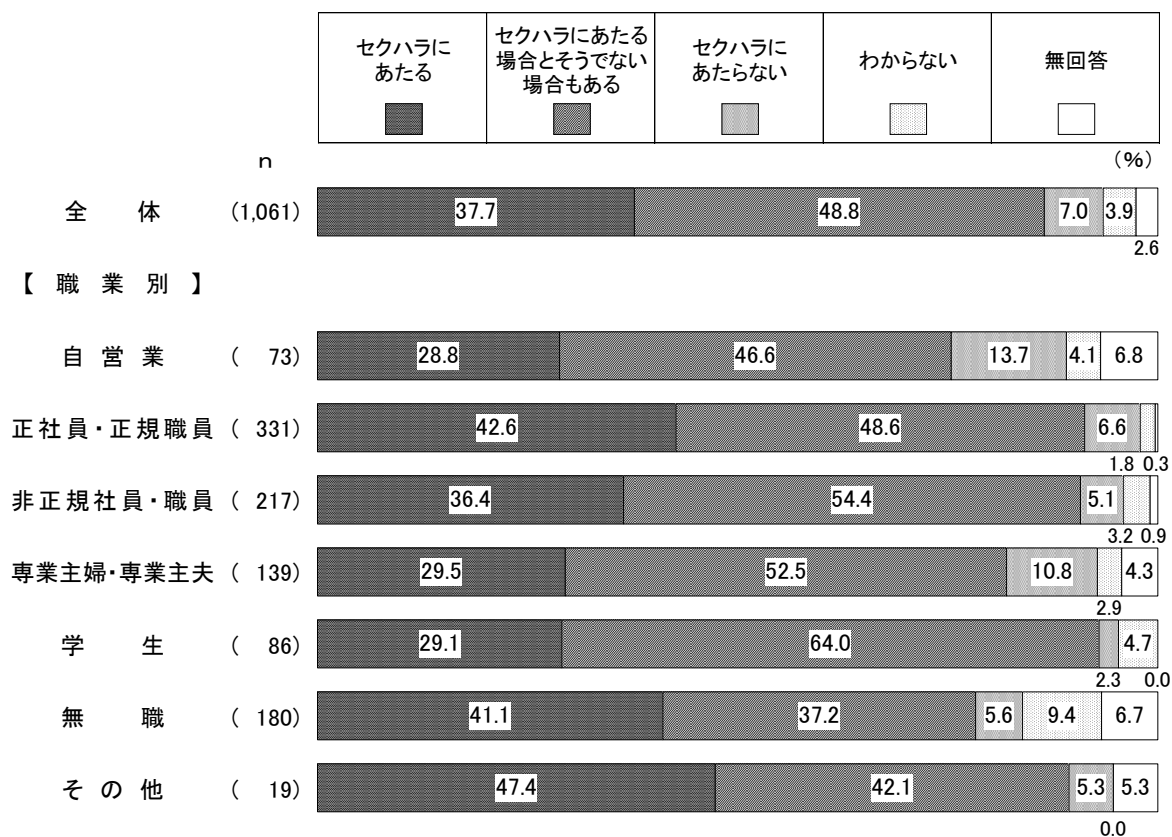
結婚、出産などプライベートなことをたびたび聞くことについて、性別でみると「セクハラにあたる」は男性（42.5%）が女性（34.7%）より7.8ポイント高くなっている。一方、「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は女性（52.2%）が男性（44.8%）より7.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「セクハラにあたる」は男性の50代（59.2%）と60代（55.8%）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は女性10代（68.4%）で高くなっている。



<職業別> ⑤結婚、出産などプライベートなことをたびたび聞くこと

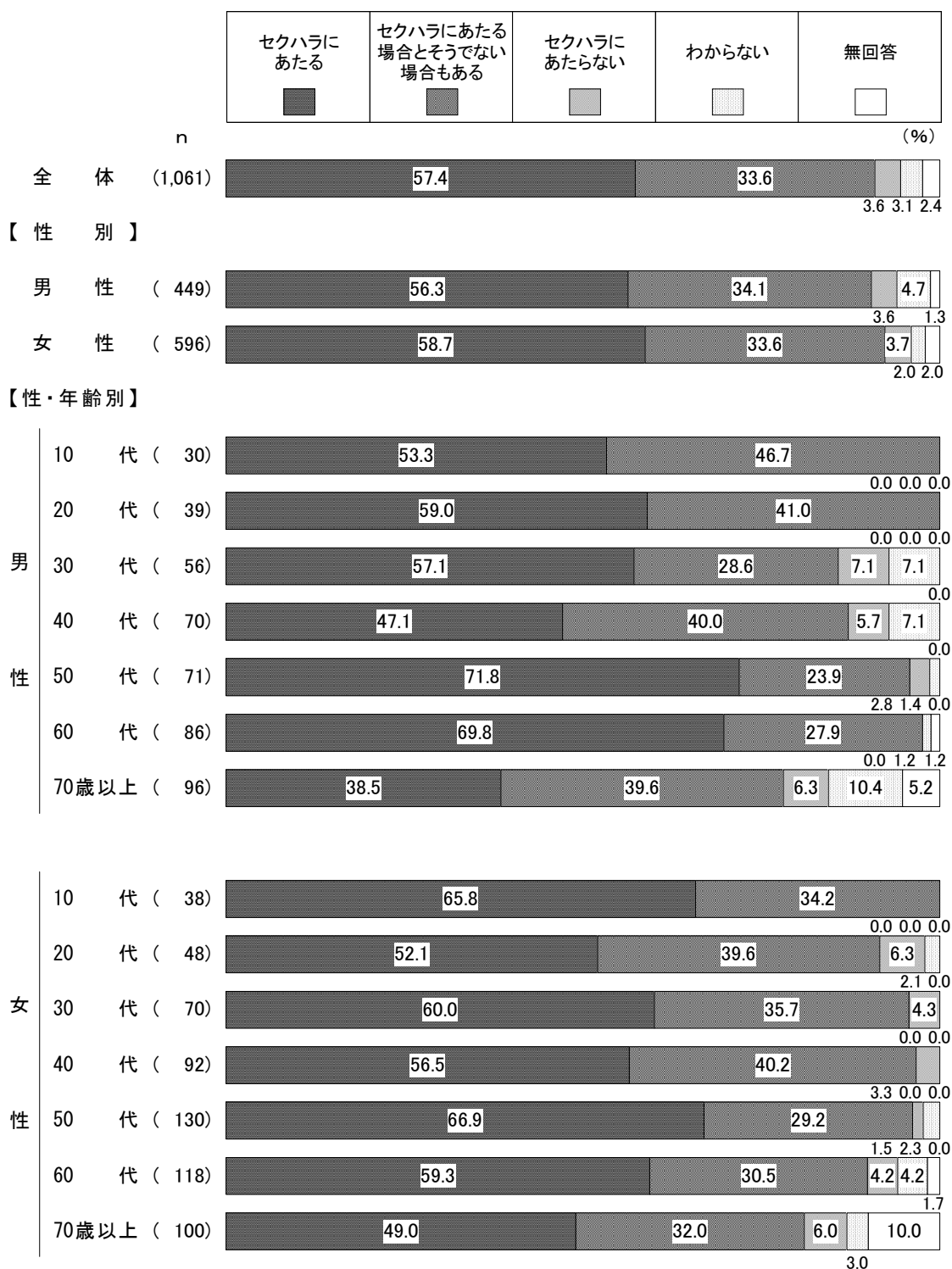
結婚、出産などプライベートなことをたびたび聞くことについて、職業別でみると、「セクハラにあたる」は正社員・正規職員（42.6％）と無職（41.1％）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は学生（64.0％）で高くなっている。



<性別、性・年齢別> ⑥容姿について繰り返し言うこと

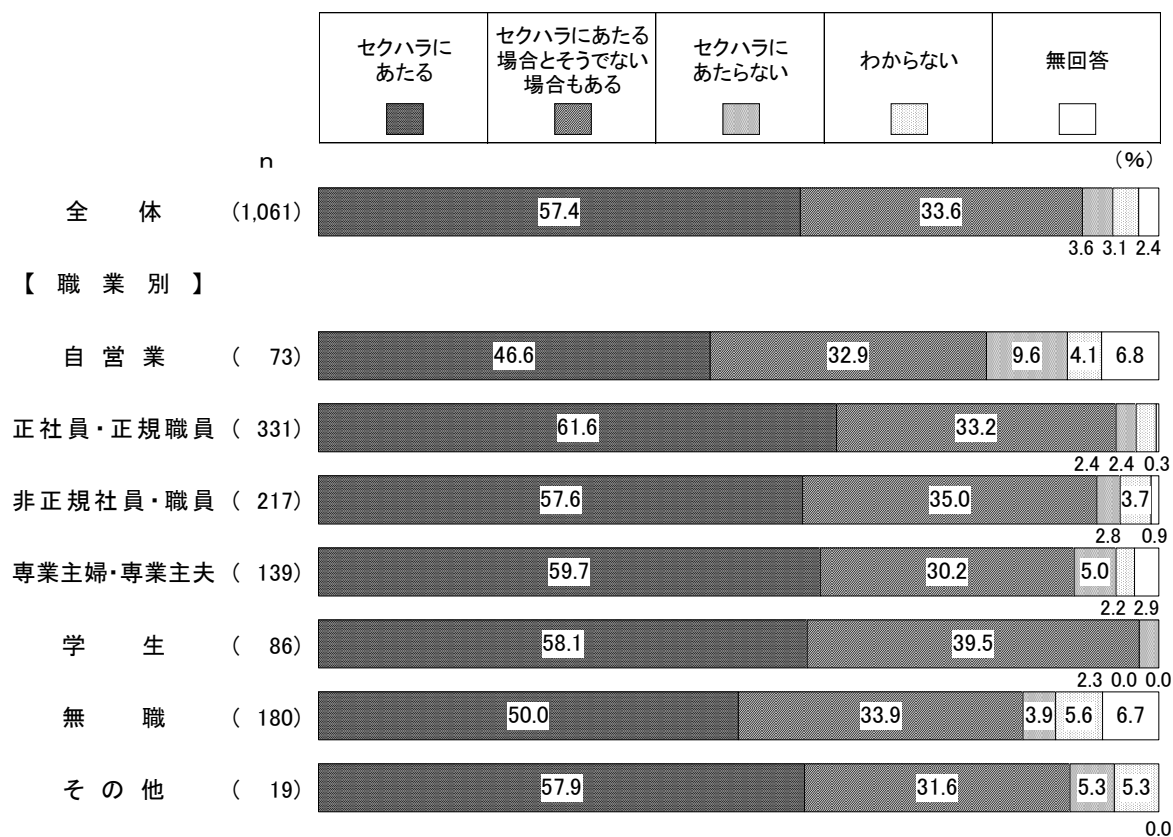
容姿について繰り返し言うことについて、性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、「セクハラにあたる」は男性の50代（71.8%）と60代（69.8%）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は男性10代（46.7%）で高くなっている。



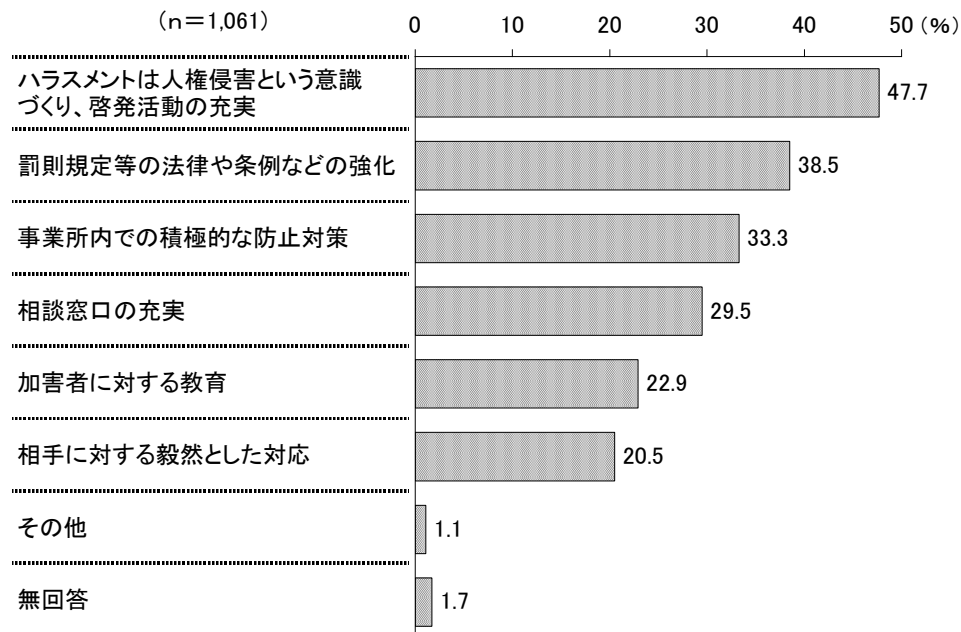
<職業別> ⑥容姿について繰り返し言うこと

容姿について繰り返し言うことについて、職業別でみると、「セクハラにあたる」は正社員・正規職員（61.6%）で高くなっている。「セクハラにあたる場合とそうでない場合もある」は学生（39.5%）で高くなっている。



(3) ハラスメントの被害をなくするために必要なこと

問21 ハラスメントの被害をなくするためにどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いもの2つに○をつけてください。

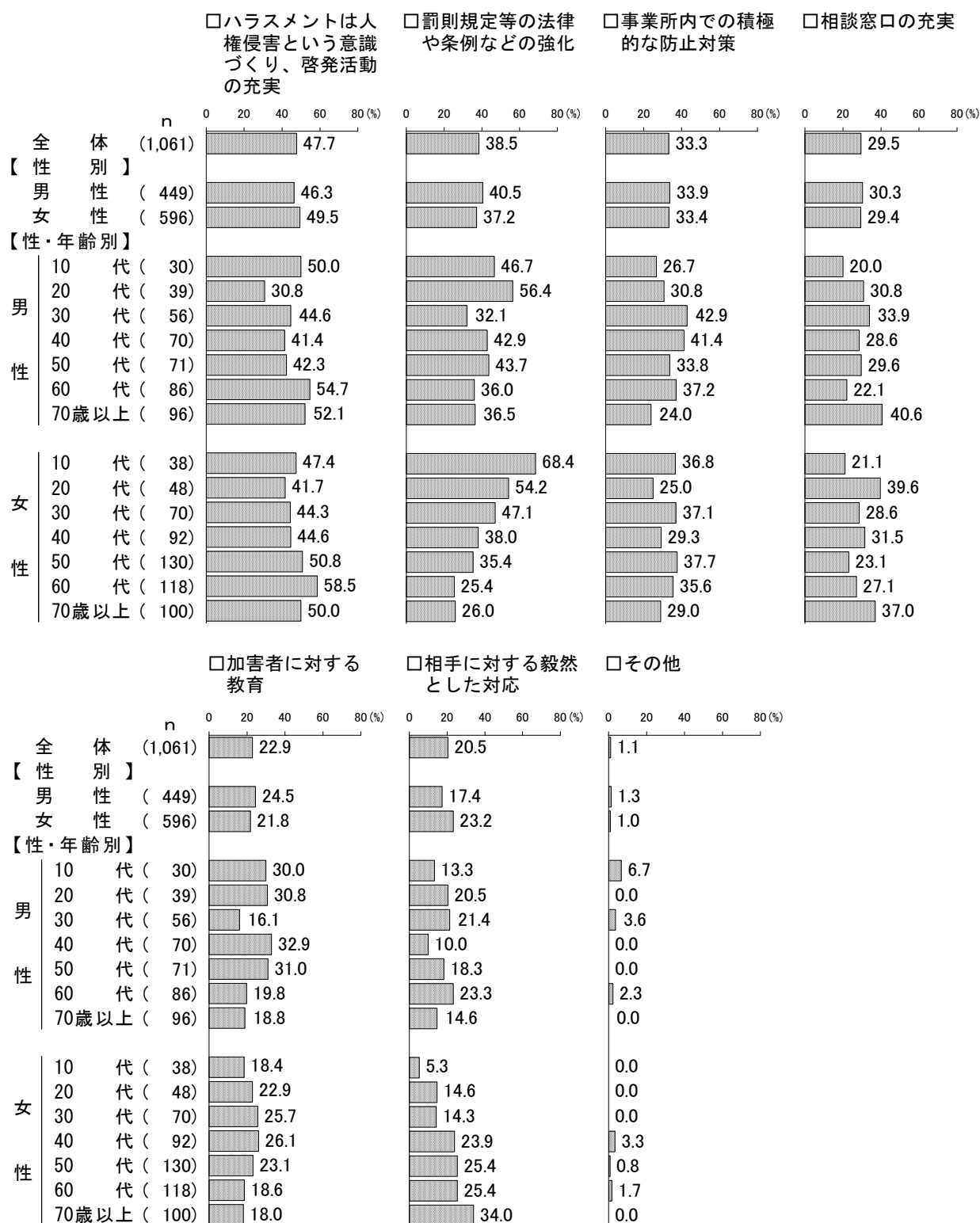


ハラスメントの被害をなくするためにどのようなことが必要だと思うか聞いたところ、「ハラスメントは人権侵害という意識づくり、啓発活動の充実」が47.7%で最も高く、次いで「罰則規定等の法律や条例などの強化」(38.5%)、「事業所内での積極的な防止対策」(33.3%)、「相談窓口の充実」(29.5%)となっている。

<性別、性・年齢別>

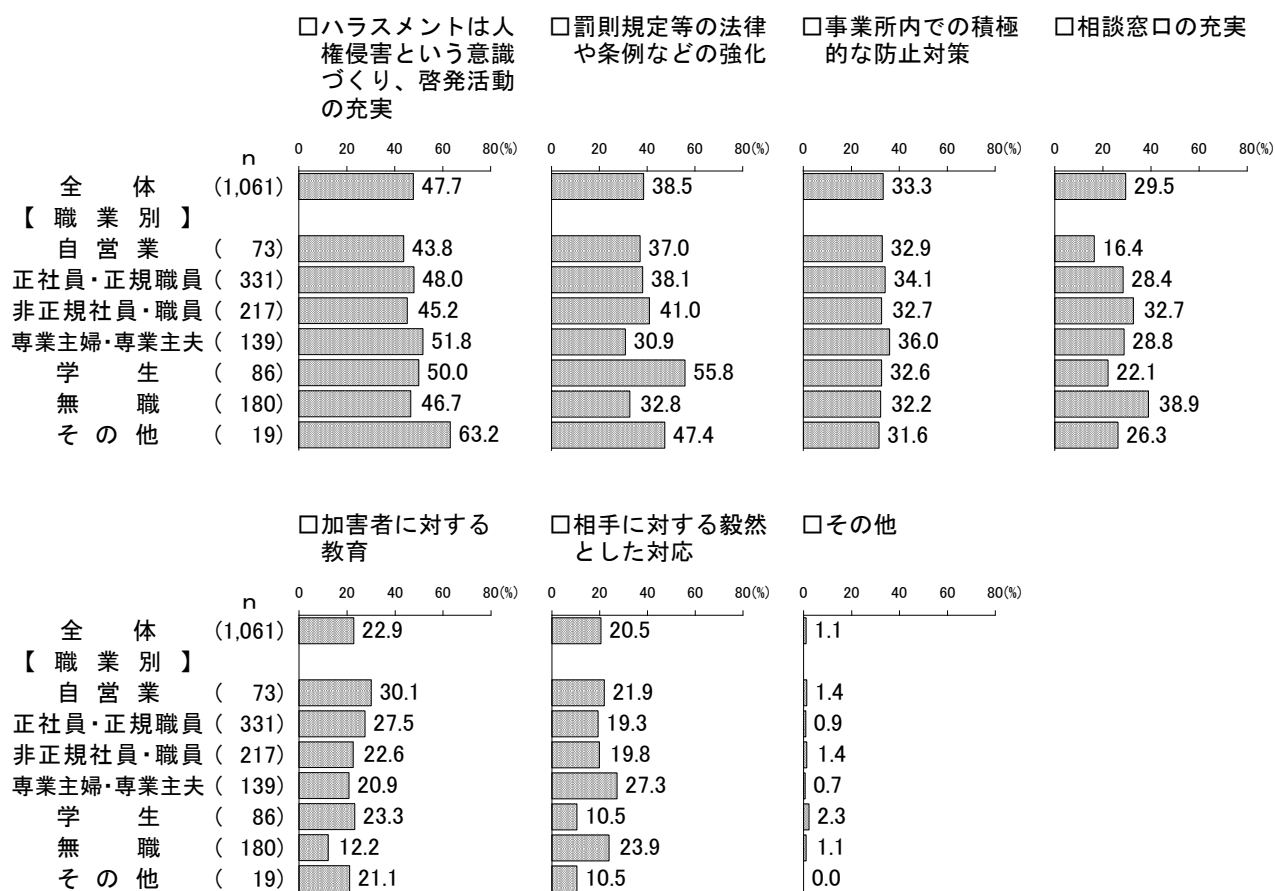
性別でみると、「相手に対する毅然とした対応」は女性（23.2%）が男性（17.4%）より5.8ポイント高くなっている。一方、「罰則規定等の法律や条例などの強化」は男性（40.5%）が女性（37.2%）より3.3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「ハラスメントは人権侵害という意識づくり、啓発活動の充実」は女性60代（58.5%）で高くなっている。「罰則規定等の法律や条例などの強化」は女性ではおおむね年齢が低くなるほど割合が高くなっており、女性10代（68.4%）で高くなっている。



<職業別>

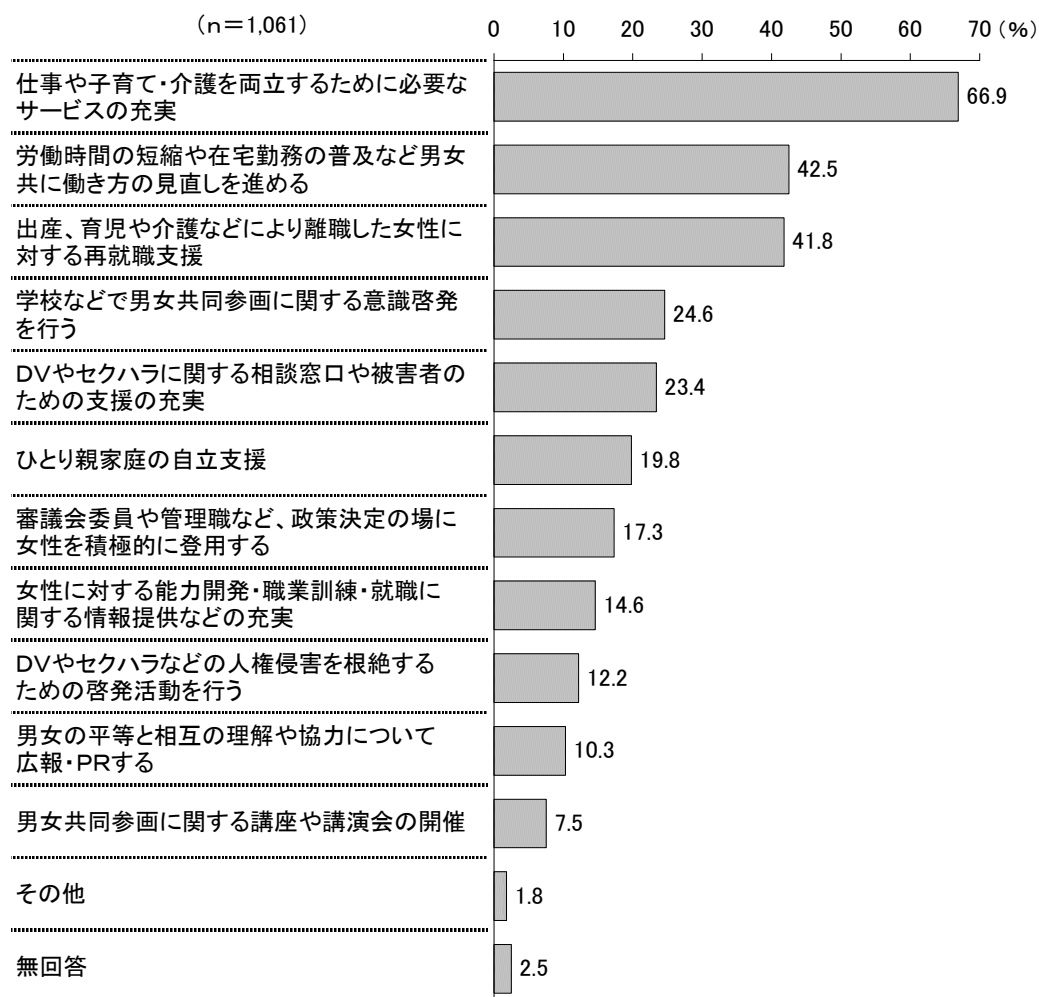
職業別でみると、「罰則規定等の法律や条例などの強化」は学生（55.8%）で高くなっている。「相談窓口の充実」は無職（38.9%）で高くなっている。



7 男女共同参画社会に関する行政への要望について

(1) 「男女共同参画社会」を実現するために必要な取り組み

問22 「男女共同参画社会」を実現するために、今後行政ではどのような取り組みが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いもの3つに○をつけてください。

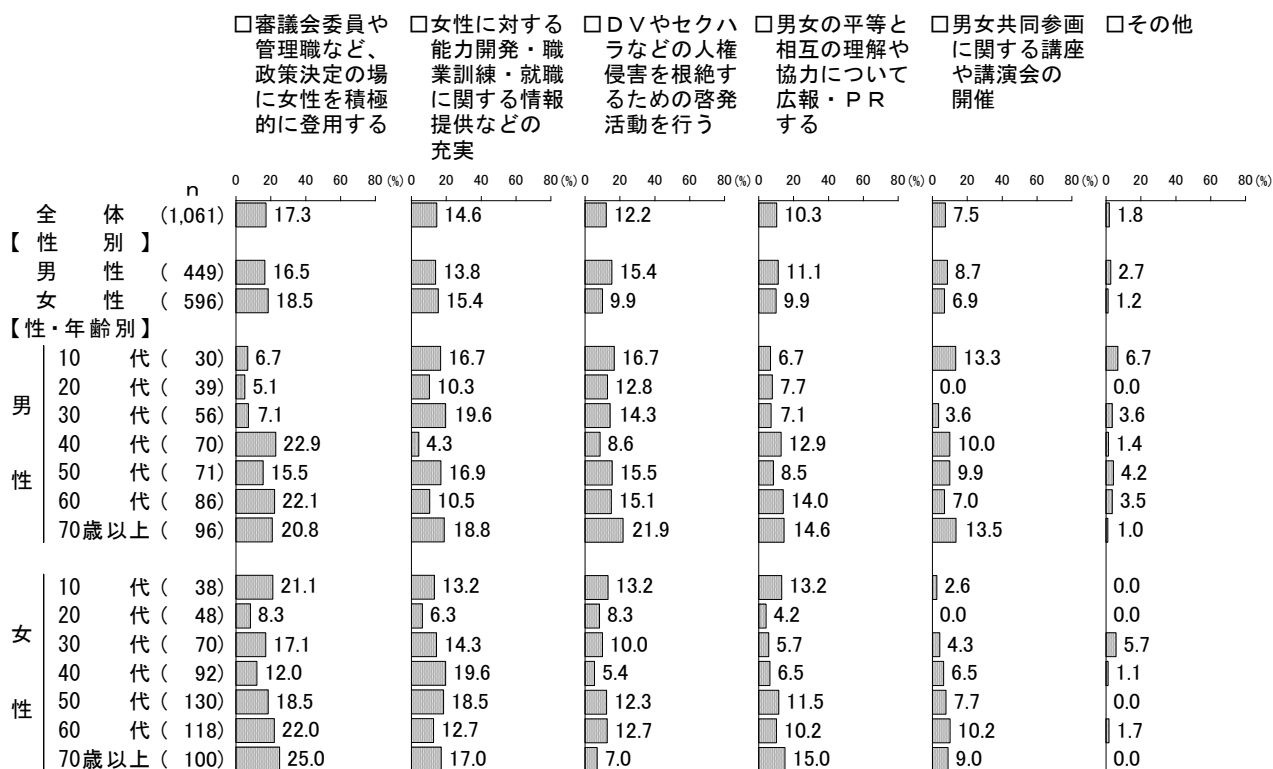
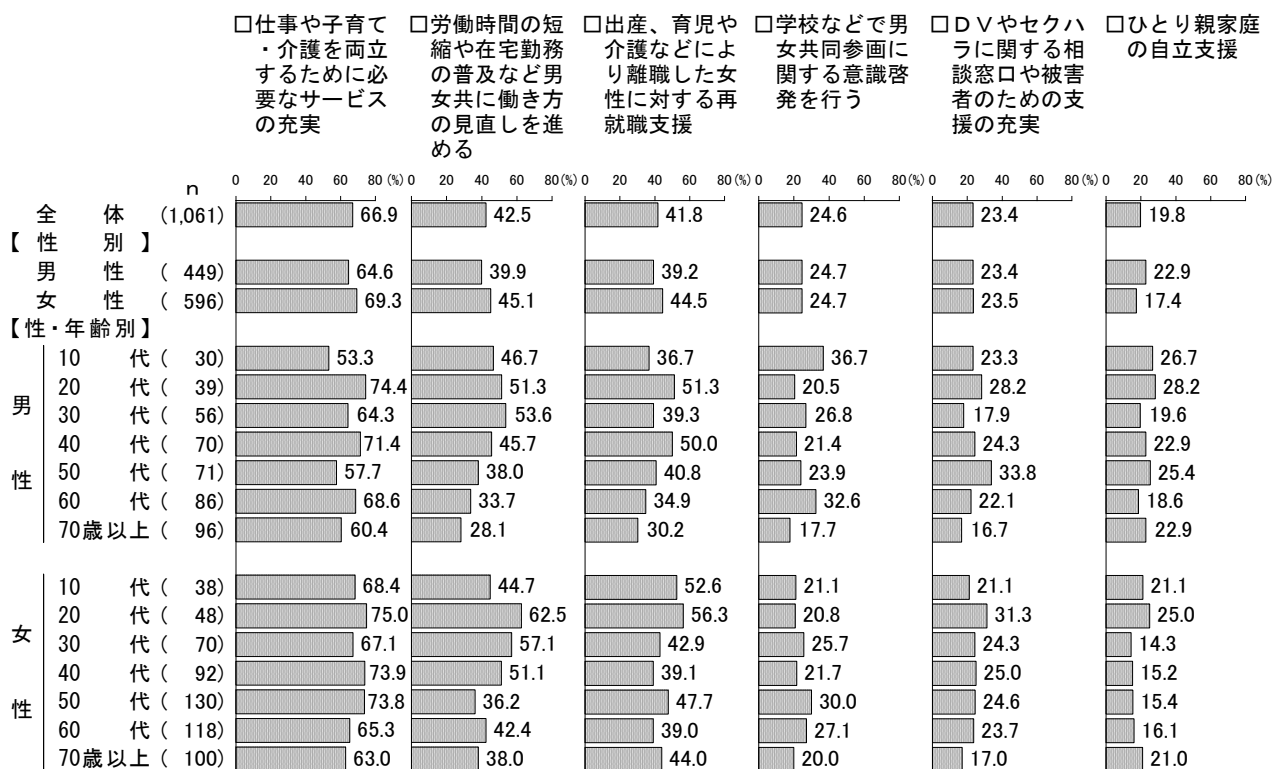


「男女共同参画社会」を実現するために、今後行政ではどのような取り組みが必要だと思うか聞いたところ、「仕事や子育て・介護を両立するために必要なサービスの充実」が66.9%で最も高く、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」(42.5%)、「出産、育児や介護などにより離職した女性に対する再就職支援」(41.8%)、「学校などで男女共同参画に関する意識啓発を行う」(24.6%)となっている。

<性別、性・年齢別>

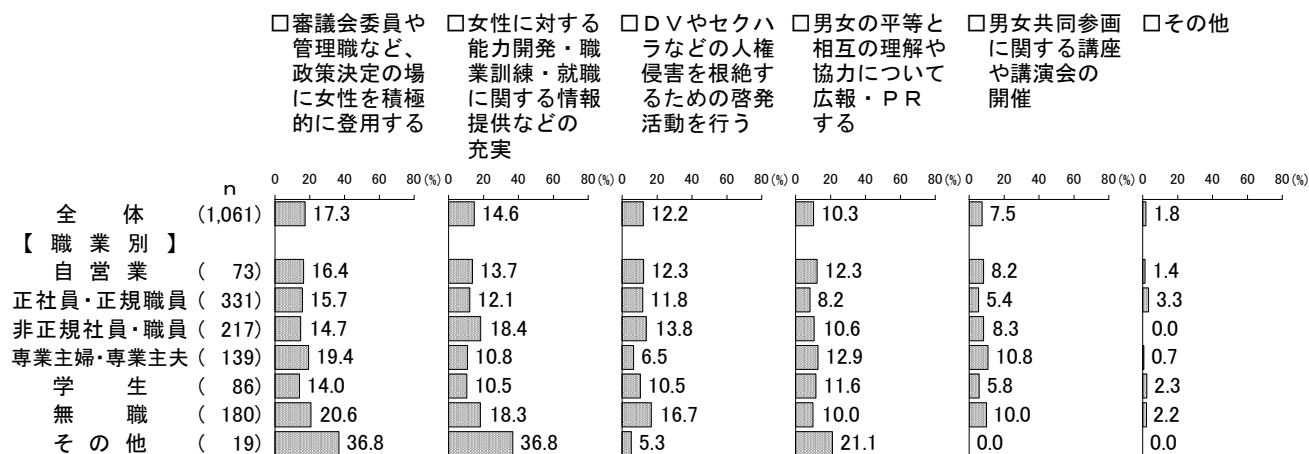
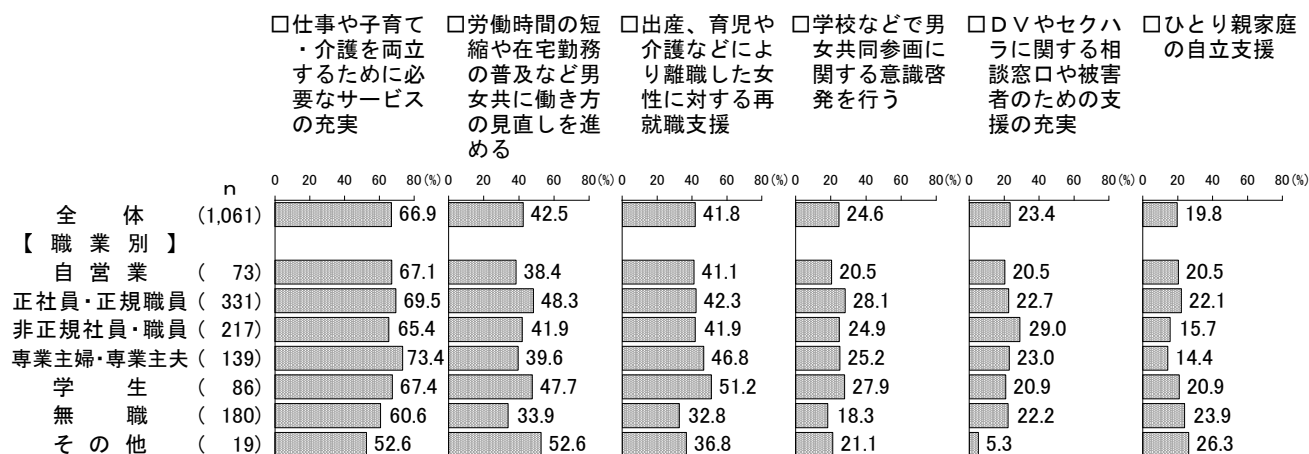
性別でみると、「ひとり親家庭の自立支援」は男性（22.9%）が女性（17.4%）より5.5ポイント、「DVやセクハラなどの人権侵害を根絶するための啓発活動を行う」は男性（15.4%）が女性（9.9%）より5.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「出産、育児や介護などにより離職した女性に対する再就職支援」は女性（44.5%）が男性（39.2%）より5.3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」は女性20代（62.5%）で高くなっている。「出産、育児や介護などにより離職した女性に対する再就職支援」は女性20代（56.3%）で高くなっている。



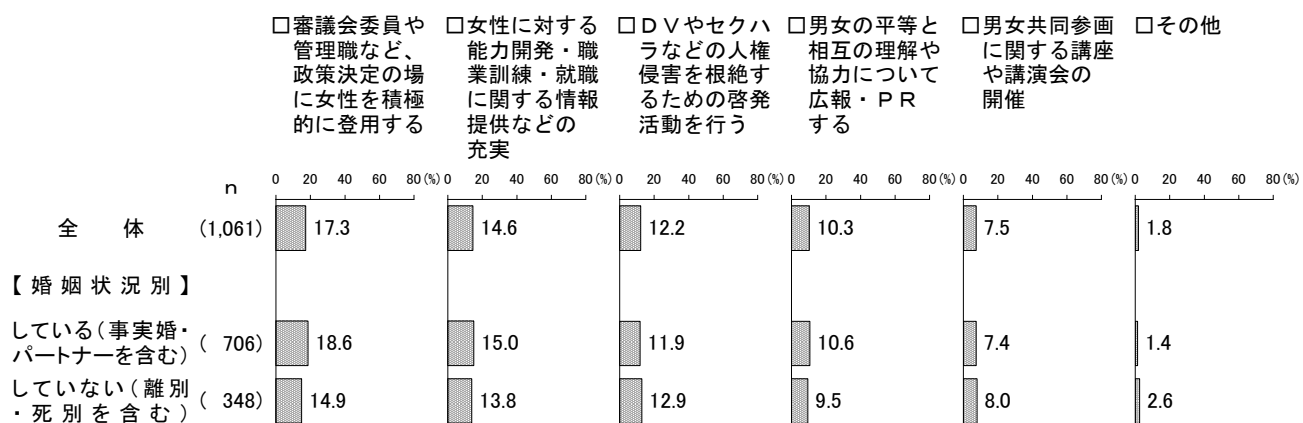
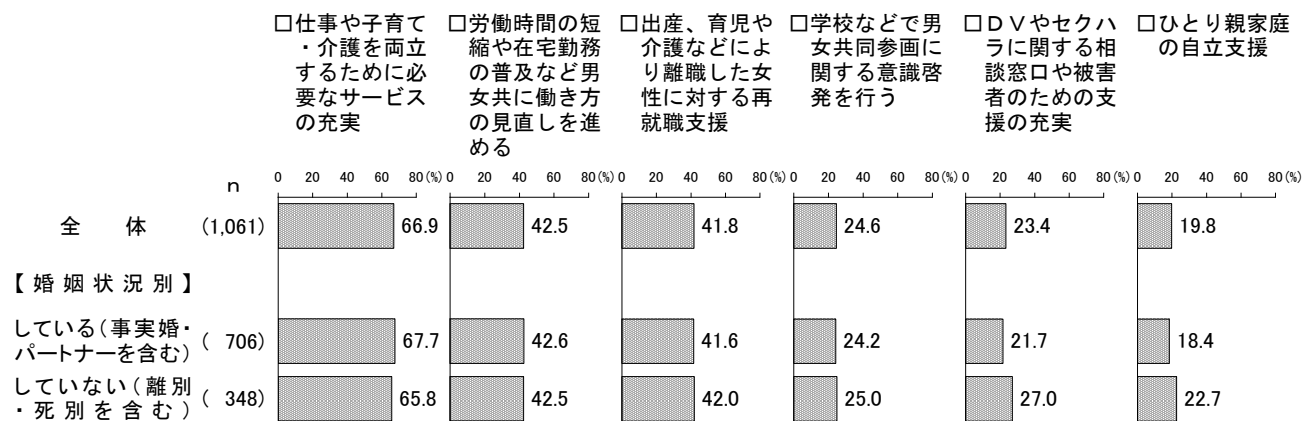
<職業別>

職業別でみると、「仕事や子育て・介護を両立するために必要なサービスの充実」は専業主婦・専業主夫（73.4%）で高くなっている。「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」は正社員・正規職員（48.3%）と学生（47.7%）で高くなっている。「出産、育児や介護などにより離職した女性に対する再就職支援」は学生（51.2%）で高くなっている。「学校などで男女共同参画に関する意識啓発を行う」は学生（27.9%）で高くなっている。「DVやセクハラに関する相談窓口や被害者のための支援の充実」は学生（20.9%）で高くなっている。「ひとり親家庭の自立支援」は学生（20.9%）で高くなっている。



＜婚姻状況別＞

婚姻状況別でみると、「DVやセクハラに関する相談窓口や被害者のための支援の充実」は結婚していない人（27.0％）が結婚している人（18.4％）より5.3ポイント、「ひとり親家庭の自立支援」は結婚していない人（22.7％）が結婚している人（18.4％）より4.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」は結婚している人（18.6％）が結婚していない人（14.9％）より3.7ポイント高くなっている。



Ⅲ 自由意見

Ⅲ 自由意見

問23 男女共同参画に関してご意見がありましたらご自由にご記入ください。

男女共同参画に関しての意見を自由に回答してもらったところ、142人から155件の回答が寄せられた。回答を分類し、代表的な意見を一部抜粋して掲載する。

1. 男女共同参画（社会）に関する意識について

- ・若い人には、男女共同等の意識はあります。現状を変える事、後世につながるシステムを今作る事が大事だと思います。
- ・家事や社会などお互いに参画し合うためには、お互いが声や手を出しやすい様に環境を整える必要があると思います。男女は平等ではあるが、性差は必ず存在します。分担する事は必ずしも悪ではないと考えます。我が家では朝食は夫、夕食は妻、昼食は自分でと分けています。
- ・男女比等の数字だけで判断するべきではない。
- ・男性だから、女性だからと性別で判断する考え方が多くある為に互いに居心地が悪くなる。性別ではなく、一人の人として個々の考え方を尊重できる社会になれば良いと思います。そもそも“男女共同参画”と男女と入れることもナンセンスかと…。
- ・男女共同を意識しすぎること、過剰な女性の優遇や働き方改革へのコンプラ対応だけが目立つような気がするので、平等や共同の本質を見直すことも大事かと思っています。
- ・まだ女性が社会的に自立出来ないのは、結婚＝家庭・子育てという意識が高いからだと思います。経済的に自立出来ないことから、常に内面的には男性の附属の位置にいます。それを当然と知らない間に受け入れている女性が多く、女性イコール、家事、子育てでは無いという意識を女性自身がもたなくてはいつまでも女性の自立は無いと思います。
- ・小田原市民の方々とコミュニケーションをしていると、男女共同参画社会への意識は東京と比べ20年、欧米とはそれ以上の遅れがあると思います。こうした意識に対する改革に取り組まないと、若年人口を増やしたり、企業の誘致もままならないのではないのでしょうか？
- ・今や、結婚・出産しても働く女性がほとんどです。会社・自治会・PTAなど男女の役割が残っているものは時代に取り残されていくでしょう。学校では男女の区別がなくなっているように思います。運動会の応援団長が全員女の子とか料理クラブの半数以上が男の子とか、子ども達にとってはもはや普通のようなようです。この子達が大人になった時には、男とか女とかなくなっていると思います。できる人ができる事をする世の中になっていくのではないのでしょうか。
- ・意識の問題が根底にあると思います。個人差はあっても、世代が変わっていけば少しずつ固定観念が弱まっていくことを期待します。一方で男性への逆差別もあると思うので偏りのない啓発が必要だと思います。
- ・両性の偏りがないように推進すべきと考える。
- ・言葉や問題提供することは、何年も前から行なわれて来ていると感じています。TVや雑誌とかでも良く目にし、耳にしますが、私が必要だと思うことは、このままでは良くないよねと言いながら、時間が過ぎて行くと、いつのまにか人ごとになっている自分があります。意識はしても、一人で行動を起こすには問題が大きい。

- ・ 女性側に比重を乗せすぎないよう、普通に考えて判断して欲しい。女性が権利を取るには、女性自身が力を付ける必要があり、社会が自然に理想に向かうと思う。

2. 出産・育児に関する意識について

- ・ 出産後の女性の体の負担を考えた社会の支援が増えるといいなと思っております。出産や妊娠はどうあっても男性が代われるものではないので…その分男性側が側で安心してサポートできるようになれば子育ても円滑にできるのではないかと思いますので、会社等で休暇＋支援等があったらいいのかな…と思います。
- ・ 現在の人は男性も子育てに参加しようという影響があるが、年のいった人は考えが変えられない人が多い。
- ・ 子どもを産むことができるのは女性のみなので、全ての女性が社会進出を目指すのではなく、子どもを産み、育てていきやすい社会を作るべき。
- ・ ワークライフバランスといっても職場では時短勤務者はほぼ毎日残業しています。制度はあっても使えないのが現実です。また女性の上司でもモラハラと感じる発言は多く見られます。あなたたちの分まで他の人は残業している。時短は本来、通勤に時間のかかる人が取る制度だ。時短だから…というように圧力を言動から感じます。子供がいても今まで通り仕事をしたい人もいるし、子が小さいうちは家庭を重視したい人もいます。1人1人にあった働き方ができる社会となるのが理想です。

3. 女性の活躍推進に関する意識について

- ・ リーダー的な人に女性がいる事により優秀な女性が発掘されやすくなる。又、リーダー的な男性に男女差別の考えがなければ、優秀な女性が引き上げられると思う。あらゆる組織の長が、男女差別の考えを持たなくなれば必然的に優秀な男女が発掘され、男女共同参画社会が実現できるのではないかな。
- ・ 現在の管理職世代の意識改革が必要。男性が働き女性が家庭を守るという考え方を持っている人がまだ多数をしめているように思える。
- ・ 日本にはまだまだ根強く誤ったジェンダー意識が人々の中に存在していると思う。様々な場で女性がもっと活躍できる、しかもそれが特別ではなく普通のこととして皆が思えるような世の中になって欲しい。
- ・ 能力のある女性はどんどん登用すべき。逆をいうと、数を増やすためだけに女性を増やすのは違うと思う。個人の能力によって男女関係なく判断すべき。
- ・ 女性が働き続ける事に対しては、周りの環境が整わなければ職場が理解を示しても状況は変わらないと感じています。
- ・ 自治体での女性の活躍を推進する。
- ・ 慣習やしきたりにより、どの分野でも男性優位な社会だと思います。現在、活躍されている女性の方をどんどん取り上げ、モデルケースを作っていただけると、女性にとっては参考になると思います。
- ・ 女性の社会参加が進んだとしても、管理職の多くは独身のキャリアウーマンです。今の日本では、一時、退職をしてしまうと職歴はキャリアアップにつながらず、パートしかないのが現状です。娘は2歳の子供がいるために、保育園に預けていても、パートの面接に落ちるんです。人手不足の日本の現状です。

- ・ 家事はどうしても女性が主となって行う事が多い為、分担が出来ないと女性がなかなか社会へ出て活躍する場を持つ事は難しいし、家族の理解がないと出来ないと思う。私も親に子供の面倒を見てもらい仕事をしていましたが介護の為、仕事をやめざるを得なかった。
- ・ 女性が職業を持ち続けることは賛成だが、自身も男性並みに長時間労働をしながら妊娠や育児をしていくことに不安がある。(不妊女性の増加は長時間労働が原因だと思うときがある。)自身も生理痛が重く、男性との肉体的な違いを感じ、完全な男女平等は難しいと感じる時があるが、意欲や能力のある女性が性別を理由に評価されなかったりすることはなくすべきだと思う。個人能力や体力、環境は男女関係なく様々なので、平等という概念をどう考えたらよいか、本当に難しいと思う。

4. 性の多様性について

- ・ L G B Tをひとくくりに考えるのではなく、性的マイノリティ独特の悩みに柔軟に対応すべきだと思います。しかし、他方で性的マイノリティの意見を尊重し過ぎるあまり、軋轢を生むような事案がないよう、気を配るべき。
- ・ 小学生頃から「性」に対することをしっかり学べる機会があれば良いと思います(学校の先生ではなく外部の方を招いて)。
- ・ 世の中にセクシュアルマイナリティーの人が結婚できずにいる所が多いと聞きます。この機会にそのことも考えるべきだと思います。例えばそういった相談所を設置する等。
- ・ 当方、トランスセクシュアル当事者です。「男女」共同参画という話はどうなのでしょう。設問の中にL G B Tについての質問もあるので「男女」にこだわらず、「みんな」を意識できる名称に改めると、もう少し身近なものに感じる人が多くなるかもしれません。そもそも、男女共同参画社会という名称自体かたすぎ、「行政が勝手にやっていて、自分には関係ない」と思われてしまうのではないのでしょうか。「我が事・丸ごと」の地域づくりが求められているのですし、誰もが身近なこととして、参加したくなる、希望や夢のある名称となると良いと思います。

5. DV(ドメスティック・バイオレンス)に関する意識について

- ・ DVやハラスメントは、加害者に自覚が無いことも多く、被害者も同様に、根絶するのは難しいと思うが、周囲の人間が気付いた時にすぐに保護できる法律と施設をもっと増やすべきだと思う。
- ・ 家庭の中で色々な問題が生じた時、加害者(夫)が優位に立つ場合が多いのでそうした場合、ただちに金銭面の解決を行政が判断し、被害者側が優位になるよう話を進めていただきたい。

6. ハラスメントに関する意識について

- ・ ハラスメントがどのような事か理解出来ない方が多いと思います。もっと啓発活動した方が良いと思います。会社や学校等で教育活動も大切だと思います。数年前は、ハラスメントとしてあつかわれていない事も、今は、ハラスメントです。
- ・ 結婚、妊娠による離職や退職転職の薦め・強要の無い職場づくりをして欲しいです。
- ・ セクハラなどのハラスメントは相手の感じ方にもよるものなので、判定は厳しいのではないかと根絶も難しいと思う。

7. 男女共同参画社会に関する行政への要望

- 男女共同参画の根源は、男・女が互いに尊重しあうところにあることから、「個の尊重」に重きをおいた活動の展開が望まれる。そのためにも広報紙や講演会等の開催等比較的取組みやすい行事を実施し、周知徹底を図ることを望む。
- 男女平等を訴えるだけでは平等の実現はできない。男女が納得できるような政策や具体的な取り組みについて今一度、見直すべきだ。
- 欧米、特に北欧の政策、法律等、男女平等の先進国を模範に。
- 行政は旗振りだけではなく、自らが実践すべきでは。公務員数、議員数、役職者、行政が率先して実行しなければ絶対に浸透しない。
- 企業によって労働時間の短縮や在宅ワークの取り組みを行っているが、一時的に市全体で取り組み強制するなど、働きやすさや子育ての充実がはかれるような動きをして欲しい。また、育休2年取得可能（早く切り上げることは自由）など育児の時間をもっととりやすくして欲しい。

8. 男女共同参画社会に関する教育の推進

- 思いやり、弱者に対する優しさをつくる環境づくり・教育、相手の気持ちを考える教育・指導が必要である。幼稚園、小学校から。
- 子供のころから教育をし、男女共同社会を啓発する。体力格差が男と女にはあるので、女性を守る男の子を教育する。育児という大問題を持つ女性を理解した男の子を育てる。罰則強化と再教育施設を作る。
- 現在の職場は女性のリーダーもいて平等感が強いが、職を離れた（リタイアした）60代以上の意識改革が必要。セクハラ、パワハラ、モラハラ等なんでもありの世代は、男女共同参画など考えていない。現在の20～40代はいろいろな“ハラ”に気を付けなくてはならないので、それはそれで大変。
- 小さい頃からの女性の意識改革が大切。親が子育ては母親という時代に生きているため、それを見て育っているため、社会全体が1人の人間として仕事をするのがあたり前という意識を持たなくてはならないと思います。
- 大人になって意識をかえようとしてもなかなかできないので子供のころから家庭であったり学校であったりそういう環境もつくってあげれば培かわれるものなのかなあー。

9. アンケートについて

- 今回初めて意見する良い機会を頂きありがとうございました。自分自身のことも含め男女共に悩み多き現在の状況で、時代に則してもっと良い世の中が来ると信じてアンケートさせてもらい、その上でこの参加が意味のあることにつながればいいと感じています。一人の声が日本を良くするならば、またどんな形でも声をあげたいです。一人の声が100人、1,000人、日本中の令和の声として実を結んでくれたらこれほど嬉しいことはありません。
- このアンケートの設問をみているかぎり、まだまだ遠いなと思いました。

- ・ 回答が難しかった。特に問11について、自分は家庭に入りたくて退職したが、「～の方が良い」とは思わない。問10についても、子どもはかわいいので、そのかわいさを肌でしっかり感じて欲しいが「すべき」とは思わない（感じないと、もったいない）。男女共同参画について、意識が高まりました。機会を与えてくださり、ありがとうございました。

10. その他

- ・ 夫が家庭への支援。
- ・ 「男女共同参画」という言葉を初めて目にしました。自分が知らなかっただけだとは思いますが、世間的にも良く使われているのでしょうか？内容を見て、こういう事かと分かりました。もっと、この言葉を広めればよいと思いました。
- ・ 男女問わず、労働時間の短縮と大幅賃上げが必要。それと同時に男女賃金格差解消、非正規雇用をなくすこと、家事の均一資格を前提とした職場人員配置が必要。
- ・ 何をもって男女の平等としているのか？外でよく、「レディースデー」や「女性専用～」のようなことを良く見るが、それは平等なのか？むしろ、女性優遇のことが増えていると感じることが多い。

IV 使用した調査票

男女共同参画市民意識調査

～「男女共同参画に関する市民アンケート調査」ご協力をお願い～

市民の皆様には日頃より市政に対しましてご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本市では、令和 2 年度に「次期おだわら男女共同参画プラン」の策定を予定しており、その基礎資料として本調査を実施いたします。

本調査は、小田原市内にお住いの 18 歳以上（令和元年 10 月 1 日現在のデータに基づいております）の男女 3,000 人を無作為抽出にてお選びし、そのお一人としてあなた様にアンケートのご協力をお願いするものです。

お忙しいところを大変申し訳ありませんが、このアンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、このアンケート調査の結果は統計的に整理いたしますので、ご回答いただいた方が特定されたり、他の目的に使用することはありません。

調査結果につきましては、報告書にまとめ、小田原市役所などでご覧いただけるほか、小田原市のホームページでも公開する予定です。

令和元年（2019 年）11 月

小田原市長 加 藤 憲 一

＜記入方法について＞

- ・この調査票は、あて名の方ご自身のお考えでご記入ください。あて名の方がご記入できない場合は、ご家族の方がご記入いただいても構いません。
- ・ご回答は、当てはまる番号に○をつけてください。「その他」に○をつけた場合は、（ ）内にその内容をご記入ください。
- ・一部の方だけにご回答いただく設問もあります。その場合は、指示文に従ってご回答ください。

＜提出について＞

ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れ、**11 月 29 日（金）**までにご返送をお願いいたします。

＜お問い合わせ＞

アンケート調査についてご不明な点がございましたら、恐れ入りますが下記電話またはメールにてお問い合わせください。

小田原市 市民部 人権・男女共同参画課

電話 0465-33-1725

月曜日から金曜日（祝日を除く）8:30～17:15

E-mail : jinken@city.odawara.kanagawa.jp

男女共同参画（社会）に関する意識についてお聞きします。

問1 男女共同参画に関する次の言葉のなかで、あなたが知っているまたは聞いたことがある言葉すべてに○をつけてください。

1. 男女共同参画社会
2. ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）
3. 男女雇用機会均等法
4. 育児休業・介護休暇制度
5. ドメスティック・バイオレンス（DV）
6. ポジティブ・アクション（男女間の格差を解消するための積極的取り組み）
7. イクメン、イクジイ（積極的に育児参加する男性）
8. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
9. リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）
10. 女性活躍推進法
11. デートDV（交際相手からふるわれる暴力）
12. JKビジネス（若年層の性を利用してお金を稼ぐビジネス）
13. マタハラ、パタハラ（妊娠・出産・育児休業などを理由とする嫌がらせ）
14. ダブルケア（子育てと介護を同時期にすること）
15. 小田原市パートナーシップ登録制度
16. すべて知らない

問2 次の①から⑧の各分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

	男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇
（記入例）⇒	1	2	3	4	5
① 家庭生活	1	2	3	4	5
② 職場	1	2	3	4	5
③ 学校教育	1	2	3	4	5
④ 政治の場	1	2	3	4	5
⑤ 法律や制度上	1	2	3	4	5
⑥ 社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5
⑦ 地域活動（自治会、PTA、ボランティアなど）	1	2	3	4	5
⑧ 社会全体	1	2	3	4	5

問3 あなたは、次にあげるような役職に「女性がもっと増える方がよい」と思いますか。あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない
① 職場の管理職	1	2	3
② 市の審議会等の委員	1	2	3
③ 市議会議員	1	2	3
④ 自治会長	1	2	3
⑤ 地域の防災リーダー	1	2	3
⑥ PTA会長	1	2	3

問4 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるどのような影響があると思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される
2. 人材・労働力の確保につながり、社会全体が活性化する
3. 女性の声が反映されやすくなる
4. 男女問わず意欲ある人材が活躍できるようになる
5. 男女問わず仕事と家庭のバランスのとれた生活ができるようになる
6. 労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
7. 男性の家事・育児・介護などへの参加が増える
8. 今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる
9. 男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる
10. 保育・介護などのサービスの必要性が増大する
11. その他（ ）

問5 職場や地域活動等の場において、女性の管理職や役員は男性に比べて少ないのが現状です。このような政策決定の場に女性の参画が少ない理由について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1. 男性優遇の組織運営になっているから | 5. 女性側の積極性が十分でないから |
| 2. 家事・育児・介護などで忙しいから | 6. 女性はリーダー学習などの経験が十分でないから |
| 3. 男女の性別役割分担意識が強いから | 7. その他（ ） |
| 4. 家族の支援や協力が得られないから | |

問6 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的性別役割分担意識についてどのように思いますか。あてはまる番号 1 つに○ をつけてください。

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対 ⇒問7へ
4. 反対 ⇒問7へ
5. わからない ⇒問7へ

(問6で、「1. 賛成」または「2. どちらかといえば賛成」と回答した方にお伺いします。)

問6-1 そのように思った理由について、あてはまる番号 すべてに○ をつけてください。

1. 自分の両親も役割分担をしていたから
2. 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
3. 妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
4. 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから
5. 日本の伝統的な家族のあり方だと思うから
6. その他 ()

問7 家庭の仕事の分担について、あてはまる番号に それぞれ1つずつ○ をつけてください。

「現在」の欄は配偶者（事実婚を含む）のいる方のみお答えください。

「理想」の欄は すべての方 がお答えください。

	「現 在」					「理 想」				
	夫婦 半々	おもに 妻	おもに 夫	その他 の人	該当 しない	夫婦 半々	おもに 妻	おもに 夫	その他 の人	該当 しない
(記入例) ⇒	1	②	3	4	5	①	2	3	4	5
① 家事	1	2	3	4		1	2	3	4	
② 育児・子育て	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
③ 地域活動	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
④ 介護	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問8 育児休業や介護休業を取る男性は、女性に比べて少ないのが現状です。この理由についてどのようにお考えですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 職場の理解を得られないから
2. 職場の仲間に申し訳ないと思うから
3. 昇進や昇給に影響する恐れがあるから
4. 休業後の職場復帰に不安があるから
5. 仕事の量、責任が重いから
6. 休業中は収入がなくなり、家計を維持できないから
7. 女性の方が育児や介護に向いているから
8. その他（ ）

問9 男性の家事・育児参加についてどのようにお考えですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 男性に家事・育児参加の必要性について意識啓発を行うべきである
2. 参加したくても労働環境により参加できない現状がある
3. 男性がもつ「夫は外で働き」という社会通念をなくすべきである
4. 男性はもっと家事・育児参加に関心を持つべきである
5. 男性は家事・育児参加にそれほど関心を持たなくてよい
6. その他（ ）

出産・育児に関する意識についてお聞きします。

問10 出産・育児について、あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

	賛成	反対	どちらとも いえない
① 子どもを産む、産まない、いつ何人産むかは女性本人の意思を尊重すべきである	1	2	3
② 子どもの保育を人に任せてまで仕事をするべきではない	1	2	3
③ 3歳までは母親の手で育てるべきだ	1	2	3
④ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい	1	2	3

女性の活躍推進に関する意識についてお聞きします。

問 11 あなたは女性が職業を持つことについてどのようにお考えですか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 女性は職業を持たない方がよい
2. 結婚するまでは職業を持つ方がよい
3. 子どもができるまでは職業を持ち続ける方がよい
4. 結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい
5. 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
6. その他（ ）
7. わからない

問 12 女性は男性に比べ、就職しても途中で離職する割合が高いですが、女性が働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いもの 3 つに○をつけてください。

1. 保育所や介護施設などの整備
2. 家事・育児支援サービスの充実
3. 育児休業・介護休業中の賃金や福利厚生などの充実
4. 男女双方の長時間勤務の改善
5. フレックスタイム制や在宅勤務など多様な働き方の推進
6. 昇進、賃金などの男女間格差の解消
7. 女性が働き続けることに対する家族などの理解と協力
8. 女性が働き続けることに対する職場の理解と協力
9. 働き続けることへの女性自身の意識改革
10. 男性が家事に参加することへの理解・意識改革
11. その他（ ）

性の多様性についてお聞きします。

問 13 あなたは、セクシュアル・マイノリティ（または LGBT 等）という言葉を知っていますか。
あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 14 あなたは、今までに自分の身体の性や心の性、または性的指向（同性愛など）に悩んだことはありますか。または、身近に悩んでいる人がいますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 自分自身が悩んでいる（自分自身が悩んでいた）
2. 家族や知人が悩んでいる（家族や知人が悩んでいた）
3. 特に悩みはない（悩んでいる家族や知人はいない）

問 15 現在、セクシュアル・マイノリティ（または LGBT 等）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 思う | 3. どちらかといえば思わない ⇒問16へ |
| 2. どちらかといえば思う | 4. 思わない ⇒問16へ |

(問 15 で、「1. 思う」または「2. どちらかといえば思う」と回答した方にお伺いします。)

問 15-1 セクシュアル・マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、セクシュアル・マイノリティの方々が生活しやすくなるためどのような対策が必要だと思いますか。あてはまる番号2つに○をつけてください。

1. 行政が市民等へ周知啓発を行う
2. 相談窓口等を充実させ、周知する
3. 生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校職員や行政職員への研修等を行う
4. 法律等に、セクシュアル・マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する
5. 当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う
6. 働きやすい職場環境づくりの取り組みをする
7. 学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える
8. その他（ ）
9. わからない

DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する意識についてお聞きます。

問 16 あなたは、次のようなことが夫婦や恋人などの間で行われた場合、暴力だと思いますか。
あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

	暴力にあたる	暴力にあたる場合と そうでない場合もある	暴力にはあたらない	わからない
① 交友関係や電話を細かく監視する	1	2	3	4
② 何を言っても長期間無視し続ける	1	2	3	4
③ 大声でどなる	1	2	3	4
④ なぐるふりをして、おどす	1	2	3	4
⑤ 性的な行為を強要する	1	2	3	4
⑥ 平手で打つ	1	2	3	4
⑦ 足でける	1	2	3	4
⑧ 刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3	4
⑨ 生活費を渡さない	1	2	3	4

問 17 問 16 の①から⑨のような行為を受けた経験はありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 経験がある

2. 経験はない ⇒問18へ

（問 17 で、「1. 経験がある」と回答した方にお伺いします。）

問 17-1 問 16 の①から⑨のような行為を受けたことをだれ（どこ）かに相談しましたか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 相談した

2. 相談しなかった ⇒問17-3へ

（問 17-1 で、「1. 相談した」と回答した方にお伺いします。）

問 17-2 だれ（どこ）に相談しましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 家族・親戚

5. 市や県の相談窓口

2. 友人・知人・同僚

6. 民間の相談窓口

3. 同じような経験をした人

7. その他（ ）

4. 弁護士・警察・医師・カウンセラーなど

⇒問 18 へお進みください

(問 17-1 で、「2. 相談しなかった」と回答した方にお伺いします。)

問 17-3 相談しなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. だれ(どこ)に相談したらよいか分からなかったから
2. 相談するのが恥ずかしかったから
3. 世間体が悪いから
4. 相談しても無駄だと思ったから
5. 相談したことが分かれると仕返しされと思ったから
6. 自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから
7. 他人に迷惑をかけたくなかったから
8. 自分にも悪いところがあると思ったから
9. 相談するほどのことではないと思ったから
10. そのことについて思い出したくなかったから
11. その他()

問 18 DVの被害をなくすためにどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いもの2つに○をつけてください。

1. 被害者のための保護施設の整備
2. 被害者のための相談機関の整備
3. 加害者に対する教育
4. 加害者への罰則強化
5. 暴力を防止するための教育や啓発の充実
6. 男女間の経済的、社会的格差の解消
7. テレビ、雑誌、インターネット、マンガなどにおける暴力的な情報の規制
8. その他()
9. 有効な手段はない

ハラスメントに関する意識についてお聞きします。

問 19 あなたは、直近 5 年以内に職場や家庭などでハラスメント（嫌がらせ）を受けたことはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. セクハラ（性的な嫌がらせ）
2. パワハラ（職権などを背景にした嫌がらせ）
3. モラハラ（言葉や態度により、精神的な苦痛を相手に与える嫌がらせ）
4. マタハラ・パタハラ（妊娠・出産・育児休業などを理由とする嫌がらせ）
5. その他（ ）
6. 受けていない（受けたかどうか分からない）

問 20 あなたは、次のようなことが男女間で行われた場合、セクシュアル・ハラスメントだと思いますか。あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

	セクハラにあたる	セクハラにあたる場合と そうでない場合もある	セクハラにあたらない	わからない
① 職場や公共の場での性的な冗談	1	2	3	4
② 職場や公共の場での水着やヌードのポスター	1	2	3	4
③ 「女（男）のくせに」など差別的な言葉	1	2	3	4
④ 不必要に身体をさわること	1	2	3	4
⑤ 結婚、出産などプライベートなことをたびたび聞くこと	1	2	3	4
⑥ 容姿について繰り返し言うこと	1	2	3	4

問 21 ハラスメントの被害をなくすためにどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いものの2つに○をつけてください。

1. 相談窓口の充実
2. 罰則規定等の法律や条例などの強化
3. 事業所内での積極的な防止対策
4. ハラスメントは人権侵害という意識づくり、啓発活動の充実
5. 加害者に対する教育
6. 相手に対する毅然とした対応
7. その他（

男女共同参画社会に関する行政への要望についてお聞きます。

問 22 「男女共同参画社会」を実現するために、今後行政ではどのような取り組みが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いもの3つに○をつけてください。

1. 仕事や子育て・介護を両立するために必要なサービスの充実
2. DVやセクハラに関する相談窓口や被害者のための支援の充実
3. DVやセクハラなどの人権侵害を根絶するための啓発活動を行う
4. ひとり親家庭の自立支援
5. 女性に対する能力開発・職業訓練・就職に関する情報提供などの充実
6. 出産、育児や介護などにより離職した女性に対する再就職支援
7. 男女共同参画に関する講座や講演会の開催
8. 学校などで男女共同参画に関する意識啓発を行う
9. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める
10. 審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
11. 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする
12. その他（ ）

問23 男女共同参画に関してご意見がありましたらご自由にご記入ください。

--

あなたご自身のことについてお聞きします。

問 24 あなたの性別は。

1. 男性 2. 女性 3. その他 ※

※「3. その他」とは、セクシュアル・マイノリティの方を考慮した選択肢です。戸籍上の性別とは関係なく、ご自身の主観でご記入ください。

問 25 あなたの年齢は。

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代
5. 50代 6. 60代 7. 70歳以上

問 26 あなたのご職業は。

- | | |
|---------------------------------|--------------|
| 1. 自営業 | 4. 専業主婦・専業主夫 |
| 2. 正社員・正規職員 | 5. 学生 |
| 3. パート、アルバイト、派遣社員等の
非正規社員・職員 | 6. 無職 |
| | 7. その他（ ） |

問 27 あなたは結婚していますか。

- | |
|--------------------------|
| 1. している（事実婚・パートナーを含む） |
| 2. していない（離別・死別を含む） ⇒問28へ |

（問 27 で、「1. している（事実婚・パートナーを含む）」と回答した方にお伺いします。）

→ 問 27-1 配偶者・パートナーの方のご職業は。

- | | |
|---------------------------------|--------------|
| 1. 自営業 | 4. 専業主婦・専業主夫 |
| 2. 正社員・正規職員 | 5. 学生 |
| 3. パート、アルバイト、派遣社員等の
非正規社員・職員 | 6. 無職 |
| | 7. その他（ ） |

問 28 あなたの家族構成は。

- | |
|-----------------------------|
| 1. 単身 ⇒問29へ |
| 2. 夫婦のみ（事実婚・パートナーを含む） ⇒問29へ |
| 3. 2世代世帯（親と子ども、夫婦と親 など） |
| 4. 3世代世帯（祖父母と親と子 など） |
| 5. その他（ ） ⇒問29へ |

（問 28 で、「3. 2世代世帯」または「4. 3世代世帯」と回答した方にお伺いします。）

→ 問 28-1 中学生以下のお子さんは何人いらっしゃいますか。

- | | | | |
|-------|-------|---------|--------|
| 1. 1人 | 2. 2人 | 3. 3人以上 | 4. いない |
|-------|-------|---------|--------|

問 29 あなたのご家族に介護が必要な方はいらっしゃいますか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

～ ご協力ありがとうございました ～

小田原市男女共同参画市民意識調査 報 告 書

令和 2 年 2 月発行

調査主体 小田原市 市民部 人権・男女共同参画課
〒250-8555 小田原市荻窪 300 番地
電話 0465-33-1725（直通）

調査実施 株式会社エスピー研
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3 丁目 11 番 20 号
電話 03-3239-0071（代表）